

# Symantec NetBackup™ for Enterprise Vault™ Agent 管理 者ガイド

Windows

リリース 7.6



本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 7.6

マニュアルバージョン: 7.6

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2013 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec のロゴ、チェックマークのロゴは、Symantec Corporation または同社の米国および他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる TRIP ReadMe File を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19 「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation  
350 Ellis Street  
Mountain View, CA 94043  
<http://www.symantec.com>



# 目次

第 1 章	NetBackup Enterprise Vault の概要 .....	9
	Enterprise Vault について .....	9
	Enterprise Vault Agent の新機能 .....	10
	NetBackup Enterprise Vault Agent について .....	10
	Enterprise Vault Agent とバックアップコンポーネントについて .....	11
	Enterprise Vault Agent の機能 .....	14
	Enterprise Vault Agent の要件 .....	16
第 2 章	NetBackup Enterprise Vault Agent のインストール要件について .....	19
	NetBackup Enterprise Vault Agent のインストール要件 .....	19
	Enterprise Vault Agent のオペレーティングシステムの互換性の確認 .....	20
	NetBackup サーバーとクライアントソフトウェアの要件 .....	20
	Enterprise Vault による Enterprise Vault Agent のサポート .....	21
	クラスタの Enterprise Vault Agent のインストールの要件について .....	21
	Enterprise Vault データベースを保護するための Enterprise Vault Agent の構成 .....	22
	Enterprise Vault Agent のライセンスキーの追加 .....	24
	Enterprise Vault Agent のアップグレードに関する構成要件 .....	25
	Enterprise Vault のアップグレード後に実行する必要がある構成の変更 .....	26
	NetBackup および Enterprise Vault のアップグレード後のポリシー指示句の構成 .....	27
	Enterprise Vault 9.0 へのアップグレード .....	30
	Enterprise Vault 10.0 へのアップグレード .....	30
第 3 章	構成 .....	31
	Windows と Java のユーザーインターフェースについて .....	31
	Enterprise Vault サーバーのログオンアカウントを指定する方法 .....	32
	VSS ベースのスナップショットの構成について .....	33
	Enterprise Vault のバックアップ用のローカルメディアサーバーの構成 .....	35
	Enterprise Vault のバックアップポリシーの構成要件 .....	36

	新しい Enterprise Vault ポリシーの追加 .....	37
	Enterprise Vault のバックアップポリシーの属性 .....	38
	Enterprise Vault ポリシーへのスケジュールの追加 .....	39
	Enterprise Vault のバックアップ形式について .....	40
	バックアップ対象リストの作成 .....	42
	ポリシーへのクライアントの追加 .....	45
<b>第 4 章</b>	<b>Enterprise Vault によってバックアッププロバイダに 提供される機能について .....</b>	<b>47</b>
	バックアップ前の Enterprise Vault の静止について .....	47
	Enterprise Vault サービスの静止と静止解除の切り替えについて .....	48
	個別静止について .....	49
	セーフコピーとバックアップの管理について .....	50
	パーティションの安全通知ファイルについて .....	51
	アーカイブビットについて .....	52
<b>第 5 章</b>	<b>Enterprise Vault のバックアップの実行 .....</b>	<b>53</b>
	Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについ て .....	53
	Enterprise Vault のリソースの手動バックアップ .....	60
	アクティビティモニターからの Enterprise Vault のバックアップジョブの取 り消し .....	61
<b>第 6 章</b>	<b>Enterprise Vault のリストアの実行 .....</b>	<b>63</b>
	Enterprise Vault のデータのリストアに関する重要な注意事項 .....	64
	Enterprise Vault サーバーの管理サービスの停止 .....	65
	バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースについて .....	65
	Microsoft SQL Server Management Studio を使用したバックアップデー タの表示 .....	66
	Enterprise Vault のデータのリストア .....	68
	[全般 (General)] タブの Enterprise Vault のリストアオプションについ て .....	69
	[Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)] タブについて .....	71
	リストア用のサーバー、クライアントおよびポリシー形式の指定 .....	74
	Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリストアについて .....	76
	Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア .....	77
	Enterprise Vault SQL データベースのリストアについて .....	79
	バックアップイメージのリストアセットについて .....	80
	Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア .....	83

<b>第 7 章</b>	<b>ディザスタリカバリ</b> .....	87
	Enterprise Vault サーバーのディザスタリカバリの要件 .....	87
	Enterprise Vault サイトのディザスタリカバリについて .....	88
	ディレクトリデータベースのリカバリ .....	89
	監査データベースのリカバリ .....	89
	FSA レポートデータベースのリカバリ .....	90
	監視データベースのリカバリ .....	91
	インデックスの場所のリカバリ .....	91
	Enterprise Vault のボルトストアグループのリカバリ .....	92
	フィンガープリントデータベースのリカバリ .....	93
	ボルトストアデータベースのリカバリ .....	95
	ボルトストアパーティションのリカバリ .....	95
	Enterprise Vault パーティションのリカバリ .....	96
	Enterprise Vault サーバーのリカバリ .....	97
	異なるシステムの Enterprise Vault サーバーのリカバリ .....	98
<b>第 8 章</b>	<b>Enterprise Vault Agent による EV 7.5、8.0 以降の サポート</b> .....	101
	Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンのポリシーの構成 .....	102
	オープンパーティション、ボルトストアデータベース、およびフィンガー プリントデータベースの一貫性 .....	102
	クローズパーティションおよび準備完了パーティションの一貫性 .....	102
	インデックスの場所の一貫性 .....	103
	ディレクトリデータベースの一貫性 .....	103
	Enterprise Vault 10.0 のバックアップに関する注意事項 .....	103
	インデックスの場所のエクスクルードファイルリスト .....	104
	ボルトパーティションのエクスクルードファイルリスト .....	104
	エクスクルードリストによるファイルの除外 .....	104
	Enterprise Vault 7.5 のポリシーの作成用の指示句 .....	105
	バックアップスケジュールの計画について .....	106
	Enterprise Vault ポリシーのホストについて .....	107
	Enterprise Vault ツールについて .....	108
	Enterprise Vault Agent のバックアップについて .....	108
	Enterprise Vault のバックアップの権限 .....	109
	Enterprise Vault Agent のリストアについて .....	110
	大きいリストアでのソケットバッファサイズの変更 .....	110
	Enterprise Vault Agent についての有用なヒント .....	111
	Enterprise Vault Agent の機能と EV 7.5 以降のサポート .....	111
	EV 7.5 以降のバージョンでリストア後に行われる差分増分バックアッ プが失敗する .....	112

<b>第 9 章</b>	<b>トラブルシューティング</b> .....	113
	トラブルシューティング .....	113
	デバッグログ .....	113
	デバッグログを有効にする方法 .....	114
	デバッグレベルの設定 .....	115
	状態レポートについて .....	116
	操作レポート .....	116
	進捗レポート .....	117
	NetBackup の状態に関連するトラブルシューティング情報について .....	117
	NetBackup の状態コード 2 .....	117
	NetBackup の状態コード 13 .....	118
	NetBackup の状態コード 39 .....	118
	NetBackup の状態コード 59 .....	119
	NetBackup の状態コード 69 .....	120
	NetBackup の状態コード 156 .....	120
	NetBackup の状態コード 1800 .....	123
<b>付録 A</b>	<b>NetBackup Enterprise Vault Migrator</b> .....	125
	Enterprise Vault Migrator について .....	125
	移行用のバックアップポリシーの構成について .....	126
	収集および移行のための Enterprise Vault の構成について .....	131
	NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録について .....	132
	NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録 .....	133
	Enterprise Vault Migrator の構成のテスト .....	133
	推奨 DCOM 設定の設定 .....	136
	NetBackup からの Enterprise Vault 移行済みデータのリストア .....	138
	コマンドラインインターフェースを使用した移行済みデータのリスト ア .....	139
	バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを使 用した移行済みデータのリストア .....	140
	Enterprise Vault Migrator のトラブルシューティング .....	141
	Enterprise Vault Migrator のバージョン情報 .....	141
	Migrator の問題のトラブルシューティングについて .....	141
	ログ収集について .....	143
<b>索引</b> .....		149



# NetBackup Enterprise Vault の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault について
- Enterprise Vault Agent の新機能
- NetBackup Enterprise Vault Agent について
- Enterprise Vault Agent とバックアップコンポーネントについて
- Enterprise Vault Agent の機能
- Enterprise Vault Agent の要件

## Enterprise Vault について

Enterprise Vault はメッセージやファイルシステムのデータを自動的に集約してアーカイブに格納できる Windows アプリケーションです。クライアントとユーザーは [Enterprise Vault] アプリケーションを使って、選択した項目を必要ときにすばやく簡単に取得できます。

Enterprise Vault では次の形式のデータをアーカイブできます。

- Microsoft Exchange のユーザーメールボックスの項目
- Microsoft Exchange のジャーナルメールボックスの項目
- Microsoft Exchange のパブリックフォルダの内容
- Domino のメールファイルの項目
- Domino のジャーナルデータベースの項目
- ネットワークファイルサーバーにあるファイル

- Microsoft SharePoint サーバーにある文書
- インスタントメッセージと Bloomberg メッセージ
- 他のメッセージサーバーから受信した SMTP メッセージ

Enterprise Vault について詳しくは、次の URL を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC4402>

## Enterprise Vault Agent の新機能

Enterprise Vault Agent は Enterprise Vault 10.0 をサポートしています。Enterprise Vault によって、アーカイブされた項目にインデックスが付けられます。インデックス付けはアーカイブされたデータをよりすばやく効率的に検索するために行われます。

Enterprise Vault 10.0 には新しい 64 ビットの検索エンジンがあります。64 ビットの検索エンジンは、Enterprise Vault 10.0 以降を使ってインデックスが付けられた項目用に作成されたものです。以前のリリースでは、インデックスは 32 ビットの検索エンジンを使って作成されていました。

Enterprise Vault 10.0 リリースでは、32 ビットと 64 ビットの両方のインデックスが付けられたアーカイブで検索を実行すると、自動的に両方のインデックスが検索されます。

インデックスの場所やボルトストアパーティションのバックアップを正常に実行するには、一部のファイルを除外する必要があります。これらのファイルは、Enterprise Vault サーバーがあるすべての NBU クライアントのリストに追加する必要があります。

p.103 の「Enterprise Vault 10.0 のバックアップに関する注意事項」を参照してください。

p.104 の「エクスクルーードリストによるファイルの除外」を参照してください。

## NetBackup Enterprise Vault Agent について

NetBackup Enterprise Vault Agent は Enterprise Vault の構成情報と Enterprise Vault がアーカイブしたデータを保護することを可能にするコンポーネントから成っています。このエージェントは Enterprise Vault 7.5、8.0、9.0、10 の構成をサポートします。従って、Enterprise Vault の環境を構成するシステムのそれぞれに Enterprise Vault Agent のコンポーネントすべてをインストールする必要があります。

p.20 の「Enterprise Vault Agent のオペレーティングシステムの互換性の確認」を参照してください。

Enterprise Vault Agent は Enterprise Vault のファイルシステムのデータと Enterprise Vault の SQL データをバックアップし、リストアすることを可能にします。これらの形式のデータは、NTFS または NAS デバイスのような異なるシステムまたはデバイスに存在することがあります。

Enterprise Vault Agent はまた Enterprise Vault を使ってアーカイブされるデータのためのディザスタリカバリのソリューションにすることができます。アーカイブされたデータのリカバリは Exchange Server または特定のファイルシステムのようなアーカイブソースに依存しません。

NetBackup Enterprise Vault Agent と機能は NetBackup の Windows クライアントソフトウェアにアドオンとして提供されます。このエージェントは NetBackup とバックアップ、アーカイブおよびリストインターフェースと堅く統合されます。従って、このマニュアルは Enterprise Vault Agent の機能の概要を示します。Enterprise Vault Agent の機能は NetBackup とバックアップ、アーカイブおよびリストインターフェースに関係するためです。特に記述のないかぎり、Enterprise Vault Agent のバックアップとリスト操作は他の NetBackup のファイル操作と同一です。

## Enterprise Vault Agent とバックアップコンポーネントについて

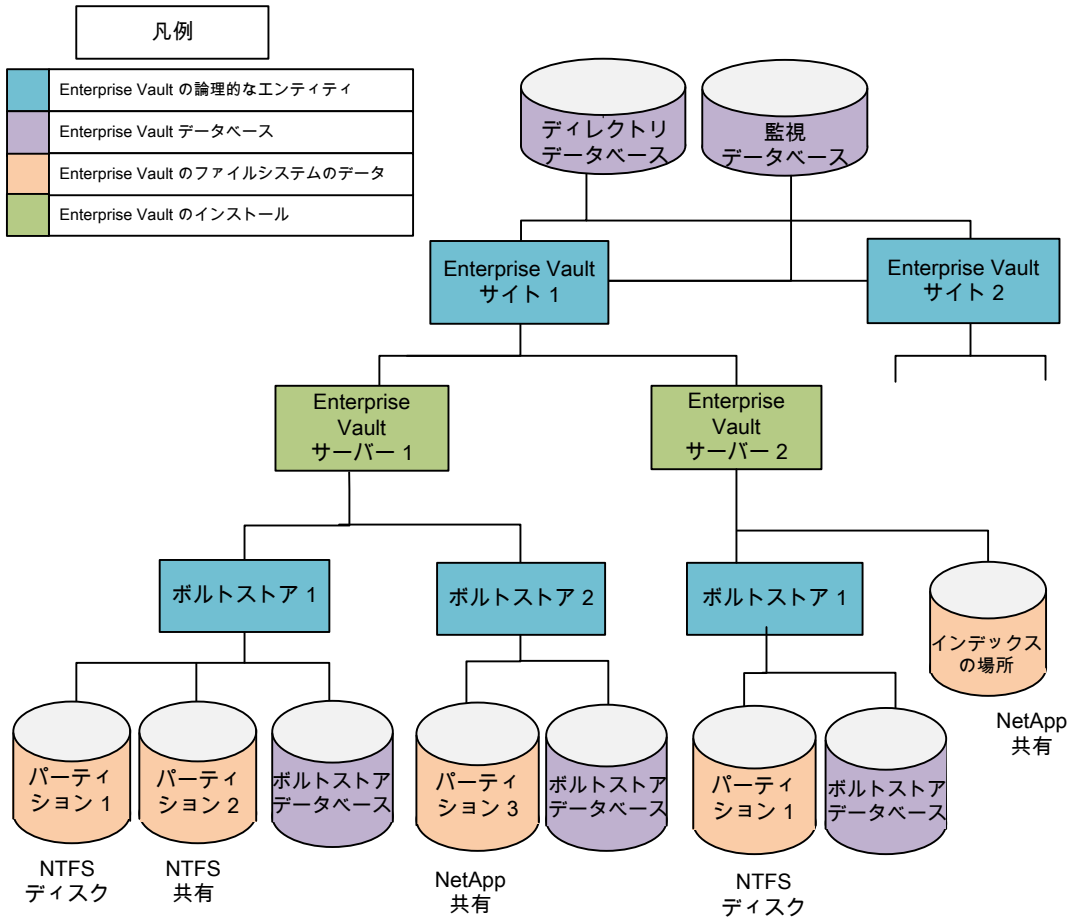
NetBackup Enterprise Vault Agent は Enterprise Vault のバックアップが動作するとき Enterprise Vault の環境の構成を判断します。この情報はクライアントの適切な NetBackup のコンポーネントをバックアップのためにインスタンス化するために NetBackup マスターサーバーに提供されます。

Enterprise Vault Agent は Enterprise Vault 7.5 の次のコンポーネントをバックアップしてリストアすることを可能にします。

- Enterprise Vault ディレクトリデータベース
- Enterprise Vault 監視データベース
- Enterprise Vault のアーカイブ (オープンパーティションとクローズパーティションなど)  
このリリースでは、Enterprise Vault Agent はマッピングされたドライブに基づいている Enterprise Vault のパーティションをサポートしません。  
p.111 の「Enterprise Vault Agent の機能と EV 7.5 以降のサポート」を参照してください。
- Enterprise Vault のボルトストアデータベース
- Enterprise Vault のインデックスの場所  
このリリースでは、Enterprise Vault Agent は、マッピングされたドライブに基づく Enterprise Vault のインデックスの場所をサポートしません。  
p.111 の「Enterprise Vault Agent の機能と EV 7.5 以降のサポート」を参照してください。

図 1-1 は Enterprise Vault 7.5 のアプリケーションのコンポーネントの構成例を次の階層的な表示で示します。バックアップされるデータのタイプはポリシーを作成するときに選ぶ指示句によって決まります。

図 1-1 Enterprise Vault 7.5 階層



Enterprise Vault Agent は Enterprise Vault 8.0 以降の次のコンポーネントをバックアップしてリストアすることを可能にします。

- Enterprise Vault ディレクトリデータベース
- Enterprise Vault 監視データベース
- Enterprise Vault FSA レポート用データベース
- Enterprise Vault 監査データベース

■ Enterprise Vault のインデックスの場所

このリリースでは、NetBackup は、マッピングされたドライブに基づく Enterprise Vault のインデックスの場所をサポートしません。Enterprise Vault サイトのいずれかのイン

デックスの場所がマッピングされたドライブに基づいている場合、  
`EV_INDEX_LOCATION=EV Site Name` 指示句を使用するバックアップ対象を含めることはできません。

- Enterprise Vault のアーカイブ (オープンパーティション、クローズパーティション、準備完了パーティションなど)  
このリリースでは、NetBackup は、マッピングされたドライブに基づく Enterprise Vault パーティションをサポートしません。これは、オープンパーティション、クローズパーティション、および準備完了パーティションのコンポーネントに適用されます。
  - オープンパーティションがマッピングされたドライブに基づく場合、  
`EV_OPEN_PARTITION=Vault Store Name`(これにそのオープンパーティションが含まれる) 指示句を使用するバックアップ対象を含めることはできません。
  - クローズパーティションがマッピングされたドライブに基づく場合、  
`EV_CLOSED_PARTITION=VaultStoreName`(これにそのクローズパーティションが含まれる) 指示句を使用するバックアップ対象を含めることはできません。
  - 準備完了パーティションがマッピングされたドライブに基づく場合、  
`EV_READY_PARTITION=VaultStoreName`(これにその準備完了パーティションが含まれる) 指示句を使用するバックアップ対象を含めることはできません。
- Enterprise Vault のボルトストアデータベース
- Enterprise Vault フィンガープリントデータベース
- Enterprise Vault 9.0 以降は、オープンパーティション、クローズパーティション、準備完了パーティションに基づくストリーマをサポートします。

図 1-2 は Enterprise Vault 8.0 以上のアプリケーションのコンポーネントの構成例を次の階層的な表示で示します。



表 1-1 は Enterprise Vault Agent の機能をリストします。

表 1-1 NetBackup Enterprise Vault Agent の機能

機能	説明
オンラインバックアップ	<p>特定のオンラインバックアップは、NetBackup が Enterprise Vault または特定の Enterprise Vault コンポーネントを読み取り専用モードにすることを必要とします。バックアップにオープンパーティションまたはインデックスの場所のコンポーネントが関係する場合、NetBackup は、バックアップが実行される前に Enterprise Vault を読み取り専用モードにする必要があります。次のルールは、Enterprise Vault 7.5 と 8.0 以降に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ この特定のバックアップが Enterprise Vault 7.5 環境で実行されるとき、NetBackup は、Enterprise Vault サーバー全体を読み取り専用モードにします。Enterprise Vault のサービスおよびデータは、バックアップ中も利用可能です。</li> <li>■ Enterprise Vault 8.0 以降の環境では、特定のボルトストアまたはインデックスの場所だけが読み取り専用モードになります。その他の Enterprise Vault コンポーネントはすべて読み取り専用モードになりません。</li> </ul>
Enterprise Vault のバックアップスケジュール	<p>NetBackup Enterprise Vault Agent は完全バックアップ、差分増分バックアップと累積増分バックアップをサポートします。これらのバックアップの形式はユーザーが NetBackup 管理コンソールによって作成する Enterprise Vault のポリシーで構成されます。ユーザーはそれからバックアップポリシーで事前定義済みの指示句を選択することによってどの Enterprise Vault のコンポーネントをバックアップするかを指定できます。</p>
NetBackup との完全な統合化	<p>NetBackup との完全な統合化とは、次のことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NetBackup の手順およびソフトウェアに詳しい管理者は、バックアップおよびリストア操作を行うために NetBackup Enterprise Vault Agent の構成および使用を簡単に行うことができます。</li> <li>■ NetBackup Enterprise Vault Agent のユーザーは、NetBackup 製品群の機能および利点を活用できます。これらの機能にはスケジュールされた操作が含まれます。これらの機能について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。</li> </ul>
データ管理	<p>Enterprise Vault Agent のバックアップは NetBackup がサポートする各種のストレージデバイスに保存されます。</p>

機能	説明
自動バックアップ	<p>管理者は、ローカルクライアントまたはネットワークを介したリモートクライアントに対してポリシーを構成したり、自動的な無人のバックアップを行うスケジュールを設定したりすることができます。これらのバックアップは、NetBackup サーバーによって中央サイトから完全に管理されます。</p> <p>さらに、管理者は異なる場所に保存される Enterprise Vault のアーカイブ済みデータおよび Enterprise Vault の構成データ (データベース) を手動でバックアップできます。</p>
リストア操作	<p>管理者は、バックアップ、アーカイブ、およびリストアインターフェースを使用して、Enterprise Vault のバックアップを参照したり、リストアを行うバックアップを選択することができます。</p>
リダイレクトリストア	<p>Enterprise Vault Agent はファイルシステムのデータと SQL データベースのリダイレクト (代替) リストアをサポートします。ファイルシステムのデータについては、この機能はバックアップオブジェクトの名前を変更するか、またはリダイレクトすることを可能にします。SQL オブジェクトについては、この機能はリダイレクトリストアをサポートし、Enterprise Vault SQL データベース名の変更をサポートします。ただし、この機能は SQL データベースと関連付けられる物理ファイルの名前を変更することをサポートしません。</p>
ローカルメディアサーバー	<p>Enterprise Vault Agent は、バックアップ時にプライマリメディアサーバーとしてローカルメディアサーバーを使用することをサポートします。ただし、Enterprise Vault Agent のローカルメディアサーバーの構成は、NetBackup 構成が使用するものとは異なります。</p> <p>p.35 の「Enterprise Vault のバックアップ用のローカルメディアサーバーの構成」を参照してください。</p>

## Enterprise Vault Agent の要件

Enterprise Vault Agent を使う前に次の要件を確認します。

- Microsoft Core XML Services (MSXML 6.0 以降) が Enterprise Vault サーバーにインストールされていることを確認します。Microsoft 社の Web サイトから MSXML をダウンロードし、インストールできます。
- Enterprise Vault のストレージサービスと Enterprise Vault のインデックスサービスを実行するクライアントに NetBackup クライアント (Enterprise Vault Agent を含む) をインストールします。アーカイブされたデータを保存するのに Enterprise Vault が NetApp のようなストレージデバイスを使う場合、Enterprise Vault Agent はデータ



にアクセスするため **Microsoft Common Internet File System (CIFS)** のプロトコルを使用します。

- このエージェントは **NetBackup** クライアントソフトウェアを使ってインストールされるので、**Enterprise Vault SQL** データベースをホストするあらゆるシステムにクライアントをインストールする必要もあります。
- **Enterprise Vault** がオペレーティングシステムでサポートされることを確認します。
- このリリースでは、このバージョンの **Enterprise Vault Agent** は **Enterprise Vault 7.5** 以降をサポートします。**Enterprise Vault** の将来のバージョンのサポートについて詳しくはテクニカルサポートに問い合わせてください。  
p.20 の「**Enterprise Vault Agent** のオペレーティングシステムの互換性の確認」を参照してください。



# NetBackup Enterprise Vault Agent のインストール要件について

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup Enterprise Vault Agent のインストール要件
- Enterprise Vault Agent のオペレーティングシステムの互換性の確認
- NetBackup サーバーとクライアントソフトウェアの要件
- Enterprise Vault による Enterprise Vault Agent のサポート
- クラスタの Enterprise Vault Agent のインストールの要件について
- Enterprise Vault データベースを保護するための Enterprise Vault Agent の構成
- Enterprise Vault Agent のライセンスキーの追加
- Enterprise Vault Agent のアップグレードに関する構成要件

## NetBackup Enterprise Vault Agent のインストール要件

すべての NetBackup サーバーには、デフォルトで NetBackup クライアントソフトウェアが含まれています。従って NetBackup のサーバーまたはクライアントで (Enterprise Vault Agent がそのプラットフォームでサポートされれば) Enterprise Vault Agent ソフトウェアを使うことができます。

ソフトウェアのインストールの前に次の要件を確認し、オペレーティングシステムの互換性を確認します。

- p.20 の「Enterprise Vault Agent のオペレーティングシステムの互換性の確認」を参照してください。
- p.20 の「NetBackup サーバーとクライアントソフトウェアの要件」を参照してください。
- p.21 の「クラスタの Enterprise Vault Agent のインストールの要件について」を参照してください。

## Enterprise Vault Agent のオペレーティングシステムの互換性の確認

ソフトウェアをインストールする前に Enterprise Vault Agent がオペレーティングシステムでサポートされることを確認します。NetBackup Enterprise Vault Agent は、Enterprise Vault 7.5 および 8.0 SP2 以上のバージョンをサポートします。また、シマンテック社のサポート Web サイトで NetBackup データベースエージェントの互換性リストを表示して、Enterprise Vault Agent がサポートする SQL のバージョンと、オペレーティングシステムの互換性を判断することができます。

### オペレーティングシステムおよび互換性を確認する方法

- 1 インターネットブラウザから次の URL を開きます。

[www.symantec.com/business/support](http://www.symantec.com/business/support)

- 2 Web ページの[Support for Top Products]というタイトルの下の[NetBackup Enterprise Server]リンクを選択します。
- 3 Web ページの[Compatibility]のタイトルの下の[Master Compatibility List]を選択します。

Web ページは、互換性文書のリストを更新して表示します。適切な文書へのリンクを見つけるために検索を絞り込むことができます。(互換性に関する文書は PDF 形式であるため、表示するには Adobe Acrobat Reader が必要です。)

- 4 文書のリストで、次のリンクをクリックします。

[NetBackup (tm) x.x Database Agent compatibility]。

x.x は、NetBackup の最新のリリース番号です。

## NetBackup サーバーとクライアントソフトウェアの要件

Enterprise Vault Agent の NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアが次の要件を満たしていることを確認します。

- Enterprise Vault Agent は NetBackup クライアントソフトウェアの一部として自動的にインストールされます。カスタムインストールは不要です。NetBackup サーバーのプラットフォームは、NetBackup がサポートするものであれば、どの Windows プ

ラットフォームでも問題ありません。詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup インストールガイド』。

- Enterprise Vault Agent は NetBackup クライアントソフトウェアの一部分です。NetBackup クライアントソフトウェアは Enterprise Vault の SQL データをホストするか、Enterprise Vault サーバーであるあらゆるシステムにインストールする必要があります。(Enterprise Vault サーバーが NetBackup サーバーでもある場合、クライアントソフトウェアは NetBackup サーバーソフトウェアとともにインストールされます。)
- サポート対象のバージョンの Windows と Enterprise Vault を有することを確認します。

## Enterprise Vault による Enterprise Vault Agent のサポート

Enterprise Vault による Enterprise Vault Agent のサポートに関する役立つ情報を次に示します。

- NetBackup 6.5.4、6.5.5、6.5.6 の Enterprise Vault Agent は、Microsoft Cluster Server (MSCS) で構成された Enterprise Vault 7.5 または 8 でサポートされます。
- NetBackup 6.5.4、6.5.5、6.5.6 の Enterprise Vault Agent は、Veritas Cluster Services (VCS) 環境で構成された Enterprise Vault 7.5 または 8 ではサポートされません。ただし、この環境は、従来の方法で Enterprise Vault 環境をバックアップすることで保護できます。
- NetBackup 7.0.x の Enterprise Vault Agent は、Enterprise Vault の MSCS と VCS の両方のクラスタ環境をサポートします。  
NetBackup 7.5 の Enterprise Vault Agent は、Enterprise Vault 10 や VCS で構成された SQL Server ではサポートされません。
- NetBackup EV エージェントは VCS クラスタにある SQL サーバーの EV アプリケーションをサポートしません。この場合は EV データベースを NetBackup でリストアできません。

## クラスタの Enterprise Vault Agent のインストールの要件について

フェールオーバー機能を実際にするために、クラスタの各 Enterprise Vault のノードに Enterprise Vault Agent ソフトウェアがインストールされて操作可能であることを確認する必要があります。

p.20 の「Enterprise Vault Agent のオペレーティングシステムの互換性の確認」を参照してください。

NetBackup 6.5.4、6.5.5、6.5.6 の Enterprise Vault Agent は、次の Microsoft Cluster Server (MSCS) 構成でクラスタ化されている Enterprise Vault をサポートします。

- Windows 2003、2008 の Enterprise Vault 7.5 (x86、AMD64)
- Windows レジストリの変更が適用された Windows 2003、2008 の Enterprise Vault 8.0 SP2 以上。

MSCS によってクラスタ化された Enterprise Vault 8 SP2 サーバーの検出を NetBackup 6.5.4、6.5.5、6.5.6 の Enterprise Vault Agent で有効にするには、次の Windows レジストリキーと文字列値 (データ型 REG\_SZ) を各クラスタノードに追加します。

- x86 MSCS クラスタの場合: キーが存在しない場合は、次のキーを作成します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥KVS¥Enterprise Vault¥Admin¥ConfigState

- x64 MSCS クラスタの場合: キーが存在しない場合は、次のキーを作成します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Wow6432Node¥KVS¥Enterprise Vault¥Admin¥ConfigState

キーが作成されたら、次の文字列値を追加します。

- "ClusVirtualServer"="virtual node name"
- "ClusResourceGroup"="EV Resource Group name"

## Enterprise Vault データベースを保護するための Enterprise Vault Agent の構成

MSCS によってクラスタ化されているサーバーによってホストされる Enterprise Vault データベースを保護するように Enterprise Vault Agent を構成する必要があります。NetBackup 6.5.4、6.5.5、7.0 の Enterprise Vault Agent を設定するには、クラスタ化された環境のすべてのノードにいくつかの変更を行う必要があります。ノードへの変更によって、Enterprise Vault データベースは、MSCS によってクラスタ化された Microsoft SQL Server でホストされる場合に確実に保護されます。次の項を参照してください。

### NetBackup 6.5.4、6.5.5、7.0 の Enterprise Vault Agent を設定する方法

- 1 [スタート]>[Symantec NetBackup]>[Backup, Archive, and Restore]を選択します。
- 2 [ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。  
[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、[一般 (General)]タブが表示されます。
- 3 [クライアント名 (Client name)]テキストボックスのクライアント名として仮想 SQL Server の名前を入力します。

- 4 警告が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックして、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスを閉じます。

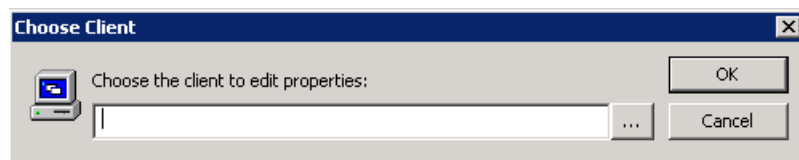
仮想 SQL Server の名前がクライアント名として追加されたら、NetBackup クライアントのリストに各ノードと仮想クラスターを追加する必要があります。すると、Enterprise Vault に対してそのノードと仮想 SQL Server を構成できます (NetBackup マスター管理コンソール)。

#### ノードと仮想 SQL Server を追加して構成する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールで、[ホストプロパティ (Host Properties)]を展開します。
- 2 [処理 (Actions)]メニューで、[クライアントの構成 (Configure Client)]を選択するか、[クライアントの構成 (Configure Client)]アイコンをクリックします。

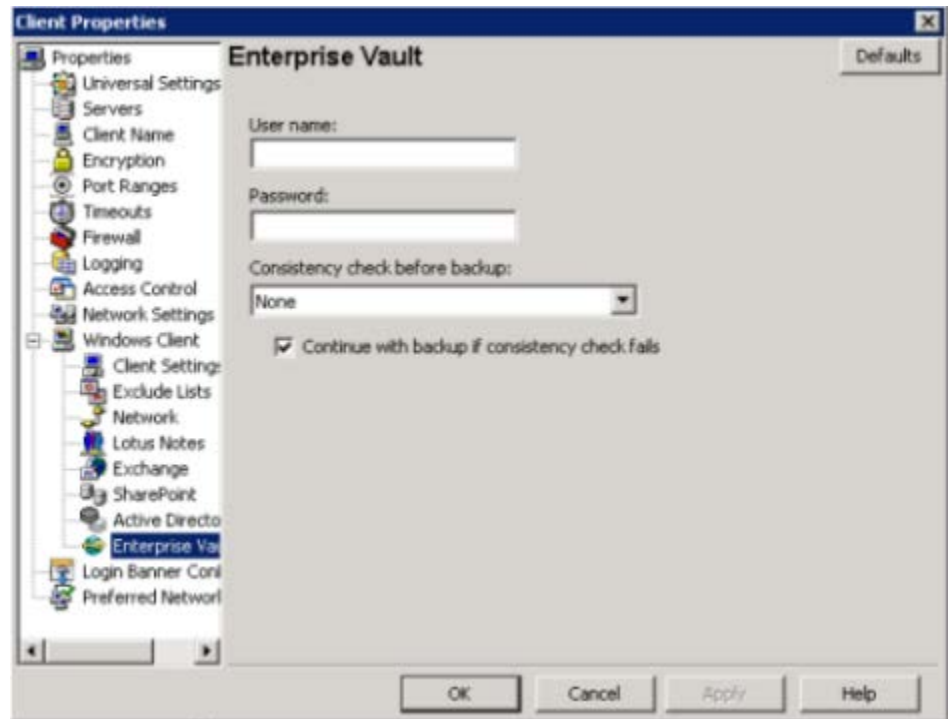


次の図に示すような[クライアントの選択 (Choose Client)]ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [参照 (Browse)]をクリックし、目的のコンピュータを選択して[OK]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックして、[クライアントの選択 (Choose Client)]ダイアログボックスを終了します。

- 5 [ホストプロパティ (Host Properties)]リストで、[クライアント (Clients)]を選択します。利用可能なクライアントが表示されます。
- 6 目的のクライアントを右クリックし、[プロパティ (Properties)]を選択します。次の図に示すような[クライアントプロパティ (Client Properties)]ダイアログボックスが表示されます。



各ノードとクラスタには、Enterprise Vault Admin ユーザーのログオンアカウントを構成します。

## Enterprise Vault Agent のライセンスキーの追加

Enterprise Vault Agent のライセンスは他のデータベースエージェントがそれらのライセンスキーを使うのと同様の方法で使われます。Enterprise Vault Agent を使うためには、マスターサーバーで有効なライセンスキーを追加します。

ライセンスキーの追加方法について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。



---

**メモ:** NetBackup クラスタで、NetBackup サーバーがインストールされている各ノードにライセンスキーを追加します。

---

#### Enterprise Vault Agent のライセンスキーを追加する方法

- 1 マスターサーバーで NetBackup 管理コンソールを開きます。
- 2 [ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]をクリックします。
- 3 [新規 (New)]をクリックします。
- 4 ライセンスキーを入力して、[追加 (Add)]をクリックします。

## Enterprise Vault Agent のアップグレードに関する構成要件

NetBackup 7.6 以降のバージョンは、新しく追加された機能や新しいポリシー指示句をサポートします。これらによって、以前のバージョンよりもはるかに堅ろうなエージェントになります。新しい機能を利用するために Enterprise Vault の最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 7.6 にアップグレードすることを選択した場合は、次の構成要件を理解する必要があります。

- 1 つの Enterprise Vault サイト配置内のすべての Enterprise Vault サーバーで NetBackup のバージョンが同じである必要があります。
- 構成内のすべての SQL Server の NetBackup バージョンは、Enterprise Vault サイトの Enterprise Vault サーバーの NetBackup バージョン以上である必要があります。  
たとえば、SQL Server が、NetBackup 7.6 を実行している Enterprise Vault サーバーを含む Enterprise Vault サイトの一部である場合、SQL Server は、Enterprise Vault サーバーと同じ(またはそれ以上)のバージョンレベルを実行する必要があります。
- Enterprise Vault サーバーが SQL Server としても使用される場合、そのサーバーの SQL のバージョンは、Enterprise Server の NetBackup バージョン以上である必要があります。
- マスターサーバーとメディアサーバーの NetBackup バージョンは、NetBackup クライアントのバージョン以上である必要があります。たとえば、NetBackup 7.6 マスターサーバーは、NetBackup 6.5.4 と 7.0 のクライアントサーバーの混在環境をサポートできます。
- NetBackup マスターサーバーが NetBackup 6.5.4 クライアントや NetBackup 7.6 クライアントと通信できる唯一の方法では、2 つ以上の Enterprise Vault サイトを使います。1 つのサイトには NetBackup 6.5.4 Enterprise Vault サーバーが含まれ、もう

1つのサイトには NetBackup 7.6 Enterprise Vault サーバーが含まれます。これらの2つのサイトが1つの SQL Server を共有する場合、そのサーバーは NetBackup 7.5 以上のバージョンを実行する必要があります。

アップグレードの完了後、Enterprise Vault の構成にさらに多くの変更が必要になることがあります。たとえば、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントサーバーをバージョン 7.0 にアップグレードして、Enterprise Vault をバージョン 8.0 にアップグレードしたら、Enterprise Vault 8.0 の指示句を使用するようにバックアップポリシーを変更する必要があります。

表 2-1 は、Enterprise Vault 環境内で実行できるソフトウェアの各種バージョンを示しています。この表は、アップグレードの完了後に追加の変更を必要とするソフトウェアの種類も示しています。

表 2-1 NetBackup 7.1 以降のバージョンへのアップグレード後のアップグレードシナリオ

NetBackup マスターとメディアのバージョン	NetBackup クライアントのバージョン	Enterprise Vault のバージョン	アップグレード後に必要な変更
7.0	7.0	7.5	追加変更は必要ありません。
7.0	6.5.4	7.5	追加変更は必要ありません。
7.0	7.0	8.0	Enterprise Vault 8.0 以上の指示句セットを使用するように、現在のすべての NetBackup Enterprise Vault ポリシーを変更する必要があります。 p.26 の「Enterprise Vault のアップグレード後に実行する必要がある構成の変更」を参照してください。
7.0	6.5.4	8.0	追加変更は必要ありません。NetBackup 6.5.4 を使った Enterprise Vault 8.0 以降のコンポーネントのデータ保護については詳しくは、次の URL の シマンテック社のサポート Web サイトの TechNote 323945『Enterprise Vault 8.0 support using NetBackup 6.5.4』を参照してください。 <a href="http://entsupport.symantec.com/docs/323945">http://entsupport.symantec.com/docs/323945</a>

## Enterprise Vault のアップグレード後に実行する必要がある構成の変更

すべてのサーバーを NetBackup 7.1 に、Enterprise Vault をバージョン 8.0 にアップグレードした後、NetBackup ポリシーの構成を変更する必要があります。

### Enterprise Vault の指示句セットを変更する方法

- 1 [Enterprise-Vault]ポリシーを使ってフィンガープリントデータベース、監査データベース、FSA レポート用データベースを保護する場合は、Microsoft SQL Server のポリシー形式 ([MS-SQL-Server]) を無効にして、これらのデータベースを保護します。これらのポリシーを無効にしないと、増分バックアップで問題が発生する可能性があります。

NetBackup SQL Agent を使用してバックアップを実行する場合は、NetBackup SQL Agent によってのみリストアできます。詳細については、『Enterprise Vault 8.0 support using NetBackup 6.5.4』のホワイトペーパーを参照してください。

- 2 Enterprise Vault ポリシーの指示句を変更して、Enterprise Vault 8.0 の指示句セットを含めます。  
p.27 の「NetBackup および Enterprise Vault のアップグレード後のポリシー指示句の構成」を参照してください。
- 3 Enterprise Vault サイトのすべてのコンポーネントの完全バックアップを実行します。

## NetBackup および Enterprise Vault のアップグレード後のポリシー指示句の構成

アップグレードを行った場合、完了後にポリシーの指示句を変更する必要があります。Enterprise Vault 7.5 のすべての指示句を削除し、Enterprise Vault 8.0 の指示句セットに置き換える必要があります。この変更を行なわないと、Enterprise Vault ポリシーのバックアップは失敗する場合があります。次の手順では、ポリシーの指示句を削除して追加する方法を説明します。

### Enterprise Vault 7.5 の指示句を Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンの指示句に変更する方法

- 1 Enterprise Vault の指示句セットを使用するように、ポリシーの指示句リストを変更します。既存のポリシーをダブルクリックして、そのポリシーの現在の構成を表示します。
- 2 [バックアップ対象 (Backup Selections)] タブを開きます。このタブから、古い指示句を削除し、Enterprise Vault バージョン 8.0 以降の指示句を追加できます。
- 3 次の表を使って、Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンのどの指示句が以前の Enterprise Vault 7.5 の指示句に対応するかを判断します。

### Enterprise Vault 7.5 の指示句

EV\_DIR\_DB

EV\_MONITORING\_DB

EV\_OPEN\_PARTITIONS

EV\_CLOSED\_PARTITIONS

EV\_VAULT\_STORE\_DB

EV\_VAULT\_STORE\_DB=*EV Vault Store name*

EV\_VAULT\_STORE=*EV Vault Store name*

### Enterprise Vault バージョン 8.0 以降の 対応する指示句

EV\_DIR\_DB

この指示句は、Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンでも Enterprise Vault 7.5 と同じです。

EV\_MONITORING\_DB

この指示句は、Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンでも Enterprise Vault 7.5 と同じです。

ポリシークライアントにリストされた Enterprise Vault サーバーに対応するすべてのボルトストアに、EV\_OPEN\_PARTITION=Vault Store name を指定します。

ポリシークライアントにリストされた Enterprise Vault サーバーに対応するすべてのボルトストアに、EV\_CLOSED\_PARTITIONS=Vault Store name を指定します。

ポリシークライアントにリストされた Enterprise Vault サーバーに対応するすべてのボルトストアに、EV\_VAULT\_STORE\_DB=EV Vault Store name 指示句を指定します。

EV\_VAULT\_STORE\_DB=EV Vault Store name

この指示句は、Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンでも Enterprise Vault 7.5 と同じです。

ボルトストアで利用可能なパーティションに基づいて、次を使用します。

- EV\_OPEN\_PARTITION=Vault Store name
- EV\_CLOSED\_PARTITIONS=Vault Store name
- EV\_READY\_PARTITIONS=Vault Store name

オープンパーティションがない場合は EV\_VAULT\_STORE\_DB=Vault Store name を指定します。

### Enterprise Vault 7.5 の指示句

EV\_VAULT\_STORE

EV\_INDEX\_LOCATION

EV\_SERVER

EV\_SITE

### Enterprise Vault バージョン 8.0 以降の対応する指示句

Enterprise Vault サーバーに対応するすべてのボルトストアにオープンパーティション、クローズパーティション、準備完了パーティションを指定します。

Enterprise Vault の、インデックスの場所のサーバーレベルのバックアップは、EV8.0 ではサポートされていません。

EV\_INDEX\_LOCATION=site name を使用して、サイトのすべてのインデックスの場所をバックアップできます。

Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンはサーバーレベルのバックアップをサポートしません。Enterprise Vault コンポーネントを保護するために、ポリシーを複数のポリシーに分ける必要があります。

Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンはサイトレベルのバックアップをサポートしません。Enterprise Vault コンポーネントを保護するために、ポリシーを複数のポリシーに分ける必要があります。

## Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンで追加された新しい指示句について

Enterprise Vault Agent は、Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンの次の新しい指示句をサポートします。

#### ■ EV\_FINGERPRINT\_DB

この指示句を使用して、フィンガープリントデータベースのコンポーネントをバックアップできます。

#### ■ EV\_FSAREPORTING\_DB

この指示句を使用して、FSAレポート用データベースのコンポーネントをバックアップできます。

#### ■ EV\_AUDIT\_DB

この指示句を使用して、監査データベースのコンポーネントをバックアップできます。

## Enterprise Vault 9.0 へのアップグレード

Enterprise Vault 8.0 から Enterprise Vault 9.0 にアップグレードする場合、バックアップポリシーの修正は必要ありません。

## Enterprise Vault 10.0 へのアップグレード

Enterprise Vault 8.0 から Enterprise Vault 10.0 にアップグレードする場合、バックアップポリシーの修正は必要ありません。

# 構成

この章では以下の項目について説明しています。

- Windows と Java のユーザーインターフェースについて
- Enterprise Vault サーバーのログオンアカウントを指定する方法
- VSS ベースのスナップショットの構成について
- Enterprise Vault のバックアップ用のローカルメディアサーバーの構成
- Enterprise Vault のバックアップポリシーの構成要件
- 新しい Enterprise Vault ポリシーの追加
- Enterprise Vault のバックアップポリシーの属性
- Enterprise Vault ポリシーへのスケジュールの追加
- Enterprise Vault のバックアップ形式について
- バックアップ対象リストの作成
- ポリシーへのクライアントの追加

## Windows と Java のユーザーインターフェースについて

この項で説明する構成手順の多くは、マスターサーバー上の NetBackup 管理コンソールから実行できます。利用可能なコンソールの種類は、マスターサーバーのプラットフォームによって異なります。NetBackup は、Windows マスターサーバーで Windows と Java のインターフェースをサポートします。

Java インターフェースと Windows インターフェースはほぼ同じです。これらのインターフェース間で構成手順に違いがある場合は、2つのインターフェースを区別するために、「Windows インターフェース」または「Java インターフェース」という用語が手順で示されます。

## Enterprise Vault サーバーのログオンアカウントを指定する方法

バックアップおよびリストアを実行するには、Enterprise Vault サーバーへのログオン、および Enterprise Vault SQL データベースとの通信に使用されるアカウントのユーザー名およびパスワードが、NetBackup で認識される必要があります。ユーザーは、Enterprise Vault コンポーネントのバックアップおよびリストア操作を実行するすべての NetBackup クライアントにログオンアカウントを設定する必要があります。

Enterprise Vault Agent ユーザーには、次のユーザークレデンシャルの権限が必要です。

- SQL データベースをバックアップおよびリストアする権限
- Enterprise Vault サービスと通信し、Enterprise Vault をバックアップモードにする権限
- Enterprise Vault パーティションやインデックスの場所のような Enterprise Vault ファイルシステムのパスから読み書きする権限。このファイルパスは、UNC またはローカルドライブ上にあります。

---

**メモ:** Enterprise Vault サイト構成内のすべての Enterprise Vault サーバーと SQL Server に対して、次の手順を実行する必要があります。

---

### Enterprise Vault サーバーのログオンアカウントを指定する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールを開きます。
- 2 [NetBackup の管理 (NetBackup Management)] > [ホストプロパティ (Host Properties)] > [クライアント (Clients)] を展開します。
- 3 クライアントがクライアントリストに表示されない場合は、[クライアントの構成 (Configure Client)] アイコンをクリックします。

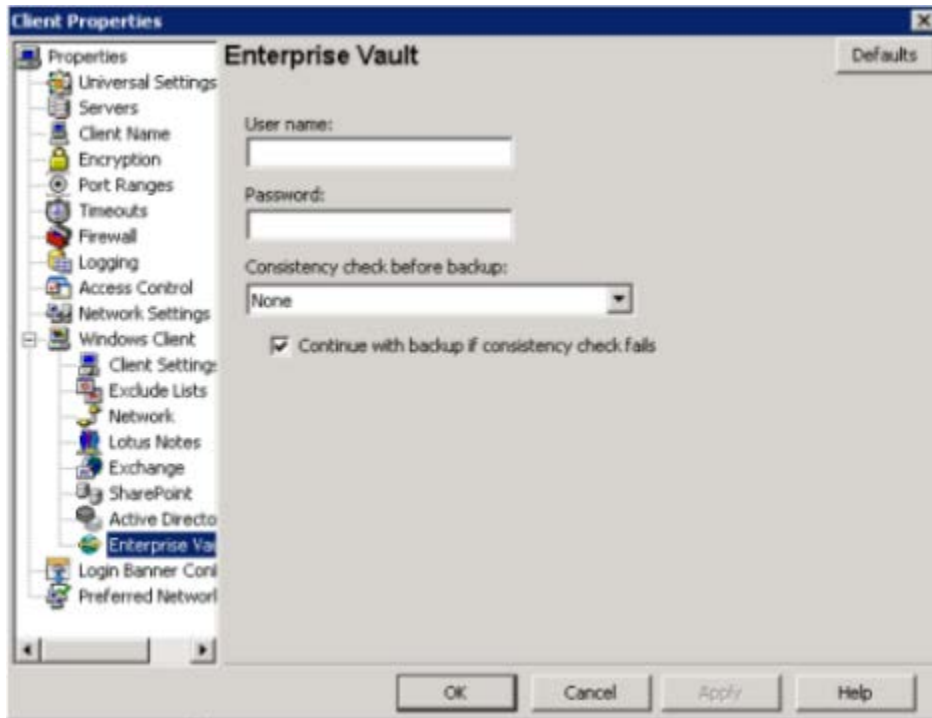


次の図に示すように、[クライアントの選択 (Choose Client)] ダイアログボックスにクライアント名を入力し、[OK] をクリックします。





- 4 右ペインでクライアントを右クリックして、[プロパティ(Properties)] をクリックします。
- 5 左ペインで [Windows クライアント (Windows Client)] を展開して、[Enterprise Vault] をクリックします。次の図に示すような [クライアントプロパティ (Client Properties)] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [ユーザー名 (User name)] ボックスで、Enterprise Vault へのログオンに使用するアカウントのユーザー ID (DOMAIN¥user name) を指定します。
- 7 [パスワード (Password)] ボックスで、アカウントのパスワードを指定します。
- 8 [OK] をクリックして、変更を保存します。

## VSS ベースのスナップショットの構成について

NetBackup 7.1 以降では、Enterprise Vault Agent は VSS コピーオンライトスナップショットのサポートを提供しますが、ユーザーはそれを構成することを許可されません。Enterprise Vault のポリシー形式では、スナップショットが特定の条件下で実行されるように自動化されているため、[スナップショット (Snapshot)] チェックボックスは無効になります。

Enterprise Vault Agent は次の場合にスナップショットのしくみを使います。

- 完全スケジュールを使った Enterprise Vault SQL データベースのバックアップ。
- Enterprise Vault のファイルシステムの 非 UNC (Universal Naming Convention) の場所のデータバックアップ。

表 3-1 はスナップショットがいつ使われるか説明します。

表 3-1 スナップショットが使われる条件

データ形式	スケジュール形式	スナップショットは使われますか?
Enterprise Vault SQL データベース	完全 (Full)	はい
Enterprise Vault SQL データベース	増分 (Incremental)	いいえ
Enterprise Vault のファイルシステムのデータは UNC パスとして表示されます (例:¥¥server¥share¥data_path)	任意 (Any)	いいえ
Enterprise Vault のファイルシステムのデータは非UNC パスとして表示されます	任意 (Any)	はい

次のリストには、VSS ベースのスナップショットの構成に関連する追加の注意事項が含まれます。

- Enterprise Vault Agent は、VSS ベースのスナップショットを内部的に使用します。したがって、Enterprise Vault データがあるすべてのドライブには、VSS スナップショットを作成するために十分な空き容量が必要です。スナップショットは、選択したドライブの空き容量が不十分なら失敗する可能性があります。

p.123 の「VSS\_E\_INSUFFICIENT\_STORAGE スナップショットエラーについて」を参照してください。

- NetBackup 7.1 以降では、Enterprise Vault Agent は、スナップショットジョブごとにできる限り多くのスナップショットを作成するように試みます。単一のスナップショットジョブ中に作成可能なスナップショットの最大数は 64 です。これはデフォルト値でもあります。単一のスナップショットジョブ中に作成可能なスナップショットの最大数を調整することによって、この値を下げるすることができます。DWORD レジストリ値 *MaxSnapshotPerJob* は、スナップショットの最大数を制御します。このレジストリ値は、レジストリキー

Software¥VERITAS¥NetBackup¥CurrentVersion¥Agents¥EnterpriseVault¥の下にあります。*MaxSnapshotPerJob* 値のデフォルトは、スナップショットジョブあたり 64 のスナップショットです。

## Enterprise Vault のバックアップ用のローカルメディアサーバーの構成

NetBackup Enterprise Vault Agent は、バックアップ中できる限り頻繁にローカルメディアサーバーを使用するように設計されています。たとえば、Enterprise Vault サーバーまたは Enterprise Vault SQL サーバーが NetBackup メディアサーバーでもある場合、Enterprise Vault バックアップは、ローカルシステムに接続されたメディアをできるだけ使用するように試みます。ただし、[親ジョブからのリソース継承 (resource inheritance from the parent job)]などのパラメータが原因で、Enterprise Vault バックアップはローカルメディアサーバーを使用しない場合があります。

Enterprise Vault Agent では、ローカルメディアサーバーのサポートは暗黙的であり、外部設定でこれを無効にすることはできません。ローカルメディアサーバーのサポート用の NetBackup マスターサーバーの構成は、Enterprise Vault のバックアップでローカルメディアを使うかどうかに関係なく Enterprise Vault のバックアップには影響しません。

Enterprise Vault のバックアップでローカルメディアサーバーを使う場合、一部の構成を変更する必要があります。これらの変更の手順については以下を参照してください。

### Enterprise Vault のバックアップ用のローカルメディアを構成する方法

- 1 まず、Enterprise Vault ポリシーのストレージユニットを構成します。ポリシーを構成するには、既存の Enterprise Vault ポリシーを開きます。
- 2 [属性 (Attributes)] タブで、[ポリシーストレージユニット/ライフサイクルポリシー (Policy storage unit/lifecycle policy)] ドロップダウンメニューから [任意 (Any Available)] を選択します。
- 3 次に、ローカルメディアサーバーに属するストレージユニットを構成します。ストレージユニットを構成するには、[ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)] ダイアログボックスを開き、ストレージユニットの [オンデマンドのみ (On Demand Only)] チェックボックスにチェックマークが付いていないことを確認します。
- 4 最後に、次のメディアサーバーエントリがホストのサーバープロパティにあることを確認します。
  - マスターサーバーには、Enterprise Vault サイトのすべてのメディアサーバーのエントリが必要です。
  - Enterprise Vault サイトの各メディアサーバーのプロパティには、Enterprise Vault サイトの他のメディアサーバーのエントリがある必要があります。
  - すべての NetBackup クライアント (Enterprise Vault サーバーまたは Enterprise Vault SQL サーバー) のプロパティには、Enterprise Vault サイトのすべてのメディアサーバーのエントリがある必要があります。

## Enterprise Vault のバックアップポリシーの構成要件

Enterprise Vault Agent のバックアップポリシーでは、1 台以上のクライアントで構成される特定のグループに対するバックアップの条件を定義します。この条件には、次のものが含まれます。

- 使用するストレージユニットおよびストレージメディア
- ポリシー属性
- バックアップスケジュール
- バックアップするクライアント
- バックアップ対象

バックアップポリシーを作成し、実行する前に、管理コンソールの以下の項目の値を設定したことを確認します。

バックアップポリシーを作成して実行する前に、管理コンソールの[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]オプションと[1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]オプションの値を設定したことを確認します。

[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]オプションは[ストレージユニットの設定 (Storage Unit Settings)]ダイアログボックスにあります。このオプションの値はストレージユニットを使うことができる並列実行バックアップジョブの数を示し、バックアップのパフォーマンスに直接影響します。シマンテック社は次の設定に基づいて値を変更することを推奨します。

- Enterprise Vault の構成
- ポリシークライアント
- ポリシーバックアップ対象
- ストレージユニットの機能

[1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]オプションはマスターサーバーの[ホストプロパティ (Host Properties)](グローバル属性)にあります。シマンテック社は Enterprise Vault の構成とバックアップ対象に基づいて値を変更することを推奨します。

Enterprise Vault 環境をバックアップするには、適切にスケジュールされた 1 つ以上の Enterprise Vault ポリシーを作成します。すべてのクライアントが含まれる 1 つのポリシーまたは複数のポリシーを構成することができます。複数のポリシーの中には、1 つのクライアントだけを含むポリシーもあります。

次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

p.37 の「新しい Enterprise Vault ポリシーの追加」を参照してください。

p.39 の「Enterprise Vault ポリシーへのスケジュールの追加」を参照してください。

p.45 の「ポリシーへのクライアントの追加」を参照してください。

## 新しい Enterprise Vault ポリシーの追加

このトピックは Enterprise Vault の新しいバックアップポリシーを追加する方法を記述します。

Enterprise Vault の新しいバックアップポリシーを追加する前に次に注意します。

- 新しいポリシーを作成するのに CLI (Command Line Interface) を使う場合、Enterprise Vault Agent のポリシー形式の識別番号は 39 です。
- 複数ストリームのバックアップとリストアは現時点でサポートされません。

### 新しいポリシーを追加する方法

- 1 マスターサーバーに管理者としてログオンし (Windows)、NetBackup 管理コンソールを起動します。
- 2 サイトに複数のマスターサーバーが存在する場合は、ポリシーを追加するマスターサーバーを選択します。
- 3 適切な選択を行い、新しいポリシーを追加します。
  - 左ペインで、[ポリシー (Policies)] を右クリックします。[新しいポリシー (New Policy)] を選択します (Windows インターフェース)。
  - 左ペインで、[ポリシー (Policies)] をクリックします。[すべてのポリシー (All Policies)] ペインで、マスターサーバーを右クリックして、[新しいポリシー (New Policy)] を選択します (Java インターフェース)。
- 4 [新しいポリシーの追加 (Add a New Policy)] ダイアログボックスの [ポリシー名 (Policy name)] フィールドに、新しいポリシーの一意の名前を入力します。
- 5 [バックアップポリシーの構成ウィザードを使用する (Use Backup Policy Configuration Wizard)] チェックボックスのチェックマークをはずします。

---

**メモ:** デフォルトでは、このオプションにはチェックマークが付いています。新しいポリシーを手動で作成する場合はこのチェックボックスのチェックマークをはずします。このチェックボックスのチェックマークを付けたままにすると、バックアップポリシーの構成ウィザードが表示され、手順に従ってバックアップポリシーを作成できます。

---

- 6 [OK] をクリックします。

- 7 [新しいポリシーの追加 (Add a New Policy)]ダイアログボックスの[属性 (Attribute)]タブで、[ポリシー形式 (Policy type)]ドロップダウンリストから[Enterprise-Vault]ポリシー形式を選択します。

マスターサーバーにデータベースエージェントのライセンスキーが登録されていない場合、ドロップダウンメニューに Enterprise Vault のデータベースエージェントのポリシー形式は表示されません。

- 8 [属性 (Attributes)]タブのエントリを設定します。

- 9 次のとおり、ポリシー情報を追加します。

■ スケジュールを追加します

p.39の「Enterprise Vault ポリシーへのスケジュールの追加」を参照してください。

■ クライアントを追加します

p.45の「ポリシーへのクライアントの追加」を参照してください。

■ Enterprise Vault の指示句を[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストに追加します

p.42の「バックアップ対象リストの作成」を参照してください。

- 10 すべてのスケジュール、クライアント、バックアップ対象が完了したら、[OK]をクリックします。

ポリシーは、有効であれば、検証されて作成されます。ポリシーが無効なら、ポリシーの検証は状態 69 または 1800 エラーで失敗します。

ポリシーの訂正方法または状態エラーの詳細については、次のセクションを参照してください。

p.42の「バックアップ対象リストの作成」を参照してください。

p.45の「ポリシーへのクライアントの追加」を参照してください。

## Enterprise Vault のバックアップポリシーの属性

ポリシー属性は、ユーザー固有のバックアップ方法やシステム構成によって異なります。

ポリシー属性について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

表 3-2 は Enterprise Vault のバックアップで利用可能であるポリシー属性を示します。

表 3-2 ポリシー属性の説明

属性	説明
ポリシー形式 (Policy type)	<p>ポリシーに含めるクライアントの種類を指定します。ポリシー形式によって、そのクライアント上でNetBackupが実行可能なバックアップ形式が決定される場合もあります。Enterprise Vault Agent を使うためには、[Enterprise-Vault]形式のポリシーを少なくとも 1 つ定義する必要があります。</p> <p><b>メモ:</b> CLI (Command Line Interface) を使う場合、Enterprise Vault Agent のポリシー形式の識別番号は 39 です。</p>
ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)	<p>このポリシーを使用してNetBackupによって並列して実行されるジョブの数を制限します。このオプションをバックアップ対象とEnterprise Vaultの構成が決定する数に設定します。単一のポリシーで複数のジョブが実行される場合があります。さらに、このオプションを使用しないでバックアップを実行できます。</p>
複数のデータストリームを許可する (Allow multiple data streams)	<p>この属性はユーザーがEnterprise Vaultポリシーを作成すると有効になります。ただし、Enterprise Vault Agent は複数のデータストリームの機能をサポートしません。</p> <p>この属性は、各クライアントの自動バックアップが複数のジョブに分割されるように指定します。各ジョブで[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストの一部が、それぞれバックアップされます。ジョブは個別のデータストリームに存在するため、同時に実行できます。利用可能なストレージユニットの数、多重化の設定および最大ジョブパラメータによって、ストリームの総数および並列実行が可能なストリームの数が決まります。</p>
キーワード句 (Keyword phrase)	<p>バックアップの説明文です。バックアップおよびリストアの参照時に有効です。</p>

## Enterprise Vault ポリシーへのスケジュールの追加

それぞれのポリシーには、独自のスケジュールセットがあります。このスケジュールによって、自動バックアップの開始を制御することや、ユーザーによる操作の開始時期を指定することができます。

### スケジュールを追加する方法

- 1 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[スケジュール (Schedules)]タブをクリックします。

[ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスにアクセスするには、NetBackup 管理コンソールのポリシーリストで必要なポリシー名をダブルクリックします。

- 2 [新規 (New)]をクリックします。

- 3 一意のスケジュール名を指定します。
- 4 [バックアップ形式 (Type of backup)]を選択します。
- 5 スケジュールに対する他のプロパティを指定します。
- 6 バックアップを開始して終了する期間を定義する場合は、[開始時間帯 (Start Window)]タブをクリックします。
- 7 特定の日をスケジュールから除外する場合は、[除外日の設定 (Exclude Dates)]タブをクリックします。
- 8 [OK]をクリックします。

## Enterprise Vault のバックアップ形式について

表 3-3 は Enterprise Vault Agent で利用可能なバックアップの形式を記述します。どのような形式のデータがバックアップされるかについて詳しくは、p.53 の「Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについて」を参照してください。

表 3-3 バックアップ形式の説明

バックアップ形式 (Backup Type)	説明
完全バックアップ (Full Backup)	Enterprise Vault コンポーネントをバックアップするにはこのバックアップ形式を選択します。すべての Enterprise Vault の指示句は完全バックアップをサポートします。
ユーザーバックアップ (User Backup)	このバックアップ形式は Enterprise Vault ではサポートされません。
ユーザーアーカイブ (User Archive)	このバックアップ形式は Enterprise Vault ではサポートされません。



バックアップ形式 (Backup Type)	説明
累積増分バックアップ (Cumulative Incremental Backup)	<p>このバックアップ形式では、バックアップ対象リストで指定されたファイルのうち、最後の完全バックアップ以降に変更されているファイルをバックアップします。完全バックアップが 1 度も行われていない場合、すべてのファイルがバックアップされます。累積増分バックアップは、スケジュールの条件に従って自動的に行われます。完全なリストアを行うには、最後の完全バックアップおよび最後の累積増分バックアップが必要です。</p> <p>累積増分バックアップについて、次のことに注意します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SQL データベースについては、累積バックアップはデータベースの差分バックアップです。</li> <li>■ 累積増分バックアップはバックアップに含まれているオブジェクトのアーカイブビットをリセットしません。 p.52 の「アーカイブビットについて」を参照してください。</li> <li>■ アーカイブビットベースでの増分バックアップを行う場合、同じ Enterprise Vault ポリシー内で増分 (差分、累積) バックアップの組み合わせを使用しないでください。</li> </ul>

バックアップ形式 (Backup Type)	説明
差分増分バックアップ (Differential Incremental Backup)	<p>最後の完全バックアップまたは前回の増分バックアップ以降にデータに加えられた変更だけをバックアップする場合に、このバックアップ形式を選択します。</p> <p>SQLデータベースについては、差分増分バックアップはログの切り捨ても行つたトランザクションログをバックアップします。このスケジュール形式はすべての Enterprise Vault のコンポーネントで利用可能です。</p> <p><b>警告:</b> トランザクションログのバックアップと切り捨てが確実に行われるように、通常の差分増分バックアップがすべての EV データベースに対して実行されることを確認してください。オープンパーティションのバックアップではボルトストアデータベースが自動的にバックアップされるため、これはオープンパーティションにも適用されます。</p> <p><b>メモ:</b> Enterprise Vault はトランザクションログモードの設定を完全復旧モデルにして別の SQL データベースを作成します。シマンテック社はこのモードの設定を完全復旧モデルにしておくことを推奨します。さもなければ Enterprise Vault SQL の差分バックアップは使うことができません。</p> <p>NetBackup を使用すると、タイムスタンプまたはアーカイブビットを使用してファイルシステムのファイルをバックアップできます。タイムスタンプまたはアーカイブビットに基づくように増分バックアップを構成する方法については、『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。</p> <p>アーカイブビットに基づく差分増分バックアップでは、ファイルのアーカイブビットが設定されている場合にのみ、そのファイルがバックアップに含まれます。ファイルが正常にバックアップされたら差分増分バックアップはアーカイブビットを消去します。</p> <p><b>メモ:</b> アーカイブビットベースでの増分バックアップを行う場合、同じ Enterprise Vault ポリシー内で増分 (差分、累積) バックアップの組み合わせを使用しないでください。</p>

## バックアップ対象リストの作成

Enterprise Vault サイト、サーバー、データベース、インデックス、Enterprise Vault パーティションをバックアップするために [バックアップ対象 (Backup Selections)] タブから Enterprise Vault のコンポーネントを指定できます。[バックアップ対象 (Backup Selections)] リストへ指示句を追加することによってバックアップする Enterprise Vault のエンティティを決定します。各指示句はバックアップする Enterprise Vault のコンポーネントを指定します。

---

**メモ:** Enterprise Vault のエンティティ名は、空白から始まることも、空白で終了することもできません。この形式を使用する Enterprise Vault のエンティティ名はサポートされません。

---

NetBackup では、そのポリシーに従ってバックアップが実行されるすべてのクライアントに対して、同じバックアップ対象リストが使用されます。

#### バックアップ対象リストを作成する方法

- 1 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[バックアップ対象 (Backup Selections)]タブをクリックします。
- 2 [新規 (New)]をクリックします。
- 3 [バックアップ対象 (Backup Selections)]フィールドの右に表示される指示句アイコンをクリックします。
- 4 [指示句の選択 (Select Directive)]ダイアログボックスの[指示句 (Directive)]ドロップダウンメニューから、インストールした Enterprise Vault のバージョンを選択します。表示される指示句のリストは、インストールした Enterprise Vault のバージョンに対応します。

次に、Enterprise Vault の指示句に適用される命名規則のリストを示します。

- NetBackup は、コンポーネント名の前後の空白の使用をサポートしません。等号を含む指示句には、*EV site* 名または *EV vault store* 名などのコンポーネント名で変更できる変数フィールドがあります。このコンポーネント名は、空白で開始することも、終了することもできません。Enterprise Vault Agent は、バックアップ対象からこれらの空白を削除します。
- Enterprise Vault は、コンポーネント名の空白をサポートします。Enterprise Vault Agent は、名前が空白で始まるか、または終了する Enterprise Vault コンポーネントをバックアップできません。
- Enterprise Vault では、同じ名前を持つ複数のボルトストアグループ、またはボルトストアを構成することができます。ただし、NetBackup は、同じ名前を使用するボルトストアグループまたはボルトストアが同じディレクトリデータベースを共有する場合、これらをサポートしません。

Enterprise Vault 7.5 以降では、指示句セットによって1つ以上の指示句を選択できます。たとえば、単一のバックアップポリシーで EV\_DIR\_DB 指示句と EV\_MONITORING\_DB 指示句を選択できます。

---

**メモ:** Enterprise Vault 8.0 以降では、EV\_INDEX\_LOCATION= および EV\_OPEN\_PARTITION= 指示句とともに EV\_DIR\_DB 指示句を使用することができません。

---

p.53の「Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについて」を参照してください。

利用可能な Enterprise Vault 7.5 の指示句は、次の通りです。

- EV\_DIR\_DB
- EV\_MONITORING\_DB
- EV\_SERVER
- EV\_SITE
- EV\_VAULT\_STORE
- EV\_VAULT\_STORE=*EV vault store name*
- EV\_VAULT\_STORE\_DB
- EV\_VAULT\_STORE\_DB=*EV vault store name*
- EV\_INDEX\_LOCATION
- EV\_OPEN\_PARTITIONS
- EV\_CLOSED\_PARTITIONS

利用可能な Enterprise Vault 8.0 以降の指示句は、次の通りです。

- EV\_DIR\_DB
- EV\_MONITORING\_DB
- EV\_FSAREPORTING\_DB
- EV\_AUDIT\_DB
- EV\_INDEX\_LOCATION=*site name*
- EV\_OPEN\_PARTITION=*vault store name*
- EV\_CLOSED\_PARTITIONS=*vault store name*
- EV\_READY\_PARTITIONS=*vault store name*
- EV\_VAULT\_STORE\_DB=*vault store name*
- EV\_FINGERPRINT\_DB=*vault store group name*

- 5 [OK]をクリックします。
- 6 指示句を選択して[名前の変更(Rename)]をクリックすることによって指示句の名前を変更できます。
- 7 [バックアップ対象(Backup Selections)]リストに指示句を追加し終わったら[OK]をクリックします。

## ポリシーへのクライアントの追加

クライアントリストには、自動バックアップの対象になるクライアントが表示されます。また、ポリシーで指定されているクライアントは、Enterprise Vault サーバーである必要があります。

---

**メモ:** ポリシーには 1 つのクライアントのみを追加できます。同じポリシーでの複数のクライアントはサポートされません。

---

NetBackup クライアントソフトウェアは、Enterprise Vault データベースのホストになる各システム、または Enterprise Vault サーバーである各システムにインストールされている必要があります。

### クライアントをポリシーに追加する方法

- 1 [ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスで、[クライアント (Clients)] タブをクリックします。

[ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスにアクセスするには、NetBackup 管理コンソールのポリシーリスト内のポリシー名をダブルクリックします。

- 2 [新規 (New)] をクリックし、インターフェースにクライアント名を入力します。

ポリシークライアント名の推奨事項については p.107 の「Enterprise Vault ポリシーのホストについて」を参照してください。

Enterprise Vault のサイトエイリアスおよびサーバーエイリアスについて詳しくは、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

- 3 (Windows インターフェース) クライアントの名前を入力し、Enter キーを押します。

NetBackup によってハードウェアおよびオペレーティングシステムが検出されない場合、この情報を指定するダイアログボックスが表示されます。

Enterprise Vault サーバーが Enterprise Vault クラスタに含まれている場合は、Enterprise Vault サーバーの仮想名をポリシークライアントとして指定する必要があります。

4 (Java インターフェース) 追加するクライアント名を入力します。

Enterprise Vault サーバーが Enterprise Vault クラスタに含まれている場合は、Enterprise Vault サーバーの仮想名をポリシークライアントとして指定する必要があります。

クライアントを追加する場合、次のオプションを使用できます。

クライアント名 (Client Name) 追加するクライアント名を入力します。

ハードウェアおよび OS (Hardware and operating system) クライアントの適切なハードウェアおよびオペレーティングシステムを選択します。

5 (Java インターフェース) [追加 (Add)]をクリックします。

次の指示句では、複数のクライアントが許可されません。

- EV\_INDEX\_LOCATION=
- EV\_OPEN\_PARTITION=
- EV\_READY\_PARTITIONS=
- EV\_CLOSED\_PARTITIONS=
- EV\_FINGERPRINT\_DB=
- EV\_VAULT\_STORE\_DB=

6 他に追加するクライアントがない場合は、[OK]をクリックします。

クライアントの追加は Enterprise Vault の新しいポリシーを作成する最後の手順です。

# Enterprise Vault によって バックアッププロバイダに提 供される機能について

この章では以下の項目について説明しています。

- バックアップ前の Enterprise Vault の静止について
- Enterprise Vault サービスの静止と静止解除の切り替えについて
- 個別静止について
- セーフコピーとバックアップの管理について
- パーティションの安全通知ファイルについて
- アーカイブビットについて

## バックアップ前の Enterprise Vault の静止について

オープンパーティションかインデックスの場所をバックアップするには、バックアップジョブを開始する前に Enterprise Vault を静止する必要があります。Enterprise Vault 7.5 で静止が行われる方法は、Enterprise Vault 8.0 以降での方法とは異なります。

---

**メモ:** Enterprise Vault は、静止を定義するために 3 つの用語を使います。これらの 3 つの用語は、読み取り専用モード、バックアップモード、および静止です。これらの用語は、Enterprise Vault に関しては同じような意味で使用されます。

---

Enterprise Vault 7.5 では、NetBackup が Enterprise Vault を静止するときに次のことが適用されます。

- 静止は常に、Enterprise Vault サーバーレベルで起こります。たとえば、1 つのボルトストアだけをバックアップする必要がある場合は、Enterprise Vault サーバー全体が読み取り専用モードになります。
- Enterprise Vault サーバーが読み取り専用モードになる時はいつでも、読み取り専用モードになる 4 つのサービスがあります。次のリストは、静止する Enterprise Vault サービスの名前を示します。
  - タスク制御サービス
  - ストレージサービス
  - インデックスサービス
  - ショッピングサービス
- Enterprise Vault サーバーが読み取り専用モードになると、データにアクセスできませんが、データをアーカイブすることはできません。1 つのオープンパーティションだけがバックアップされる場合であっても、Enterprise Vault サーバーのボルトストアでアーカイブは行われません。

p.48 の「Enterprise Vault サービスの静止と静止解除の切り替えについて」を参照してください。

Enterprise Vault 8.0 以降では、Enterprise Vault コンポーネントを静止するためにより細かい方法が使用されます。

p.49 の「個別静止について」を参照してください。

## Enterprise Vault サービスの静止と静止解除の切り替えについて

Enterprise Vault 8.0 以降では、静止と静止解除の切り替えがコンポーネントレベルで行われます。

p.49 の「個別静止について」を参照してください。

Enterprise Vault 7.5 では、静止と静止解除を切り替えるしくみは、次の Enterprise Vault レジストリキーを通して、Enterprise Vault サーバーレベルで実行されます。

- EnableArchive
- EnableCrawler
- EnableExpiry
- EnableFileWatch
- EnablePSTMigrations
- EnableReplayIndex



### ■ EnableRestore

Enterprise Vault のレジストリキーの場所は次の通りです。

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥KVS¥Enterprise Vault¥Storage
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥KVS¥Enterprise Vault¥Storage

次のリストは Enterprise Vault サービスを静止または静止解除するための大まかな概要を示します。

- Enterprise Vault サービスを静止するには、Enterprise Vault サービスを停止し、Enterprise Vault の特別なレジストリキーを作成し、そしてサービスを再起動します。ゼロの値で Enterprise Vault のレジストリキーを作成してください。
- Enterprise Vault サービスを静止解除するには、Enterprise Vault サービスを停止し、Enterprise Vault の特別なレジストリキーを削除し、そしてサービスを再起動します。

同じ Enterprise Vault サーバーで複数の静止ジョブと静止解除ジョブが動作できます。したがって、NetBackup は、レジストリカウンタ (NBU\_EV\_QSE\_LEVEL) を使用して、Enterprise Vault サービスが読み取り専用モードになった回数を追跡します。このカウンタの値がゼロなら、Enterprise Vault サービスは読み書きモードで実行されています。このカウンタの値がゼロ以外なら、Enterprise Vault サービスは読み取り専用モードで実行されています。

---

**メモ:** Windows のレジストリエディタを適切に使用しないと、オペレーティングシステムが正しく機能しない場合があります。Windows レジストリに対して変更を行う場合は十分に注意してください。レジストリの変更は、レジストリエディタアプリケーションの経験があるユーザーのみが行ってください。レジストリを変更する前に、レジストリとワークステーションの完全バックアップを行うことをお勧めします。

---

このレジストリのカウンタの場所は次のアドレスの 1 つです。

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥KVS¥Enterprise Vault¥NetBackup
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥KVS¥Enterprise Vault¥NetBackup

## 個別静止について

Enterprise vault 8.0 以降は、すべてのレベルで、バックアップモードを設定する機能をサポートします。ただし、NetBackup 7.1 以降のバージョンは、ボルトストアとインデックスの場所レベルでのみバックアップモードを設定します。

ボルトストアとインデックスの場所レベルでバックアップモードを設定する機能によって、バックアップ中に確実に次のことが行われます。

- 1つのボルトストアがバックアップモードになっていても、Enterprise Vault サイトの他のすべてのボルトストアは引き続きアーカイブできます。ボルトストアでバックアップモードが設定されると、その内容を取り込むことができます。ただしボルトストアは、バックアップモードが解除されるまで新しい内容をアーカイブできません。
- インデックスの場所のバックアップにバックアップモードが設定されると、バックアップモードが解除されるまで、そのインデックスの場所で新しいインデックスは作成されません。
- NetBackup がバックアップモードを設定すると、Enterprise Vault は3つのサービスを内部的に使用します。これらのサービスは、バックアップ中、Enterprise Vault サイトのすべての Enterprise Vault サーバーで起動されている必要があります。次に、バックアップ中に実行されている必要がある3つの Enterprise Vault サービスのリストを示します。
  - ディレクトリサービス
  - ストレージサービス
  - インデックスサービス

バックアップジョブが失敗し、ボルトストアまたはインデックスの場所が引き続きバックアップモードの場合は、Enterprise Vault 管理コンソールまたは PowerShell の cmdlets を使用して、次のバックアップモードを設定したり解除したりすることができます。

- ボルトストア  
追加情報については、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。
- インデックスの場所  
Enterprise Vault 管理コンソールを使用する場合は、バックアップモードを設定または解除する前後に必ずコンソールを更新してください。  
追加情報については、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

---

メモ: Enterprise Vault 9.0 以降のバージョンは静止の原子性をサポートします。

---

## セーフコピーとバックアップの管理について

Enterprise Vault は、パーティションバックアップに基づいてセーフコピーを管理します。パーティションバックアップが完了すると、バックアップ製品は Enterprise Vault に対して、バックアップが正常に完了したことを知らせます。Enterprise Vault はそれからセーフコピーを削除します。Enterprise Vault は、バックアップ製品からの通知を、パーティ

ションの安全通知ファイルを通して、またはパーティションのファイルのアーカイブビットによって受け入れます。いずれかの通知方式を受け入れてパーティション内のファイルがバックアップされたかどうかを判断するように Enterprise Vault を構成することができます。

p.51 の「パーティションの安全通知ファイルについて」を参照してください。

p.52 の「アーカイブビットについて」を参照してください。

## パーティションの安全通知ファイルについて

Enterprise Vault 8.0 以降は、[トリガファイルを確認 (Check for a trigger file)] オプションを有効にすることによって、セーフコピーを管理するためのトリガファイルのしくみをサポートします。Enterprise Vault は、ボルトストアパーティションのアーカイブされたデータがバックアップされているかどうかを判断します。パーティションのルートディレクトリのトリガファイルを調べます。

- 『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』のトリガファイルのしくみの使用に関する記述を参照してください。
- 『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』のセーフコピーの管理に関する記述を参照してください。

Enterprise Vault 8.0 以上のパーティション (オープン、クローズ、または準備完了パーティション) のバックアップに成功すると、NetBackup は、PartitionSecuredNotification.xml ファイルを作成して、そのパーティションのルートディレクトリに保存します。PartitionSecuredNotification.xml ファイルの作成は、Enterprise Vault の構成方法には依存しません。このファイルは、NetBackup によって常に作成されます。

PartitionSecuredNotification.xml ファイルには、ベンダー名、ベンダーのアプリケーションの種類とタイムスタンプが含まれます。次のタイムスタンプがトリガファイルに書き込まれます。

- スナップショットベースのバックアップの場合:スナップショット作成前の時間。
- スナップショットベースではないバックアップの場合:バックアップ (ジョブ全体のバックアップ部分) ジョブが開始される前の時間。

バックアップは、PartitionSecuredNotification.xml ファイルを作成します。このファイルは、以降のバックアップでバックアップされます。

オープン、クローズ、または準備完了パーティションのリストアを準備するときは、PartitionSecuredNotification.xml ファイルをリストア対象に選択していないことを確認してください。

## アーカイブビットについて

Enterprise Vault 7.5 以降のバージョンは、セーフコピーの管理をサポートする方法としてアーカイブ属性オプションを使います。ビットが消去されると、Enterprise Vault はファイルがバックアップ済みであるとみなし、対応するセーフコピーはすべて削除されます。NetBackup Enterprise Vault Agent は、完全および差分スケジュールでバックアップされたファイルのアーカイブビットをリセットします。

累積増分バックアップはバックアップに含まれているオブジェクトのアーカイブビットをリセットしません。さらに差分増分バックアップが完了した後(およびアーカイブビットがリセットされた後)、累積増分バックアップが実行された場合、累積増分バックアップは差分増分バックアップでバックアップされたファイルを含みません。

Enterprise Vault ボルトストアが[バックアップ後にコピーを安全に削除する (Remove safety copies after backup)]オプションが設定された状態で構成されて、Enterprise Vault パーティションがバックアップに[アーカイブ属性を使用する (Use the archive attribute)]を設定して構成された場合は、累積増分バックアップの後にアーカイブファイル (セーフコピー) は削除されません。

# Enterprise Vault のバックアップの実行

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについて
- Enterprise Vault のリソースの手動バックアップ
- アクティビティモニターからの Enterprise Vault のバックアップジョブの取り消し

## Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについて

Enterprise Vault データをバックアップするポリシーを作成するとき、バックアップするデータに基づいて指示句を選びます。さらに、バックアップするデータはポリシーで選択するクライアントによっても決まります。次の表は、Enterprise Vault 7.5 および Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンに利用可能な Enterprise Vault の各指示句を示します。最後に、その特定の指示句が選択されている場合にバックアップされるデータについて簡単に示します。

---

**メモ:** シマンテック社は同じ Enterprise Vault のデータをバックアップしない指示句を用いて Enterprise Vault のポリシーを作成することを推奨します。たとえば、EV\_SITE 指示句を用いる Enterprise Vault 7.5 のバックアップポリシーは EV\_SERVER 指示句を用いるバックアップポリシーと同じデータをバックアップできます。この場合、EV\_SERVER 指示句で構成される Enterprise Vault のバックアップポリシーを実行する必要はありません。

---

表 5-1 は、Enterprise Vault 7.5 の指示句を示します。各指示句では、ポリシークライアントが指定されており、各指示句が完全バックアップ、差分バックアップおよび累積バック

アップに適用されます。また、Enterprise Vault 7.5 は、複数のポリシークライアントをサポートします (EV\_VAULT\_STORE\_DB= 指示句を除く)。

表 5-1 Enterprise Vault 7.5 の指示句とそれらがバックアップする対象

指示句 (バックアップ対象)	説明
EV_DIR_DB (ディレクトリデータベース)	<p>ディレクトリデータベースは設定情報を含む SQL データベースです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントが属する Enterprise Vault サイトのディレクトリデータベースをバックアップするのにこの指示句を使います。</li> <li>■ ディレクトリデータベースはポリシークライアントでホストされている必要はありません。</li> <li>■ このデータベースはサイトレベルのデータベースと呼ばれます。</li> </ul>
EV_MONITORING_DB (監視データベース)	<p>監視データベースは Enterprise Vault の監視サービスと関連付けられる SQL データベースです。このデータベースは通常 Enterprise Vault のアクティビティについてのパフォーマンスと傾向の情報を含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントが属する Enterprise Vault サイトの監視データベースをバックアップするのにこの指示句を使います。</li> <li>■ 監視データベースはポリシークライアントでホストされている必要はありません。</li> <li>■ このデータベースはサイトレベルのデータベースと呼ばれます。</li> </ul>
EV_INDEX_LOCATION (Enterprise Vault のインデックスの場所)	<p>Enterprise Vault のインデックスの場所をバックアップするのにこの指示句を使います。この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault サーバーエイリアスに固有のインデックスの場所をバックアップするのにこの指示句を使います。</li> </ul>
EV_VAULT_STORE (Enterprise Vault ボルトストア)	<p>Enterprise Vault ボルトストアは 1 つ以上のパーティションとボルトストアデータベースから成っています。EV_VAULT_STORE 指示句は Enterprise Vault サーバーエイリアスに固有のすべてのボルトストアのデータをバックアップすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各ボルトストアに属するデータをバックアップするのにこの指示句を使います。それはすべてのパーティションと対応するボルトストアデータベースを含んでいます。</li> <li>■ ボルトストアデータベースは異なるシステムでホストすることができます。</li> </ul>

指示句 (バックアップ対象)	説明
<p>EV_VAULT_STORE=EV Vault Store name(Enterprise Vault ボルトストア)</p>	<p>Enterprise Vault ボルトストアは 1 つ以上のパーティションとボルトストアデータベースから成っています。ポリシーで定義した特定の Enterprise Vault サーバーのための特定のボルトストアをバックアップするのにこの指示句を使います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対応するボルトストアデータベースと共に特定のボルトストアのすべての Enterprise Vault パーティションをバックアップするのにこの指示句を使います。</li> <li>■ EV Vault Store name が指定されていなければ、ジョブは失敗します。</li> <li>■ ボルトストアデータベースは異なるシステムでホストすることができます。</li> </ul>
<p>EV_OPEN_PARTITIONS (オープンパーティション) と EV_CLOSED_PARTITIONS (クローズパーティション)</p>	<p>オープンパーティションとクローズパーティションは、Enterprise Vault アーカイブを格納します。それらは NTFS ファイルシステムか NAS デバイスに存在する場合があります。各パーティションはオープンの状態かクローズの状態にあります。クローズパーティションの指示句を使用して、Enterprise Vault サーバーエイリアスに存在するすべてのクローズパーティションをバックアップします。オープンパーティションの指示句を使用して、Enterprise Vault サーバー A に存在するすべてのオープンパーティションをバックアップします。また、オープンパーティションがバックアップされると、対応するボルトストアデータベースもバックアップされます。</p> <p>これらの指示句のどちらかと任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <p>オープンパーティションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対応するボルトストアデータベースと共にポリシークライアントでホストされるすべてのオープンパーティションがバックアップされます。</li> <li>■ バックアップされたそれぞれのオープンパーティションは、ポリシークライアントでホストされるボルトストアの一部です。</li> </ul> <p>クローズパーティションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントでホストされるすべてのクローズパーティションがバックアップされます。</li> <li>■ バックアップされたそれぞれのクローズパーティションは、ポリシークライアントでホストされるボルトストアの一部です。</li> </ul>
<p>EV_VAULT_STORE_DB (Enterprise Vault ボルトストアデータベース)</p>	<p>Enterprise Vault ボルトストアデータベースはボルトストアとアーカイブされたデータについてのメタデータを含むことができる SQL データベースです。</p> <p>EV_VAULT_STORE_DB 指示句はポリシーで定義した特定の Enterprise Vault サーバーのためのすべてのボルトストアデータベースをバックアップすることを可能にします。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントがホストするボルトストアに対応するすべてのボルトストアデータベースがバックアップされます。</li> <li>■ ボルトストアデータベースは異なるシステムでホストすることができます。</li> </ul>

指示句 (バックアップ対象)	説明
<p>EV_VAULT_STORE_DB=EV Vault Store name(Enterprise Vault ボルトストアデータベース)</p>	<p>Enterprise Vault ボルトストアデータベースはボルトストアとアーカイブされたデータについてのメタデータを含むことができる SQL データベースです。</p> <p>ポリシーで定義した Enterprise Vault サーバーのための特定のボルトストアのボルトストアデータベースをバックアップするのにこの指示句を使います。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントでホストされる、Vault Store name で指定されたボルトストアの Enterprise Vault ボルトストアデータベースがバックアップされます。</li> <li>■ ボルトストアデータベースは異なるシステムでホストすることができます。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li> <li>■ Vault Store name が指定されていない場合は、ジョブは失敗します。</li> </ul> <p><b>メモ:</b> Vault Store name はボルトストアの名前です。ボルトストアデータベースの名前ではありません。</p>
<p>EV_SERVER (Enterprise Vault サーバー)</p>	<p>Enterprise Vault サーバーは複数のボルトストア、複数のインデックスの場所で構成されます。特定の Enterprise Vault サーバーのすべての Enterprise Vault データをバックアップするときにこの指示句を選択します。この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントでホストされるすべてのインデックスの場所とボルトストア (EV_VAULT_STORE と類似) がバックアップされます。</li> </ul>
<p>EV_SITE (Enterprise Vault サイト)</p>	<p>Enterprise Vault サイトは複数の Enterprise Vault サーバーを含むことができます。さまざまな場所にある複数のデータをバックアップするときにこの指示句を選択します。この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントが属する Enterprise Vault サイトの任意の Enterprise Vault サーバーがホストするすべてのインデックスの場所とボルトストア (EV_VAULT_STORE と類似) をバックアップするのにこの指示句を使います。</li> </ul>

表 5-2 は、Enterprise Vault 8.0 以降の指示句を示します。次の表では、ポリシークライアントが指定されており、各指示句は完全、差分、および累積バックアップに適用されます。また、Enterprise Vault 8.0 は、複数のポリシークライアントをサポートします (EV\_VAULT\_STORE\_DB=、EV\_OPEN\_PARTITION=、EV\_READY\_PARTITIONS=、EV\_CLOSED\_PARTITIONS=、EV\_FINGERPRINT\_DB=、および EV\_VAULT\_STORE\_DB= 指示句を除く)。



表 5-2 Enterprise Vault 8.0 以降の指示句とそれらがバックアップする対象

指示句 (バックアップ対象)	説明
EV_DIR_DB	<p>ディレクトリデータベースは設定情報を含む SQL データベースです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントが属する Enterprise Vault サイトのディレクトリデータベースをバックアップするのにこの指示句を使います。</li> <li>■ ディレクトリデータベースはポリシークライアントでホストされている必要はありません。</li> <li>■ このデータベースはサイトレベルのデータベースと呼ばれます。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートします。複数の Enterprise Vault サイトに独自のディレクトリデータベースがある場合は複数のクライアントを追加する必要があります。</li> <li>■ この指示句を、EV_INDEX_LOCATION= および EV_OPEN_PARTITION= 指示句とともに使用することはできません。</li> </ul>
EV_MONITORING_DB	<p>監視データベースは Enterprise Vault の監視サービスと関連付けされる SQL データベースです。このデータベースは通常 Enterprise Vault のアクティビティについてのパフォーマンスと傾向の情報を含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシークライアントが属する Enterprise Vault サイトの監視データベースをバックアップするのにこの指示句を使います。</li> <li>■ 監視データベースはポリシークライアントでホストされている必要はありません。</li> <li>■ このデータベースはサイトレベルのデータベースと呼ばれます。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートします。複数の Enterprise Vault サイトに独自の監視データベースがある場合は複数のクライアントを追加する必要があります。</li> </ul>
EV_AUDIT_DB	<p>監査データベースは、Enterprise Vault の監査が有効な場合にのみ存在します。監査データベースには、各種の設定可能な Enterprise Vault 操作の監査レコードが含まれます。</p> <p>監査を有効にしている場合は、この指示句を使用して、Enterprise Vault 配置内の監査データベースをバックアップします。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 監査データベースはポリシークライアントでホストされている必要はありません。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートします。複数の Enterprise Vault サイトに独自の監査データベースがある場合は複数のクライアントを追加する必要があります。</li> </ul>

指示句 (バックアップ対象)	説明
EV_FSAREPORTING_DB	<p>FSA レポート用データベースは、FSA レポートが構成されている場合にのみ存在します。FSA レポート用データベースには、ファイルサーバーの開いた状態のファイルおよびアーカイブされたファイルの履歴が含まれます。このデータは、傾向を追跡するために使われ、ファイルサーバーのアーカイブされたファイルと開いた状態のファイルの概略としても使われます。</p> <p>FSA レポートを有効にしている場合は、この指示句を使用して、Enterprise Vault 配置内の FSA レポート用データベースをバックアップします。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ FSA レポートデータベースはポリシークライアントでホストされている必要はありません。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートします。複数の Enterprise Vault サイトに独自の FSA レポート用データベースがある場合は複数のクライアントを追加する必要があります。</li> </ul>
EV_INDEX_LOCATION=Site name	<p>この指示句を使用して、Site name 変数が指定する、Enterprise Vault サイトのすべてのインデックスの場所をバックアップします。この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ この指示句を EV_DIR_DB 指示句とともに使うことはできません。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li> <li>■ Site name が指定されていない場合は、ジョブは失敗します。</li> </ul>
EV_OPEN_PARTITION=Vault Store name	<p>オープンパーティションの指示句は、Vault Store name を定義するときに指定するボルトストアのすべてのオープンパーティションとボルトストアデータベースをバックアップします。パーティションは NTFS ファイルシステムか NAS デバイスに存在する場合があります。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <p>オープンパーティションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ この指示句を EV_DIR_DB 指示句とともに使うことはできません。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li> <li>■ Vault Store name が指定されていない場合は、ジョブは失敗します。</li> </ul> <p><b>メモ:</b> ストリーマに基づくオープンパーティションでは、バックアップの成功が部分的であるため、この指示句を使わないでください。代わりに、EV_VAULT_STORE_DB 指示句を使ってください。</p>

指示句 (バックアップ対象)	説明
EV_CLOSED_PARTITIONS=Vault Store name	<p>クローズパーティションの指示句は、<i>Vault Store name</i> を定義するときに指定するボルトストアのすべてのクローズパーティションをバックアップします。パーティションは NTFS ファイルシステムか NAS デバイスに存在する場合があります。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <p>クローズパーティションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li> <li>■ <i>Vault Store name</i> が指定されていない場合は、ジョブは失敗します。</li> </ul> <p><b>メモ:</b> ストリーマに基づくクローズパーティションでは、この指示句を使わないでください。一部のクローズパーティションがストリーマに基づく場合、ジョブは完了しますが、データは NBU によってバックアップされません。すべてのクローズパーティションがストリーマに基づく場合、ジョブは失敗します。</p>
EV_READY_PARTITIONS=Vault Store name	<p>準備完了パーティションの指示句は、<i>Vault Store name</i> を定義するときに指定するボルトストアの準備完了パーティションをバックアップします。パーティションは NTFS ファイルシステムか NAS デバイスに存在する場合があります。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <p>準備完了パーティションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li> <li>■ <i>Vault Store name</i> が指定されていない場合は、ジョブは失敗します。</li> </ul> <p><b>メモ:</b> ストリーマに基づく準備完了パーティションでは、この指示句を使わないでください。一部の準備完了パーティションがストリーマに基づく場合、ジョブは完了しますが、データは NBU によってバックアップされません。すべての準備完了パーティションがストリーマに基づく場合、ジョブは失敗します。</p>
EV_VAULT_STORE_DB=Vault Store name	<p>Enterprise Vault ボルトストアデータベースはボルトストアとアーカイブされたデータについてのメタデータを含むことができる SQL データベースです。</p> <p>この指示句を使用して、Enterprise Vault 配置内で <i>Vault Store name</i> 変数が指定するボルトストアデータベースをバックアップします。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <p>次のことがこの指示句に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ボルトストアデータベースは異なるシステムでホストすることができます。</li> <li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li> <li>■ <i>Vault Store name</i> が指定されていない場合は、ジョブは失敗します。</li> </ul> <p><b>メモ:</b> <i>Vault Store name</i> はボルトストアの名前です。ボルトストアデータベースの名前ではありません。</p>

指示句 (バックアップ対象)	説明
EV_FINGERPRINT_DB=Vault Store Group name	<p>フィンガープリントデータベースには、ボルトストアパーティションのアーカイブされたデータについての情報が含まれます。この指示句を使用して、指定されたボルトストアグループに関連するフィンガープリントデータベースをバックアップします。<b>Enterprise Vault Agent</b> は、ボルトストアグループが複数のフィンガープリントデータベースをサポートするように構成されている場合、複数のフィンガープリントデータベースを検出できます。</p> <p>この指示句と一緒に任意のバックアップスケジュールを使うことができます。</p> <p>次のことがこの指示句に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ フィンガープリントデータベースは異なるシステムでホストすることができます。</li><li>■ ジョブは、ボルトストアグループ名が指定されていないと失敗します。</li><li>■ この指示句は、クライアントリスト内の複数のポリシークライアントをサポートしません。</li></ul>

## Enterprise Vault のリソースの手動バックアップ

Enterprise Vault のバックアップは Enterprise Vault のバックアップポリシー内の期間を指定すれば自動的に実行されます。ただし、既存の Enterprise Vault のバックアップポリシーに基づいてバックアップを手動で開始することもできます。NetBackup 管理コンソールから手動の Enterprise Vault のバックアップを開始できます。

p.60 の「Enterprise Vault のバックアップを手動で実行する方法」を参照してください。

---

**メモ:** ユーザー主導バックアップはサポートされません。

---

### Enterprise Vault のバックアップを手動で実行する方法

- 1 NetBackup サーバーに管理者としてログオンします。
- 2 [スタート]>[プログラム]>[Symantec NetBackup]>[NetBackup Administration Console]を選択します。
- 3 NetBackup 管理コンソールの左ペインで[ポリシー (Policies)]を展開します。既存のポリシーが表示されます。
- 4 実行するポリシーを選択します。右ペインに、選択したポリシーのためのポリシー設定情報が表示されます。
- 5 ポリシーを右クリックして[手動バックアップ (Manual Backup)]オプションを選択するか、NetBackup 管理コンソールの上部にあるツールバーで[手動バックアップ (Manual Backup)]アイコンをクリックします。

- 6 [手動バックアップ (Manual Backup)]ダイアログボックスからバックアップを開始するスケジュールと 1 つ以上のクライアントを選択します。
- 7 [OK]をクリックして、バックアップを開始します。

## アクティビティモニターからの Enterprise Vault のバックアップジョブの取り消し

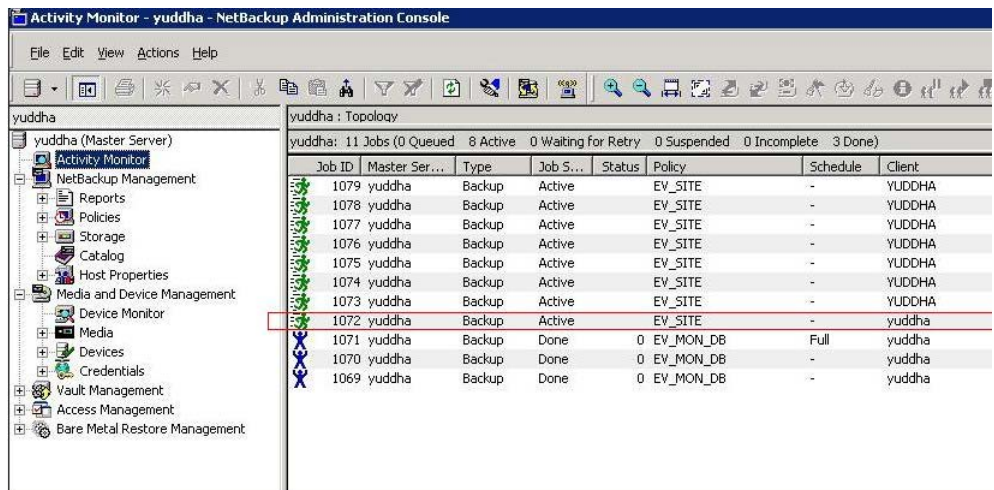
NetBackup アクティビティモニターから Enterprise Vault のバックアップを取り消すことができます。バックアップジョブの取り消しを選択する場合は、次のことが適用されることを理解する必要があります。

- Enterprise Vault Agent ジョブの取り消しを選択すると、すべての子ジョブが取り消されます。選択したジョブは兄弟、アクティブ、またはキューに登録されたジョブとともに取り消されます。親ジョブが存在する場合は、すべての子ジョブが取り消された後に親が取り消しの状態になります。取り消し要求前に完了した兄弟ジョブの状態は変更されないため、それらのイメージをリストアに使用できます。
- Enterprise Vault SQL データベース (ディレクトリデータベースなど) が関係する完全バックアップを取り消す場合は、そのバックアップを終了する必要があります。それから、次の累積バックアップを開始する前に、完全バックアップを作成する必要があります。

### アクティビティモニターから Enterprise Vault のバックアップジョブを取り消す方法

- 1 マスターサーバーに管理者としてログオンします。NetBackup 管理コンソールを起動します。
- 2 [アクティビティモニター (Activity Monitor)]をクリックします。
- 3 取り消す最初のバックアップジョブを選択します。  
 図 5-1 は、取り消し対象として選択されたジョブを示します。
- 4 選択したジョブを右クリックして、[ジョブのキャンセル (Cancel Job)]を選択します。

図 5-1 ジョブを取り消すためのアクティビティモニターでのジョブの選択



# Enterprise Vault のリストアの実行

この章では以下の項目について説明しています。

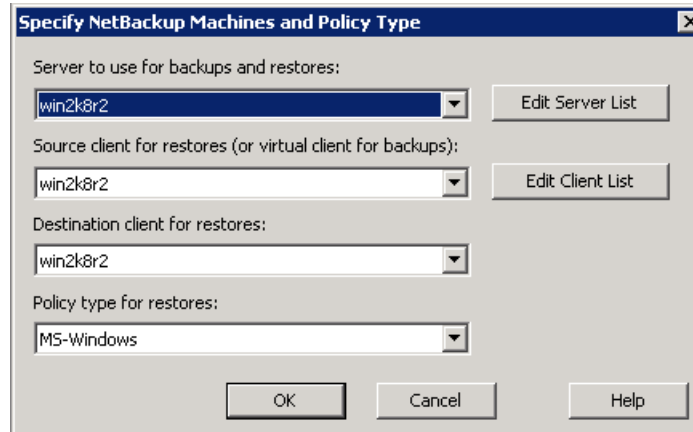
- Enterprise Vault のデータのリストアに関する重要な注意事項
- Enterprise Vault サーバーの管理サービスの停止
- バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースについて
- Microsoft SQL Server Management Studio を使用したバックアップデータの表示
- Enterprise Vault のデータのリストア
- [全般 (General)] タブの Enterprise Vault のリストアオプションについて
- [Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)] タブについて
- リストア用のサーバー、クライアントおよびポリシー形式の指定
- Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリストアについて
- Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア
- Enterprise Vault SQL データベースのリストアについて
- Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア

## Enterprise Vault のデータのリストアに関する重要な注意事項

Enterprise Vault のデータをリストアするには、バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを使用します。Enterprise Vault Agent のポリシーからバックアップを作成した任意の形式の Enterprise Vault データをバックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースからリストアできます。

Enterprise Vault のリストアを始める前に次を確認します。

- Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリストアの宛先クライアントには、Enterprise Vault のバックアップ元クライアントと同じバージョンの Enterprise Vault がインストールされていなければなりません。  
バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースから、宛先クライアントやポリシー形式を変更できます。[ファイル (File)] > [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machine and Policy Type)] の順に選択し、次の図に示すように、このダイアログボックスのオプションに必要な調節をします。



- Enterprise Vault のデータのディザスタリカバリを実行するとき、ディレクトリデータベースを最初にリストアします。正常にディレクトリデータベースをリストアした後、他の Enterprise Vault のコンポーネントとパーティションをリストアできます。
- シマンテック社はオープンパーティションのリストアを試行するときボルトストアデータベースをリストアすることを推奨します。また、ボルトストアデータベースのリストアを試みるとき、オープンパーティションをリストアする必要があります。
- シマンテック社は Enterprise Vault の個々のコンポーネントを一つずつリストアすることを推奨します。
- Enterprise Vault 7.5 以降では、リストアを実行するとき、Enterprise Vault サーバーのすべての Enterprise Vault サービスを停止する必要があります。  
p.65 の「Enterprise Vault サーバーの管理サービスの停止」を参照してください。



Enterprise Vault のデータをリストアするとき、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースで表示されるバックアップイメージを選択します。これらのイメージは Enterprise Vault のファイルシステムのデータか Enterprise Vault SQL データベース用です。

p.65 の「バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースについて」を参照してください。

p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

p.77 の「Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア」を参照してください。

## Enterprise Vault サーバーの管理サービスの停止

次に、リストアを試みる前に Enterprise Vault サーバーの管理サービスを停止する方法を説明します。

### Enterprise Vault サーバーの管理サービスを停止する方法

- 1 [スタート]>[プログラム]>[管理ツール]>[サービス]をクリックします
- 2 [サービス(Services)]ページで、Enterprise Vault の各サービスを選択して停止します。

## バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースについて

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースはリストアするイメージを選択することを可能にする 3 つの主要なペインから構成されています。3 つのペインは [NetBackup の履歴 (NetBackup History)] ペイン、[すべてのフォルダ (All Folders)] ペインと [内容 (Contents)] ペインです。[NetBackup の履歴 (NetBackup History)] ペインはリストアのために利用可能であるバックアップイメージ、実行されたバックアップの形式、ポリシー名を表示します。[すべてのフォルダ (All Folders)] ペインはリストアに利用可能である項目の階層の概観を表示します。このペインは [NetBackup の履歴 (NetBackup History)] ペインのイメージを選択した後更新されます。[内容 (Contents)] ペインは [すべてのフォルダ (All Folders)] ペインで行う選択に対応するファイルを表示します。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースを開くには、NetBackup 管理コンソールのツールバーで [ファイル (File)] > [バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] の順に選択します。[リストアの選択 (Select for Restore)] オプションをクリックすると内容が表示されます。

このインターフェースは実行されているバックアップについての情報も表示します。それからリストアするバックアップイメージを選択できます。ただし、SQL イメージの特定のリス

トアセットと、各リストアセットのための関連付けされたイメージの数を見つけることは困難である場合もあります。1つの理由はインターフェースがデータベース名を表示しないためです。インターフェースの各イメージを見て、データベース名を参照するために各イメージを展開する必要があります。この方式はユーザーにとって、扱いにくく、時間のかかる、混乱の多い方式です。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースはリストアするバックアップイメージのオブジェクトの有無を検索することを可能にする検索機能を含んでいます。検索を始めるには、[履歴 (History)] ペインで一部のイメージを選択し、インターフェースの検索 (双眼鏡) アイコンをクリックします。表示される [バックアップの検索 (Search Backups)] ダイアログボックスの開始日付と終了日付は選んだ日付と一致するように更新されます。[検索フォルダ (Search Folder)] フィールドに正規表現の形式のキーワードを入力します。たとえば、オブジェクト名として「All Partitions」を含むイメージの有無を検索するには \*All Partitions\* を入力します。また [キーワード句 (Keyword Phrase)] フィールドに語句を入力できます。適切な情報を入力した後、[検索 (Search)] をクリックします。

選択したイメージに、入力したキーワードと一致するオブジェクトが含まれていれば、インターフェースはそのイメージのコンテンツを表示します。

---

**メモ:** [リストアする項目の検索 (Search for Items to Restore)] (双眼鏡) アイコンを使って検索を始めることもできます。[バックアップの検索 (Search Backups)] ダイアログボックスが開いたら、検索フォルダ、キーワード、開始日と終了日を入力します。

---

## Microsoft SQL Server Management Studio を使用したバックアップデータの表示

[Microsoft SQL Server Management Studio] と特定のクエリーの使用によって、クエリーの出力から各種の SQL バックアップイメージの情報を表示できます。出力はデータベース名、バックアップの開始日付と終了日付、バックアップ形式 (完全、累積、差分) を含んでいます。このクエリーは簡単にデータベースのバックアップを判断し、次にそれらのイメージを選択し、リストアするのに BAR ユーザーインターフェースを使うことを可能にします。

図 6-1 はバックアップセットの出力例を示します。

図 6-1 バックアップセットの出力例

	Server	database_name	backup_start_date	backup_finish_date	backup_type
1	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-10-10 15:07:08.000	2008-10-10 15:07:10.000	Database
2	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-10-10 15:09:23.000	2008-10-10 15:09:23.000	Database
3	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-10-11 16:39:41.000	2008-10-11 16:39:42.000	Database
4	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-10-12 00:20:35.000	2008-10-12 00:20:35.000	Log
5	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-10-22 19:35:33.000	2008-10-22 19:35:34.000	Database
6	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-11-05 12:09:39.000	2008-11-05 12:09:40.000	Database
7	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-11-05 12:14:58.000	2008-11-05 12:14:59.000	Database
8	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-11-05 13:55:05.000	2008-11-05 13:55:05.000	Database
9	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-11-05 14:11:54.000	2008-11-05 14:11:55.000	Database
10	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-11-05 14:44:54.000	2008-11-05 14:44:54.000	Database
11	RON\NITINDB	EnterpriseVaultDirectory	2008-11-05 19:38:29.000	2008-11-05 19:38:30.000	Database

Query executed successfully. RON\NITINDB (9.0.RTM) RON\Administrator (75) master 00:00:01 352 rows

バックアップ情報を [Microsoft SQL Server Management Studio] を使用して表示する方法

- 1 [Microsoft SQL Server Management Studio] を開きます。
- 2 [新しいクエリ] をクリックします。

3 次のクエリーを入力します。

```
Select

    CONVERT (CHAR (100), SERVERPROPERTY ('Servername')) AS Server,

    msdb.dbo.backupset.database_name,

    msdb.dbo.backupset.backup_start_date,

    msdb.dbo.backupset.backup_finish_date,

    CASE msdb..backupset.type

        WHEN 'D' THEN 'Database'

        WHEN 'L' THEN 'Log'

        WHEN 'I' THEN 'Differential'

    END AS backup_type

FROM    msdb.dbo.backupmediafamily

        INNER JOIN msdb.dbo.backupset ON

msdb.dbo.backupmediafamily.media_set_id =

msdb.dbo.backupset.media_set_id

ORDER BY

    msdb.dbo.backupset.database_name,

    msdb.dbo.backupset.backup_start_date
```

4 [実行]をクリックします。

## Enterprise Vault のデータのリストア

Enterprise Vault はアーカイブされたデータを異なる場所に保存できる分散アプリケーションです。Enterprise Vault のデータをリストアするとき、Enterprise Vault のファイルシステムのデータまたは Enterprise Vault SQL データベースをリストアできます。

Enterprise Vault のファイルシステムのデータは Enterprise Vault のインデックス、オープンパーティション、クローズパーティション、準備完了パーティションから構成されます。Enterprise Vault SQL データベース情報の例は Enterprise Vault ディレクトリデータベース、監視データベースまたはボルトストアデータベースです。次の手順は Enterprise Vault のデータをリストアする方法を記述します。

### Enterprise Vault のデータをリストアする方法

- 1 管理者としてログオンし、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 2 [ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。
- 3 [リストアのポリシー形式 (Policy type for restores)]ドロップダウンリストの [Enterprise-Vault]ポリシー形式を選択します。
- 4 [OK]をクリックします。Enterprise Vault のバックアップイメージが表示されます。
- 5 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアを行うオブジェクトが含まれているイメージを選択します。
- 6 [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Enterprise Vault Resources]を展開します。
- 7 リストアを行うオブジェクトを選択します。
- 8 [処理 (Actions)] > [リストア (Restore)]の順に選択します。
- 9 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、リストアするファイルに応じて 2 つのタブ付きページで選択します。
  - Enterprise Vault のファイルシステムのデータをリストアする場合は、[全般 (General)]タブを更新します。  
p.69 の「[全般 (General)]タブの Enterprise Vault のリストアオプションについて」を参照してください。
  - Enterprise Vault SQL データベースをリストアする場合は、[Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)]タブを更新します。  
p.71 の「[Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)]タブについて」を参照してください。
- 10 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

## [全般 (General)]タブの Enterprise Vault のリストアオプションについて

Enterprise Vault のファイルシステム (FS) のコンポーネントのリストアまたはリダイレクト操作の間にオプションを指定するのに [全般 (General)] タブが使われます。最初に Enterprise Vault のリストアユーザーインターフェースからリストアするコンポーネントを選択します。それからバックアップが実行された場所と同じ場所に、または指定する異なる場所に、これらの選択項目をリストアできます。

表 6-1 はリストア先オプションを含む [全般 (General)] タブのリストアオプションを記述します。

表 6-1 [全般 (General)] タブのリストアオプションのリスト

オプション	説明
元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location)	選択した項目をバックアップ元の同じ位置にリストアします。このオプションはデフォルトです。
すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持)(Restore everything to a different location (maintaining existing structure))	このオプションは無効になっています。
個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different locations)	<p>選択された Enterprise Vault のファイルシステムのデータを異なる位置にリストアするにはこのオプションを選択します。</p> <p>リストア対象としてマーク付けを行った項目が、[個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different locations)] リストボックスに表示されます。リストアのためのフォルダを選択する場合、フォルダ内の個別のファイルではなく、フォルダ名がリストボックスに表示されます。個別のファイルを代替パスにリストアするには、ファイルを個別に選択します。</p> <p>ソースリストをダブルクリックすると、既存の内容が表示されます。既存の内容すべてを削除してから、[新しい宛先の入力 (Enter New Destination)] ダイアログボックスに新しい宛先の物理パスを入力する必要があります。また、新しい宛先を参照するために参照機能を使用することができます。</p> <p><b>メモ:</b> [新しい宛先 (New Destination)] フィールドに新しい宛先を入力する場合は、有効な物理パスを入力する必要があります。</p> <p>NetBackup は、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを実行しているローカルコンピュータを参照します。代替クライアントへのリダイレクトリストアを行うように選択しても、NetBackup はローカルコンピュータのみを参照します。</p> <p>ファイルの宛先の場所を変更するには宛先としてファイル名を入力するか、または選択する必要があります。フォルダの場合、宛先の名前はフォルダ名として使われます。</p> <p>p.76 の「Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリストアについて」を参照してください。</p>
仮想ディスクを作成し、仮想ディスクにリダイレクト (Create virtual disks and redirect to them)	このオプションは無効になっています。
既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)	既存のファイルおよびフォルダが上書きされます。デフォルトでは上書きされません。

オプション	説明
一時ファイル名を使用してファイルをリストア (Restore the file using a temporary file name)	このオプションは無効になっています。
ファイルをリストアしない (If the file exists, do not restore it)	デフォルトのオプションです。

## [Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)]タブについて

[Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)]タブでリストアジョブが完了した後 Enterprise Vault SQL データベースをどのような状態にしておくか選ぶことができます。データベースを操作が可能な状態、不可能な状態、または追加のトランザクションログをリストアできる読み取り専用の状態にするオプションがあります。また、代替 SQL リストア、指定した時点 (PIT) へのリストア、またはリストア完了後のデータベースの一貫性チェックを実行できます。

表 6-2 は [Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)] タブのリストアオプションをリストします。

表 6-2 [Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)]タブのオプション

リストアオプション	説明
リストア完了後のデータベースの状態 (Restore completion state)	<p>リストアが完了した後、SQL データベースを次のいずれかの状態のままにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 操作可能</li> <li>■ 読み取り専用</li> <li>■ 操作不可能</li> </ul> <p>Enterprise Vault SQL データベースを目的の指定した時点 (PIT) またはログの終了 (EOL) の状態にするために、SQL データベースのリストアは一組のリストアから構成されます。リストアの設定例は次から構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データベースの完全リストア</li> <li>■ 最後の累積 (データベースの差分) リストア</li> <li>■ 最後の累積バックアップ後に実行された 1 つ以上の差分 (トランザクションログ) バックアップ</li> </ul> <p>シナリオによっては、リストアのセットには完全、または完全と累積リストアのようなリストアのサブセットが必要になります。セットが増分リストアを含んでいれば、最初のリストアはデータベースを「復旧待ち」状態のままにし、その後のリストアはデータベースに追記されます。従って、リストアセットの最後のリストアジョブにのみ [データベースの操作が可能な状態 (Leave database operational)] オプションを使うべきです。データベースがオンライン状態になれば、ユーザーはそのデータベースでそれ以上の累積または差分 (データベースの差分またはトランザクションログ) リストアを行うことができません。リストアをさらに実行する場合はデータベースの完全リストアから開始する必要があります。</p> <p><b>メモ:</b> PIT または EOL が指定されている場合、NetBackup SQL Agent には SQL のリストアセット (完全、データベースの差分、トランザクションログ) を見つける機能があります。ただし、Enterprise Vault Agent にはこの機能がありません。従って、ユーザーは手動で SQL のリストアセットを見つけ、配列する必要があります。</p>



リストアオプション	説明
リストア後の一貫性チェック (Consistency Check after restore)	<p>リストアが完了した後データベースの一貫性を確認できます。</p> <p>データベースの一貫性を確認するには、[データベースの操作が可能な状態 (Leave database operational)] オプションを選択した場合、次の一貫性チェックの 1 つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インデックスを含まない完全チェック (Full check, excluding indexes)                          一貫性チェックにインデックスを含まない場合に選択します。インデックスをチェックしない場合、一貫性チェックの実行速度は大幅に向上しますが、完全にはチェックされません。一貫性チェックでは、各ユーザー表のデータページおよびクラスタ化インデックスページだけが対象となります。クラスタ化されていないインデックスページの一貫性はチェックされません。</li> <li>■ インデックスを含む完全チェック (Full check, including indexes)                          一貫性チェックにインデックスを含めるにはこのオプションを選択します。エラーはログに記録されます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。</li> <li>■ 物理チェックのみ (SQL 2000 のみ) (Physical check only (SQL 2000 only))                          少ないオーバーヘッドで SQL Server 2000 データベースの物理的一貫性をチェックする場合に選択します。このオプションでは次のみをチェックします。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ページヘッダーおよびレコードヘッダーの物理構造の整合性</li> <li>■ ページのオブジェクト ID とインデックス ID 間の一貫性</li> <li>■ 割り当て構造</li> </ul> </li> <li>■ なし (None)                          リストアの後で一貫性チェックを確実に実行しないようにするにはこのオプションを選択します。  <b>メモ:</b> [なし (None)] 以外の任意のオプションは、データベースの操作を可能な状態にするリストアジョブでのみ有効です。</li> </ul>
指定した時点までのリカバリ (Recover up to a point in time)	<p>「指定した時点 (PIT)」に Enterprise Vault SQL データベースをリカバリするには、PIT 以後の即時差分 (トランザクションログ) バックアップを含んでいるリストアセットを選択します。さらに、このバックアップをリストアするには「PIT」オプションを選択し、PIT を指定する必要があります。</p> <p>最後の差分バックアップのリストアにのみ PIT オプションを使うことを確認する必要があります。PIT オプションを選択することを可能にするには、ユーザーインターフェースの [データベースの操作が可能な状態 (Leave database operational)] オプションを選択する必要があります。</p>
リダイレクトリストア (Redirected restore)	<p>代替クライアント、代替 SQL インスタンス、または代替 SQL データベースにリストアするには、このオプションを選択し、新しい &lt;SQL INSTANCE%SQL database name&gt; を指定します。リストアセットの各リストアでそれをする必要があります。宛先 SQL データベースは存在すべきではありません。存在した場合、宛先データベースでデータ損失の可能性があります。</p> <p><b>メモ:</b> SQL INSTANCE 名は変更できますが、SQL database name は変更しないでください。SQL database name を変更した場合、Enterprise Vault は、新しい名前を自動的に認識しません。SQL database name を変更する場合は、Enterprise Vault の構成も更新する必要があります。</p> <p><b>メモ:</b> 監査データベースのリダイレクトリストアは、ディレクトリデータベースが存在するのと同じ SQL インスタンスに行う必要があります。</p>

リストアオプション	説明
SQLデータベースをオフラインにする (Take SQL database offline)	リストアされる前に宛先 SQL データベースへのすべての接続 (Enterprise Vault の接続を含む) を切断するにはこのオプションを選択します。完全リストアでのみこのオプションを使うべきです。

## リストア用のサーバー、クライアントおよびポリシー形式の指定

Enterprise Vault のデータをリストアするには、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] ユーザーインターフェースを使います。リストア操作を実行するためにソースクライアントと宛先クライアントとともに NetBackup サーバーを指定する必要があります。

Enterprise Vault データのリストアには通常、リダイレクトリストアが関係します。SQL バックアップが行われる方法と同様に、Enterprise Vault バックアップは Enterprise Vault サーバーに対してカタログ化されて、SQL ホストにリストアする必要があります。また、Enterprise Vault サーバーに対してカタログ化される他の Enterprise Vault コンポーネントが存在することがありますが、リストアは別の Enterprise Vault サーバーに行われなければなりません。バックアップの表示から宛先クライアントを解釈する方法については、この章で後ほど説明します。リダイレクトリストアを実行するには、このトピックで説明する追加の手順が必要となります。次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』

---

**メモ:** Enterprise Vault 管理コンソールで宛先クライアントを参照するには、Enterprise Vault サービスが起動して実行中である必要があります。リストアを開始する前に宛先クライアント名を知っておく必要があります。これは、リストアのためにすべての Enterprise Vault サーバーでこれらのサービスを停止する必要があるためです。

---

リストア操作を実行するサーバー、ソースクライアント、宛先クライアントおよびポリシー形式を指定する方法

- 1 管理者としてログオンします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを開きます。
- 3 [ファイル (File)] > [リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)] > [通常バックアップからリストア (from Normal Backup)] をクリックします。
- 4 [ファイル (File)] > [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] をクリックします。

- 5 [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスで、[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]リストからリストアのために使うサーバーを選択します。
- 6 [リストアのソースクライアント (Source client for restores)]リストから、ソースクライアントを選択します。ソースクライアントはバックアップを実行したバックアップポリシーのポリシークライアントです。
- 7 [リストアの宛先クライアント (Destination client for restores)]リストから、目的のクライアントを選択します。宛先クライアントはイメージをリストアするシステムの名前です。NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェース、または Enterprise Vault 管理コンソールのいずれかから、宛先クライアントの名前を判断できます。

Enterprise Vault のバージョンとリストアするデータの種別に基づいて宛先クライアントを解釈します。次に、Enterprise Vault 7.5 または 8.0 以降で、ファイルシステムまたは SQL のデータの種別の宛先クライアントを判断する方法を説明します。

#### ■ Enterprise Vault 7.5 の宛先クライアントの解釈

- ファイルシステムのデータの種別 (インデックスの場所またはオープンパーティションやクローズパーティションなど)  
 NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースから、選択したイメージを展開して Enterprise Vault リソースの階層を表示すると、Enterprise Vault サーバーを表示できます。宛先クライアントは、Enterprise Vault サーバーの横のかつこ内に表示されます。たとえば、CLIENT ONE という名前の宛先クライアントは、[EV サーバー (CLIENT ONE) (EV server (CLIENT ONE))]と階層に表示されます。
- SQL のデータの種別 (ディレクトリデータベース、監視データベース、またはボルトストアデータベースなど)  
 データベース名には、System name¥SQL instance¥SQL DB name のような形式のシステム名が含まれています。たとえば、CLIENT TWO のボルトストアデータベースは[Vault ストア DB (CLIENT TWO¥SQLINST¥database) (Vault Store DB (CLIENT TWO¥SQLINST¥database))]と表示されます。この例での宛先クライアント名は CLIENT TWO です。

#### ■ Enterprise Vault 8.0 以降の宛先クライアントの解釈

- ローカルドライブのファイルシステムのデータの種別 (インデックスの場所、オープンパーティション、クローズパーティション、準備完了パーティションなど)  
 リストアするパーティションのルートパスには、宛先クライアント名として使用するシステム名が含まれます。NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースから、リストアするパーティションまたはインデックスの場所を表示できます。パーティションまたはインデックスの場所

のルートパスは、パーティションまたはインデックスの場所の名前の横のかつこ内に示されます。このルートパスは、`¥¥system name¥Drive$¥partition name` という形式を使用します。たとえば、クローズパーティション VS1 Ptn1 の VMWIN-X64 という名前の宛先クライアントは、`[VS1 Ptn1(¥¥VMWIN-X64¥Drive$¥VS1 Ptn1)]` と表示されます。

- UNC パスのファイルシステムのデータの種類 (インデックスの場所、オープンパーティション、クローズパーティション、準備完了パーティションなど)  
UNC リストアは、Enterprise Vault サイトの任意の Enterprise Vault サーバーを宛先クライアントとして使用できます。これは、ソースパスがファイルパスに埋め込まれているため、データが元の位置に自動的にリストアされるので可能になります。この Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault のユーザー名のクレデンシャルが、この UNC パスに対する書き込み権限を持つことを確認する必要があります。ユーザー名のクレデンシャルは、NetBackup クライアントのプロパティで指定されます。
- SQL のデータの種類 (ディレクトリデータベース、監視データベース、監査データベース、FSA レポート用データベース、フィンガープリントデータベース、ボルトストアデータベースなど)  
データベース名には、`System name¥SQL instance¥SQL DB name` のような形式のシステム名が含まれています。たとえば、CLIENT TWO のボルトストアデータベースは `[Vault ストア DB (CLIENT TWO¥SQLINST¥database) (Vault Store DB (CLIENT TWO¥SQLINST¥database))]` と表示されます。この例での宛先クライアント名は CLIENT TWO です。

- 8 [リストアのポリシー形式 (Policy type for restores)] リストから [Enterprise-Vault] をクリックします。
- 9 [OK] をクリックします。

## Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリストアについて

Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントは Enterprise Vault のインデックス、オープンパーティション、クローズパーティション、または準備完了パーティションとして分類できます。

ファイルシステムのコンポーネントのリストアを試行する前に次の注意を確認します。

- Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリストアの宛先クライアントには、Enterprise Vault のバックアップ元クライアントと同じかそれ以上のバージョンの Enterprise Vault がインストールされていなければなりません。
- バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースは複数のコンポーネントをリストア対象として選択することを禁止しません。ただし、リストアのために複数

のファイルシステムのコンポーネントを選択することはリストア操作が失敗するという結果になることがあります。

- Enterprise Vault のファイルシステムのデータを 1 つのバックアップイメージからリストアするとき[リストア先の選択 (Restore destination choices)]フィールドのオプションを使うことができます。
- 複数のイメージから構成されている Enterprise Vault のファイルシステムのデータをリストアするとき、次が適用されます。
  - 元の場所にデータをリストアできます。
  - 代替のロケーションにデータをリストアするには、[個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different destination location)]オプションを使わなければなりません。
- [新しい宛先の入力 (Enter New Destination)]ダイアログボックスで、物理パスを入力します。但し、ユーザーインターフェースは Enterprise Vault の論理パスを表示します。代替のロケーションの正しい物理パスを反映するために手動でこのパスを更新する必要があります。
- バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースでは、インデックスの場所の下で 1 つ以上のフォルダを選択できます。但しインデックスフォルダの中の個々のファイルは選択できません。さらに、インデックスの場所を選択解除すれば、その場所内に含まれているファイルすべても選択解除されます。
- オープンパーティションをリストアする場合は、利用可能ならボルトストアデータベースもリストアします。

## Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア

インデックスの場所、オープンパーティション、クローズパーティション、または準備完了パーティションのような Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントをリストアするのに同じ手順を使うことができます。インデックスの場所をリストアするとき、その場所の階層に存在するインデックスフォルダをリストアします。オープンパーティションをリストアするとき、Enterprise Vault のアーカイブのために選択した物理的なストアをリストアします。オープンパーティションは NTFS ディレクトリまたは NAS のデバイスの共有である場合もあり、1 つのオープンパーティションのみがボルトストアに存在することができます。さらに、ボルトストアはリストアするために選択できる 1 つ以上のクローズパーティションを含むことができます。

Enterprise Vault のファイルシステムのデータをリストアするのに次のいずれかの方式を使います。

- NetBackup マスターサーバーからリストアを実行します。

- Enterprise Vault のファイルシステムのデータと、Enterprise Vault のファイルシステムのデータのバックアップイメージのための NetBackup ポリシークライアントをホストしたシステムからリストアを実行します。
- Enterprise Vault のファイルシステムのデータをホストしたシステムからリストアを実行します。ただし、このシステムは Enterprise Vault のファイルシステムのデータのバックアップイメージのための NetBackup ポリシークライアントではありませんでした。デフォルトでは、バックアップイメージのポリシークライアントが他の NetBackup クライアントである場合、これらのイメージを NetBackup クライアントで表示することはできません。この場合、NetBackup マスターサーバーに No.Restriction ファイルを追加する必要がある場合もあります。これにより、別の NetBackup クライアントを通して取得された Enterprise Vault のファイルシステムのデータのバックアップイメージを表示し、リストアすることがこの NetBackup クライアントで可能になります。  
次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』[制限ファイルなし (No Restriction File)] について詳しくは、次を参照してください。

#### Enterprise Vault のコンポーネントをリストアする方法

- 1 管理者としてログオンします。
- 2 すべての Enterprise Vault システムの Enterprise Vault 管理サービスを停止します。  
  
p.64 の「Enterprise Vault のデータのリストアに関する重要な注意事項」を参照してください。
- 3 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 4 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]をクリックします。
- 5 [リストア (Restore)]ウィンドウで、[Enterprise-Vault]ポリシー形式を選択します ([ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]をクリックします)。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアを行うオブジェクトが含まれているイメージを選択し、次の順序でリストアします。
  - 完全バックアップイメージ
  - 最後の累積イメージ
  - 最後の累積バックアップの後で取得された一連の差分イメージ
- 8 [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Enterprise Vault Resources]を展開します。
- 9 Enterprise Vault のファイルシステムのリストアするコンポーネントを展開します。

次のリストは展開して選択する対象の例を示します。

- [Index Locations]を展開し、リストアするインデックスフォルダを選択します。
  - [EV Vault Store]>[All Partitions]を展開し、リストアするオープンパーティションを選択します。
  - [EV Vault Store]>[All Partitions]を展開し、リストアするクローズパーティションを選択します。
  - [EV Vault Store]>[All Partitions]を展開し、リストアする準備完了パーティションを選択します。
- 10 [処理 (Actions)]、[リストア (Restore)]をクリックします。
  - 11 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、[全般 (General)]タブをクリックし、リストアのための各種の設定を構成します。
  - 12 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。
  - 13 リストアする各イメージに対して手順 7 から 12 を繰り返します。
  - 14 リストア後、リストアされた Enterprise Vault のファイルシステムのデータを管理する Enterprise Vault サーバーに戻ります。[スタート]>[プログラム]>[管理ツール]>[サービス]をクリックし、各 Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault サービスを再起動します。

## Enterprise Vault SQL データベースのリストアについて

Enterprise Vault SQL データベースコンポーネントは次のいずれかのデータベースとして分類できます。

- ディレクトリデータベース
- 監視データベース
- FSA レポート用データベース
- 監査データベース
- フィンガープリントデータベース
- .NDF データファイル
- ボルトストアデータベース

---

**メモ:** 1 つのリストア操作で複数の Enterprise Vault のイメージをリストアすることはこのリリースでサポートされません。シマンテック社は一度に 1 つのバックアップイメージをリストアすることを推奨します。単一のリストアジョブで複数のバックアップイメージを選択することは予測不能な結果になることがあります。

---

Enterprise Vault SQL データベースのリストアを試行する前に次の注意を確認します。

- 完全および増分バックアップを一つずつリストアします。
- リダイレクトリストアをするとき、[リダイレクトされた SQL リストア (Redirected SQL restore)] オプションを選択し、代替 SQL インスタンスの名前とデータベース名を指定する必要があります。(この要件はリストアセットの各リストアに適用されます。) SQL のインスタンスの名前はシステム名を常に含んでいます。(デフォルトインスタンスの場合、システム名はインスタンスの名前です。)
- Enterprise Vault Agent は元の物理パスから異なっている物理パスに Enterprise Vault SQL データベースのデータおよびログファイル (.MDF と .LDF のファイル) をリストアできません。その結果、Enterprise Vault SQL のリストアは次の通り影響されます。
  - これらのファイルがバックアップ時に使用したドライブ (C:¥ または D:¥) はリストア時に (宛先クライアントで) 利用可能です。
  - リダイレクトリストアでは、新しいパス (SQL のインスタンスまたはデータベース名) がすでに存在し他の一部の物理的なファイルと関連付けられていても、データベースはリストアが完了した後、新しい物理的なファイルと関連付けられます。古いデータベースの物理的なファイルはファイルとして残っているだけで、データベースともはや関連付けられません。
  - リダイレクトリストアでは、リストアされるべき物理的なファイルが存在し他のデータベースと関連付けられている場合、手動でデータベースをオフラインにします。データベースをオフラインにしなければ、リストアはそれらのファイルを上書きできません。

## バックアップイメージのリストアセットについて

バックアップイメージはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースに表示されます。これらのイメージは、Enterprise Vault のファイルシステムのデータか Enterprise Vault SQL データベースに対応します。選択するイメージは、バックアップイメージのリストアセットを構成します。

指定した時点 (PIT) を使用して Enterprise Vault SQL データベースのリストアかリカバリを実行するには、データベースをリストアまたはリカバリする時点を最初に決定します。次に、データベースをリストアまたはリカバリするために、連続してリストアする必要のあるバックアップイメージのグループを決定します。バックアップイメージのこのグループはバックアップイメージのリストアセットと呼ばれます。バックアップイメージのリストアセットは次のイメージから構成されます。

---

**メモ:** リカバリは SQL の差分 (トランザクションログ) バックアップイメージでのみ可能です。

---

- 完全バックアップイメージ: リストアセットは完全バックアップイメージから開始します。



- 累積バックアップイメージ:最後の累積バックアップイメージをセットに追加します。完全バックアップのイメージが取得されてから、リストアまたはリカバリを実行することにした時間までの間にこのイメージが発生した場合は、このイメージを追加します。
- 差分バックアップイメージ:最後の累積バックアップ (または累積バックアップが発生しなければ完全バックアップ) と、リストアまたはリカバリを実行することにした時間の間に発生した差分バックアップイメージを追加します。PIT を使用してリカバリを実行する場合は、リストアセットに PIT 以後の即時差分イメージを含めてください。

次の例に異なるユースケースでバックアップイメージのリストアセットを判断する方法を示しています。

図 6-2 は取得されたいろいろなバックアップイメージとそれが発生した時間を示します。

図 6-2 時間の経過に応じたバックアップイメージ

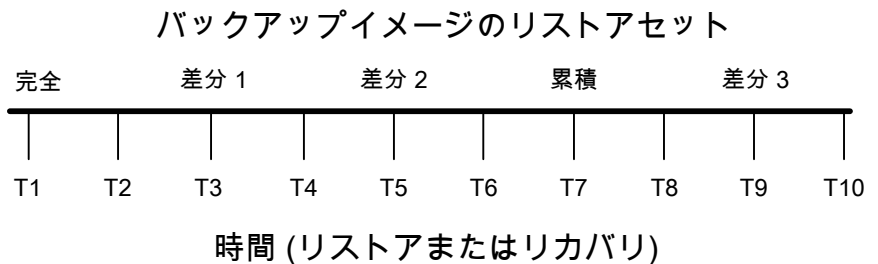


表 6-3 は、指定の時間にバックアップイメージのリストアセットを構成するにはどのバックアップイメージを選択するかを示します。データベースをリストアまたはリカバリする時間に応じて、バックアップイメージのリストアセットに含めなければならないバックアップイメージを決定します。

表 6-3 リストアのために選択するバックアップイメージ

時間	バックアップイメージのリストアセットを構成するバックアップイメージ
t1	完全バックアップ
t2	完全 + 差分 1 (PIT)
t3	完全 + 差分 1
t4	完全 + 差分 1+ 差分 2 (PIT)
t5	完全 + 差分 1+ 差分 2
t6	完全 + 差分 1+ 差分 2+ 差分 3 (PIT)
t7	完全 + 累積

時間	バックアップイメージのリストアセットを構成するバックアップイメージ
t8	完全 + 累積 + 差分 3 (PIT)
t9	完全 + 累積 + 差分 3
t10	完全 + 累積 + 差分 3 (SQL のログ末尾のバックアップ)

次の例はバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースでどのバックアップイメージを選択しなければならないかを説明します。

■ 例 1:

時間 t3 に SQL データベースをリストアするにはバックアップイメージのリストアセットは次のバックアップイメージから構成されなければなりません。

- オプション[データベースをオフラインにする (Take database offline)]と[データベースの操作が不可能な状態 (Leave database Non-operational)]または[データベースを読み取り専用のままにする (Leave database Read-only)]が有効に設定された完全バックアップイメージ。
- オプション[データベースの操作が可能な状態 (Leave database operational)]が有効に設定された最初の差分バックアップイメージ。

■ 例 2:

時間 t8 の PIT を使用して SQL データベースをリカバリするにはバックアップイメージのリストアセットは次のバックアップイメージから構成されなければなりません。

- オプション[データベースをオフラインにする (Take database offline)]と[データベースの操作が不可能な状態 (Leave database Non-operational)]または[データベースを読み取り専用のままにする (Leave database Read-only)]が有効に設定された完全バックアップイメージ。
- オプション[データベースの操作が不可能な状態 (Leave database Non-operational)]または[データベースを読み取り専用のままにする (Leave database Read-only)]が有効に設定された最新の累積バックアップイメージ。
- オプション[データベースの操作が可能な状態 (Leave database operational)]と[指定した時点へのリカバリ (Point-in-time recovery)]が有効に設定された 3 つ目の差分バックアップイメージ。

■ 例 3:

最後の差分バックアップの後の時間 t10 に SQL データベースをリカバリするには、Microsoft 社の SQL のログ末尾のしきみを使わなければなりません。ログ末尾のバックアップの実行について詳しくは、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。この例では、バックアップイメージのリストアセットは次のイメージを含んでいます。

- オプション[データベースをオフラインにする (Take database offline)]と[データベースの操作が不可能な状態 (Leave database Non-operational)]または[デー

データベースを読み取り専用のままにする (Leave database Read-only) が有効に設定された完全バックアップイメージ。

- オプション[データベースの操作が不可能な状態 (Leave database Non-operational)]または[データベースを読み取り専用のままにする (Leave database Read-only)]が有効に設定された最新の累積バックアップイメージ。
- オプション[データベースの操作が可能な状態 (Leave database operational)]と[指定した時点へのリカバリ (Point-in-time recovery)]が有効に設定された 3 つ目の差分バックアップイメージ。
- ログ末尾のバックアップを実行します。このバックアップの形式を実行する方法の手順に関しては Microsoft 社の Web サイトを参照します。

## Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア

次の Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントをリストアするのに同じ手順を使うことができます。

- Enterprise Vault ディレクトリデータベース
- Enterprise Vault 監視データベース
- Enterprise Vault FSA レポート用データベース
- Enterprise Vault 監査データベース
- Enterprise Vault のボルトストアデータベース

---

**メモ:** ボルトストアデータベースをリストアする場合、利用可能なら対応するオープンパーティションもリストアすることを推奨します。

---

- Enterprise Vault フィンガープリントデータベース。

次のシステムのどれからでも Enterprise Vault SQL データベースをリストアできます。

- NetBackup マスターサーバーからのリストアの実行。
- Enterprise Vault SQL データベースと、この SQL データベースのバックアップを作成するために使用されたポリシーのポリシーホストをホストしたシステムからのリストアの実行。
- Enterprise Vault SQL データベースをホストし、Enterprise Vault SQL データベースのバックアップイメージのための NetBackup ポリシークライアントではなかったシステムからのリストアの実行。

---

**メモ:** デフォルトでは、ポリシークライアントが他の NetBackup クライアントであるバックアップイメージを、NetBackup クライアントで表示することは許可されません。NetBackup マスターサーバーに No.Restriction ファイルを追加する必要がある場合もあります。それは他の NetBackup クライアントを通して取得された Enterprise Vault SQL データベースのバックアップイメージを表示し、リストアすることを NetBackup クライアントで可能にします。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照して [制限ファイルなし (No Restriction File)] について詳しくは説明されます。

---

### Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントをリストアする方法

- 1 管理者としてログオンします。
- 2 すべての Enterprise Vault システムの Enterprise Vault 管理サービスを停止します。  
  
p.64 の「Enterprise Vault のデータのリストアに関する重要な注意事項」を参照してください。
- 3 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
- 4 [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]>[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]をクリックします。
- 5 [リストア (Restore)]ウィンドウで、[Enterprise-Vault]ポリシー形式を選択します ([ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選んでください)。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 [NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインで、リストアするバックアップイメージを判断します。  
  
p.80 の「バックアップイメージのリストアセットについて」を参照してください。
- 8 適切な順序でバックアップイメージのリストアセットからバックアップイメージを選択して一度に 1 つのイメージをリストアします。完全バックアップイメージから開始します。
- 9 [すべてのフォルダ (All Folders)]ペインで、[Enterprise Vault Resources]を展開します。
- 10 Enterprise Vault SQL のコンポーネントのリストアするフォルダを選択します。(たとえば、Enterprise Vault ディレクトリデータベース、Enterprise Vault 監視データベース、またはボルトストアデータベースをリストアできます。)
- 11 [処理 (Actions)]、[リストア (Restore)]をクリックします。

- 12 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、[Enterprise Vault データベース設定 (Enterprise Vault Database Settings)]タブをクリックします。
- 13 リストア完了後のデータベースの状態、一貫性チェック、リストアのためのその他の設定を構成します。
- 14 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。
- 15 リストアするために選択する各イメージに対して手順 8 から 14 を繰り返します。
- 16 リストアが完了したら、すべての Enterprise Vault システムの Enterprise Vault サービスを開始します。[スタート]>[プログラム]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。



# ディザスタリカバリ

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault サーバーのディザスタリカバリの要件
- Enterprise Vault サイトのディザスタリカバリについて
- ディレクトリデータベースのリカバリ
- 監査データベースのリカバリ
- FSA レポートデータベースのリカバリ
- 監視データベースのリカバリ
- インデックスの場所のリカバリ
- Enterprise Vault のボルトストアグループのリカバリ
- フィンガープリントデータベースのリカバリ
- ボルトストアデータベースのリカバリ
- ボルトストアパーティションのリカバリ
- Enterprise Vault パーティションのリカバリ
- Enterprise Vault サーバーのリカバリ
- 異なるシステムの Enterprise Vault サーバーのリカバリ

## Enterprise Vault サーバーのディザスタリカバリの要件

ディザスタリカバリの要件には次が含まれています。

- マスターサーバーで追加される Enterprise Vault Agent のためのライセンスが付いている Windows 版 NetBackup のコピー

- リカバリを行う Enterprise Vault サーバーの最新のバックアップ
- 元のインストールで適用されていたすべての Service Pack

Enterprise Vault のディザスタリカバリの要件についてのその他の情報については、シマンテック社サポート Web サイトの『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

## Enterprise Vault サイトのディザスタリカバリについて

災害が起きた場合に、Enterprise Vault の環境をシステムでリカバリできるようにしてください。この環境はディレクトリデータベース、監視データベース、ボルトストアデータベースと Enterprise Vault のインデックスの場所のような Enterprise Vault のコンポーネントから構成されることがあります。また Enterprise Vault サーバーを同じシステムまたは別のシステムにリカバリできるようにしてください。

---

**メモ:** 特記されないかぎり、リカバリ手順のすべての手順を完了するまで Enterprise Vault サービスを開始しないでください。Enterprise Vault サービスを開始して Enterprise Vault 構成を参照する場合は、Enterprise Vault サービスを停止してから、次のリカバリ手順に移動します。リストアの完了後、一貫性を修復するために Enterprise Vault のリカバリツールを実行しないことを選択した場合、データ損失が発生することがあります。また、Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。

---

災害が発生した場合、Enterprise Vault 環境をリカバリするために使用する必要がある論理的な順序があります。次のリストは、データを正常にリカバリするために従う必要がある処理の概略を示します。

- 最初に、ディレクトリデータベースをホストした SQL Server を識別します。
- 識別した SQL Server にオペレーティングシステムと他の必須アプリケーションをインストールしてから、ディレクトリデータベースのリストアを開始します。
- ディレクトリデータベースをリストアします。  
p.89 の「ディレクトリデータベースのリカバリ」を参照してください。
- Enterprise Vault サーバーをシステムの 1 つにインストールして、適切なディレクトリデータベースに Enterprise Vault をダイレクトします。
- 最後に、管理およびディレクトリサービスを開始し、Enterprise Vault 管理コンソールを開きます。Enterprise Vault 管理コンソールを開いた状態で、他のエンティティの宛先クライアントとして使用する Enterprise Vault サーバーと SQL Server を判断します。



---

**メモ:** Enterprise Vault 管理コンソールを使用して宛先クライアントを参照する場合は、必ず Enterprise Vault サービスを停止してからリカバリを開始してください。すべての Enterprise Vault サーバーですべての Enterprise Vault サービスを停止してから、リストアまたはリカバリを試みます。

---

- p.91 の「監視データベースのリカバリ」を参照してください。
- p.89 の「監査データベースのリカバリ」を参照してください。
- p.90 の「FSA レポートデータベースのリカバリ」を参照してください。
- p.91 の「インデックスの場所のリカバリ」を参照してください。
- p.92 の「Enterprise Vault のボルトストアグループのリカバリ」を参照してください。
- p.97 の「Enterprise Vault サーバーのリカバリ」を参照してください。
- p.98 の「異なるシステムの Enterprise Vault サーバーのリカバリ」を参照してください。

## ディレクトリデータベースのリカバリ

次の手順を使用して、Enterprise Vault 7.5 以降のディレクトリデータベースをリカバリします。

---

**メモ:** リカバリ処理を開始する前に、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』の「リカバリ」に関する章を参照してください。

---

### ディレクトリデータベースをリカバリする方法

- 1 Enterprise Vault ディレクトリデータベースをホストしたシステムを開始します。
- 2 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによってこのシステムをリストアのために準備します。
- 3 まだインストールされていなければこのシステムに SQL Server をインストールします。
- 4 このシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 5 Enterprise Vault ディレクトリデータベースをリストアします。  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

## 監査データベースのリカバリ

次の手順を使用して、Enterprise Vault 8.0 以降の監査データベースをリカバリします。

---

**メモ:** リカバリ処理を開始する前に、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』の「リカバリ」に関する章を参照してください。

---

#### 監査データベースをリカバリする方法

- 1 **Enterprise Vault** 監査データベースをホストしたシステムを開始します。このサーバーは、現在ディレクトリデータベースをホストするサーバーと同じである必要があります。

監査データベースは、ディレクトリデータベースをホストするSQL インスタンスにのみ存在することができます。それは別のSQL のインスタンスに存在することはできません。

- 2 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによってこのシステムをリストアのために準備します。
- 3 まだインストールされていなければこのシステムに **SQL Server** をインストールします。
- 4 このシステムに **NetBackup** クライアントをインストールします。
- 5 **Enterprise Vault** の監査データベースを、ディレクトリデータベースが存在する **SQL Server** にリストアします。

p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

## FSA レポートデータベースのリカバリ

次の手順を使用して、Enterprise Vault 8.0 以降の FSA レポートデータベースをリカバリします。

---

**メモ:** リカバリ処理を開始する前に、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』の「リカバリ」に関する章を参照してください。

---

#### FSA レポートデータベースをリカバリする方法

- 1 **Enterprise Vault** FSA レポートデータベースをホストしたシステムを開始します。
- 2 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによってこのシステムをリストアのために準備します。
- 3 まだインストールされていなければこのシステムに **SQL Server** をインストールします。

- 4 このシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 5 Enterprise Vault FSA レポートデータベースをリストアします。  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

## 監視データベースのリカバリ

次の手順を使用して、Enterprise Vault 7.5 以降の監視データベースをリカバリします。

---

**メモ:** リカバリ処理を開始する前に、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』の「リカバリ」に関する章を参照してください。

---

### 監視データベースをリカバリする方法

- 1 Enterprise Vault 監視データベースをホストしたシステムを開始します。
- 2 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによってこのシステムをリストアのために準備します。
- 3 まだインストールされていなければこのシステムに SQL Server をインストールします。
- 4 まだインストールされていなければこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 5 Enterprise Vault 監視データベースをリストアします。  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

## インデックスの場所のリカバリ

次の手順は Enterprise Vault 7.5 以降のインデックスの場所をリカバリする方法を記述します。

---

**メモ:** シマンテック社は Enterprise Vault のインデックスとデータベースの一貫性を確認するために Enterprise Vault ツールを実行することを推奨します。不一致がある場合は、Enterprise Vault のインデックスを再構築します。また、Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。

---

### Enterprise Vault のインデックスの場所をリカバリする方法

- 1 Enterprise Vault サイトの最初の Enterprise Vault サーバーを開始します。
- 2 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによってこのシステムをリストアのために準備します。
- 3 まだインストールされていないならばこのシステムに Enterprise Vault のアプリケーションをインストールします。
- 4 Enterprise Vault 構成内の Enterprise Vault ディレクトリデータベースに Enterprise Vault サーバーを構成します。

Enterprise Vault のバックアップイメージを選択するときこの Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault トポロジーを知ると役立つことがあります。

- 5 まだインストールされていないならばこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 6 この Enterprise Vault サーバーの一部だったすべてのインデックスの場所のインデックスの場所データをリストアします。

p.77 の「Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア」を参照してください。

- 7 この Enterprise Vault サイトの一部だった各 Enterprise Vault サーバーで手順 1 から 6 を繰り返します。

## Enterprise Vault のボルトストアグループのリカバリ

Enterprise Vault のボルトストアグループは、ボルトストアとフィンガープリントデータベースからなります。次の手順を使用して、Enterprise Vault 8.0 以降のボルトストアグループをリカバリします。

### Enterprise Vault のボルトストアグループをリカバリする方法

- 1 ボルトストアグループのボルトストアを識別します。Vault 管理コンソールを使用してボルトストアを識別できます。
- 2 そのボルトストアグループのフィンガープリントデータベースを識別します。
- 3 ボルトストアグループには複数の Enterprise Vault サーバーが関係するため、必要なすべてのサーバーで Enterprise Vault サービスを停止します。
- 4 この Enterprise Vault スタグループの一部である最初のボルトストアをリストアします。リストアする必要があるコンポーネントを判別するには、次の手順を使用します。
  - ボルトストアデータベースをリストアします。  
p.95 の「ボルトストアデータベースのリカバリ」を参照してください。
  - すべてのボルトストアパーティションをリストアします。

最初のボルトストアパーティションをリストアします。

p.95 の「ボルトストアパーティションのリカバリ」を参照してください。

ボルトストア内のすべてのパーティションに対してこの手順を繰り返します。

- 5 この **Enterprise Vault** スタグループの一部である残りのボルトストアすべてで手順 4 を繰り返します。
- 6 フィンガープリントデータベースをリストアします。  
p.93 の「フィンガープリントデータベースのリカバリ」を参照してください。
- 7 リストアが完了したら、**Enterprise Vault** のリカバリツールを実行します。  
リストアの完了後、一貫性を修復するために **Enterprise Vault** のリカバリツールを実行しないことを選択した場合、データ損失が発生することがあります。また、**Enterprise Vault** サポートの指示があった場合に **Enterprise Vault** ツールを実行することをお勧めします。
- 8 すべての **Enterprise Vault** サーバーで **Enterprise Vault** サービスを起動します。

## フィンガープリントデータベースのリカバリ

フィンガープリントデータベースをリカバリするには、次に注意する必要があります。

- フィンガープリントデータベースのリストアの宛先クライアント
- フィンガープリントデータベースの指定した時点へのリカバリを実行するタイムスタンプ

次の手順を使用して、**Enterprise Vault 8.0** 以降のフィンガープリントデータベースをリカバリします。

### フィンガープリントデータベースをリカバリする方法

- 1 フィンガープリントデータベースをリストアする必要があるボルトストアグループの名前を識別します。
- 2 選択したボルトストアグループのボルトストアを識別します。**Vault** 管理コンソールを参照することによってこの情報を入手できます。
- 3 フィンガープリントデータベースをリストアするボルトストアグループの一部である **Enterprise Vault** サーバーを識別します。
- 4 オペレーティングシステムとその他の必要なアプリケーションすべてを (**Enterprise Vault** アプリケーションを含めて)、ボルトストアグループ内のすべての **Enterprise Vault** サーバーにインストールします。

- 5 ボルトストアグループのボルトストアをホストする **Enterprise Vault** サーバーで実行されている **Enterprise Vault** サービスを停止します。リストアされるフィンガープリントデータベースは、そのボルトストアグループと関連付けられます。**Enterprise Vault** サーバーは、**Vault** 管理コンソールのボルトストアのプロパティに[コンピュータ (Computer)]と表示されます。
- 6 フィンガープリントデータベースをリストアする前に、オープンパーティション、クローズパーティションおよび準備完了パーティションと、リストアするフィンガープリントデータベースのボルトストアグループを構成するボルトストアデータベースの最新のバックアップ時刻を取得します。(このバックアップのタイムスタンプは、ボルトストアバックアップのタイムスタンプのことで、このタイムスタンプは、**Enterprise Vault Agent** を使用してリストアされたイメージのバックアップ時刻です。)すべてのパーティションおよびボルトストアデータベースイメージは、同じバックアップ時刻ではないことがあります。そのため、ボルトストアのバックアップタイムスタンプとして最新のバックアップ時刻を使用して、フィンガープリントデータベースのリストアを開始する必要があります。

p.83 の「**Enterprise Vault SQL** データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

複数のフィンガープリントデータベースがある場合は、各フィンガープリントデータベースに対してこの手順を繰り返す必要があります。

- 7 ボルトストアグループ全体の一貫性を修復するために **Enterprise Vault** のリカバリツールを実行します。これは、パーティション、ボルトストアデータベースおよびフィンガープリントデータベースを一貫した状態にするのに役立ちます。

---

**メモ:** **Enterprise Vault** サポートの指示があった場合に **Enterprise Vault** ツールを実行することをお勧めします。

---

- 8 ボルトストアバックアップタイムスタンプの後にフィンガープリントデータベースのバックアップがない場合は、最新の完全バックアップと増分バックアップから、利用可能なフィンガープリントデータベースバックアップすべてをリストアします。**Enterprise Vault** リカバリツールを実行して、フィンガープリントデータベースの欠落しているエントリすべてをリカバリします。欠落エントリを追加しないと、項目の期限が切れるか、または **Enterprise Vault** アーカイブから削除された場合に、データ損失が生じる可能性があります。
- 9 **Enterprise Vault** サーバーでサービスを再起動します。

## ボルトストアデータベースのリカバリ

次の手順では、ボルトストアデータベースをリカバリする方法について説明します。次の手順を使用して、Enterprise Vault 7.5 以降のボルトストアデータベースをリカバリします。

### ボルトストアデータベースをリストアする方法

- 1 このボルトストアのボルトストアデータベースをホストするのに使われたシステムを準備します。オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションをインストールしてシステムを準備します。
- 2 まだインストールされていないければこのシステムに SQL Server をインストールします。
- 3 まだインストールされていないければこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 4 このボルトストアと関連付けされるボルトストアデータベースをリストアします。

p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

- 5 ボルトストアの一貫性を修復するために Enterprise Vault のリカバリツールを実行します。この手順は、パーティション、ボルトストアデータベースを一貫した状態にするのに役立ちます。

不整合の修復に Enterprise Vault のリカバリツールを実行しないことを選択した場合、データ損失が発生することがあります。

Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。

## ボルトストアパーティションのリカバリ

次の手順は Enterprise Vault 7.5 以降のボルトストアパーティションをリカバリする方法を記述します。次の手順は、オープンパーティション、クローズパーティションおよび準備完了パーティションに適用できます。

### ボルトストアパーティションをリカバリする方法

- 1 このボルトストアをホストにするために使用したシステムをリストアする準備をします。
- 2 オペレーティングシステムと他の必須アプリケーションをインストールします。
- 3 まだインストールされていないければこのシステムに Enterprise Vault のアプリケーションをインストールします。

- 4 Enterprise Vault 構成内の Enterprise Vault ディレクトリデータベースに Enterprise Vault サーバーを構成します。

Enterprise Vault のバックアップイメージを選択するときこの Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault トポロジーを知ると役立つことがあります。

- 5 まだインストールされていなければこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 6 ボルトストアパーティションデータをリストアします。

p.77 の「Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア」を参照してください。

- 7 ボルトストアの一貫性を修復するために Enterprise Vault のリカバリツールを実行します。この手順は、パーティションおよびボルトストアデータベースを一貫した状態にするのに役立ちます。

不整合の修復に Enterprise Vault のリカバリツールを実行しないことを選択した場合、データ損失が発生することがあります。Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。

## Enterprise Vault パーティションのリカバリ

次の手順は Enterprise Vault サイト内の Enterprise Vault パーティションをリカバリする方法を記述します。

### Enterprise Vault パーティションをリカバリする方法

- 1 Enterprise Vault サイトの最初の Enterprise Vault サーバーを開始します。
- 2 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによってこのシステムをリストアのために準備します。
- 3 まだインストールされていなければこのシステムに Enterprise Vault のアプリケーションをインストールします。

Enterprise Vault のバックアップイメージを選択するときこの Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault トポロジーを知ると役立つことがあります。(このアプリケーションはデザスタリカバリには不要です。)

- 4 Enterprise Vault 構成内の Enterprise Vault ディレクトリデータベースに Enterprise Vault サーバーを構成します。
- 5 まだインストールされていなければこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。



- 6 この Enterprise Vault サーバーの一部であるすべての Enterprise Vault パーティションのデータをリストアします。  
p.77 の「Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア」を参照してください。
- 7 この Enterprise Vault サイトの一部だった各 Enterprise Vault サーバーで手順 1 から 6 を繰り返します。

## Enterprise Vault サーバーのリカバリ

次の手順は Enterprise Vault サーバーをリカバリする方法を記述します。Enterprise Vault 7.5 以降の Enterprise Vault サーバーをリカバリするには次の手順を使います。

---

**メモ:** シマンテック社は Enterprise Vault のインデックスとデータベースの一貫性を確認するために Enterprise Vault ツールを実行することを推奨します。不一致がある場合は、Enterprise Vault のインデックスを再構築します。また、Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。

---

### Enterprise Vault サーバーをリカバリする方法

- 1 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションをインストールしてリストアのために Enterprise Vault サーバーを準備します。
- 2 まだインストールされていないならばこのシステムに Enterprise Vault のアプリケーションをインストールします。  
Enterprise Vault のバックアップイメージを選択するときこの Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault トポロジーを知ると役立つことがあります。
- 3 この Enterprise Vault サーバーが Enterprise Vault ディレクトリデータベースをホストしていた場合、Enterprise Vault ディレクトリデータベースをリストアします。  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。
- 4 Enterprise Vault 構成内の Enterprise Vault ディレクトリデータベースに Enterprise Vault サーバーを構成します。
- 5 まだインストールされていないならばこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 6 この Enterprise Vault サーバーが Enterprise Vault 監視データベースをホストしていた場合、Enterprise Vault 監視データベースをリストアします。  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。

- 7 Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault 監査データベースをホストしている場合、Enterprise Vault 監査データベースをリストアします。  
p.89の「監査データベースのリカバリ」を参照してください。
- 8 Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault FSA レポートデータベースをホストしている場合は、Enterprise Vault FSA レポートデータベースをリストアします。  
p.90の「FSA レポートデータベースのリカバリ」を参照してください。
- 9 Enterprise Vault でボルトストアグループをホストしている場合は、Enterprise Vault フィンガープリントデータベースをリストアします。  
p.93の「フィンガープリントデータベースのリカバリ」を参照してください。
- 10 この Enterprise Vault サーバーの一部である最初のボルトストアをリストアします。リストアする必要があるコンポーネントを判別するには、次の手順を使用します。
  - ボルトストアデータベースをリストアします。  
p.95の「ボルトストアデータベースのリカバリ」を参照してください。
  - すべてのボルトストアパーティションをリストアします。  
最初のボルトストアパーティションをリストアします。  
p.95の「ボルトストアパーティションのリカバリ」を参照してください。  
ボルトストア内のすべてのパーティションに対してこの手順を繰り返します。
  - ボルトストアの一貫性を修復するために Enterprise Vault のリカバリツールを実行します。これにより、パーティションおよびボルトストアデータベースが一貫した状態になります。Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。
- 11 この Enterprise Vault サーバーの一部である残りのボルトストアで手順 10 を繰り返します。
- 12 この Enterprise Vault サーバーの一部だったすべてのインデックスの場所のインデックスの場所データをリストアします。  
p.77の「Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア」を参照してください。

## 異なるシステムの Enterprise Vault サーバーのリカバリ

次の手順では、Enterprise Vault 7.5 以降の異なるシステムにある Enterprise Vault サーバーをリカバリする方法について説明します。

### 異なるシステムの Enterprise Vault サーバーをリカバリするには

- 1 オペレーティングシステムと他の必須のアプリケーションのインストールによって Enterprise Vault サーバーをリストアのために準備します。
- 2 まだインストールされていなければこのシステムに Enterprise Vault のアプリケーションをインストールします。  
  
Enterprise Vault のバックアップイメージを選択するときこの Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault トポロジーを知ると役立つことがあります。
- 3 Enterprise Vault 構成内の Enterprise Vault ディレクトリデータベースに Enterprise Vault サーバーを構成します。
- 4 まだインストールされていなければこのシステムに NetBackup クライアントをインストールします。
- 5 この Enterprise Vault サーバーが Enterprise Vault ディレクトリデータベースをホストしていた場合、Enterprise Vault ディレクトリデータベース (EV\_DIR\_DB) をリストアします。  
  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。
- 6 新しいシステムのための Enterprise Vault ディレクトリデータベースを更新します。  
  
Enterprise Vault が提供するクエリーを新しいシステムで SQL Server Management Studio を使って実行することによって Enterprise Vault ディレクトリデータベースを更新できます。クエリーは以前の Enterprise Vault サーバーについての情報を新しい Enterprise Vault サーバーで更新します。  
  
このクエリーについて詳しくは、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照します。
- 7 この Enterprise Vault サーバーが Enterprise Vault 監視データベースをホストしていた場合、Enterprise Vault 監視データベース (EV\_MONITORING\_DB) をリストアします。  
  
p.83 の「Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア」を参照してください。
- 8 Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault 監査データベースをホストしている場合、Enterprise Vault 監査データベースをリストアします。  
  
p.89 の「監査データベースのリカバリ」を参照してください。
- 9 Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault FSA レポートデータベースをホストしている場合は、Enterprise Vault FSA レポートデータベースをリストアします。  
  
p.90 の「FSA レポートデータベースのリカバリ」を参照してください。

- 10 Enterprise Vault でボルトストアグループをホストしている場合は、Enterprise Vault フィンガープリントデータベースをリストアします。  
p.93 の「フィンガープリントデータベースのリカバリ」を参照してください。
- 11 この Enterprise Vault サーバーの一部である最初のボルトストアをリストアします。リストアする必要があるコンポーネントを判別するには、次の手順を使用します。
  - ボルトストアデータベースをリストアします。  
p.95 の「ボルトストアデータベースのリカバリ」を参照してください。
  - すべてのボルトストアパーティションをリストアします。  
最初のボルトストアパーティションをリストアします。  
p.95 の「ボルトストアパーティションのリカバリ」を参照してください。  
ボルトストア内のすべてのパーティションに対してこの手順を繰り返します。
  - ボルトストアの一貫性を修復するために Enterprise Vault のリカバリツールを実行します。これにより、パーティションおよびボルトストアデータベースが一貫した状態になります。Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。
- 12 この Enterprise Vault サーバーの一部である残りのボルトストアで手順 11 を繰り返します。
- 13 この Enterprise Vault サーバーの一部だったすべてのインデックスの場所のインデックスの場所データをリストアします。  
p.77 の「Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントのリストア」を参照してください。

---

**メモ:** シマンテック社は Enterprise Vault のインデックスとデータベースの一貫性を確認するために Enterprise Vault ツールを実行することを推奨します。不一致が Enterprise Vault のインデックスにあったらそれらを再構築します。また、Enterprise Vault サポートの指示があった場合に Enterprise Vault ツールを実行することをお勧めします。

---

# Enterprise Vault Agent による EV 7.5、8.0 以降のサポート

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンのポリシーの構成
- Enterprise Vault 10.0 のバックアップに関する注意事項
- エクスクルードリストによるファイルの除外
- Enterprise Vault 7.5 のポリシーの作成用の指示句
- バックアップスケジュールの計画について
- Enterprise Vault ポリシーのホストについて
- Enterprise Vault ツールについて
- Enterprise Vault Agent のバックアップについて
- Enterprise Vault Agent のリストアについて
- Enterprise Vault Agent についての有用なヒント
- Enterprise Vault Agent の機能と EV 7.5 以降のサポート

## Enterprise Vault 8.0 以降のバージョンのポリシーの構成

次の項には、Enterprise Vault 8.0 以降のポリシーの作成に関する情報が含まれません。

p.102 の「オープンパーティション、ボルトストアデータベース、およびフィンガープリントデータベースの一貫性」を参照してください。

p.102 の「クローズパーティションおよび準備完了パーティションの一貫性」を参照してください。

p.103 の「インデックスの場所の一貫性」を参照してください。

p.103 の「ディレクトリデータベースの一貫性」を参照してください。

### オープンパーティション、ボルトストアデータベース、およびフィンガープリントデータベースの一貫性

フィンガープリントデータベースをバックアップするときに一貫性を確保するには、ボルトストアグループとフィンガープリントデータベースのすべてのオープンパーティションを同じポリシーに追加する必要があります。これらのコンポーネントを単一のポリシーにグループ化することによって、すべてのスナップショットがとられるか、またはバックアップが終了するまで、指定のボルトストアを確実にバックアップモードに維持することができます。また、このようにポリシーを構成すると、ボルトストアがバックアップモードになっている時間が少なくなります。

次に、フィンガープリントデータベースを含む新しいポリシーを構成する方法の例を示します。

- EV\_OPEN\_PARTITION=vs1
- EV\_OPEN\_PARTITION=vs2
- EV\_OPEN\_PARTITION=vs3
- EV\_FINGERPRINT\_DB=vsg1

ここで vsg1 はボルトストアグループで、vs1、vs2 および vs3 は vsg1 の下のすべてのボルトストアです。

### クローズパーティションおよび準備完了パーティションの一貫性

クローズパーティションと準備完了パーティションのバックアップの一貫性の維持に役立つ情報を次に示します。

- ボルトストアのクローズパーティションと準備完了パーティションは、個別のポリシーでバックアップする必要があります。また、これらのパーティションは毎日バックアップす

る必要はありません。たとえば、ディレクトリデータベースよりも少ない頻度で、これらのバックアップを実行するようにスケジュールできます。

- データ量が十分に少なければ、複数のボルトストアのクローズパーティションおよび準備完了パーティションを単一のポリシーに組み合わせることができます。ただし、データ量が大きい場合、シマンテック社は、クローズパーティションと準備完了パーティションを別々のポリシーでバックアップすることを推奨します。

## インデックスの場所の一貫性

Enterprise Vault サイトのインデックスの場所は、一貫性を保つために個別のポリシーで保護する必要があります。また、アーカイブ処理はインデックスを定期的に変化する場所、インデックスの場所の毎日のバックアップをスケジュールすることを推奨します。

## ディレクトリデータベースの一貫性

ディレクトリデータベースの一貫性の維持に役立つ情報を次に示します。

- ディレクトリデータベースは、高頻度でバックアップする必要があります。シマンテック社は、このデータベースを毎日バックアップすることを推奨します。
- サイトレベルのすべてのデータベース (ディレクトリ、監視、FSA レポートおよび監査データベース) を単一のポリシーで保護できます。
- Enterprise Vault 8.0 以降では、EV\_INDEX\_LOCATION= および EV\_OPEN\_PARTITION= 指示句とともに EV\_DIR\_DB 指示句を選択することができません。また、インデックスの場所のバックアップポリシー、またはオープンパーティションのバックアップポリシーと同時にディレクトリデータベースポリシーのバックアップを実行するようにスケジュールしないでください。
- シマンテック社は、Enterprise Vault 構成で変更を行う前に、まずディレクトリデータベースをバックアップすることを推奨します。さらに、Enterprise Vault 構成を変更したら、もう一度ディレクトリデータベースをバックアップします。次に、構成の影響が影響した Enterprise Vault コンポーネントの完全バックアップを実行します。

## Enterprise Vault 10.0 のバックアップに関する注意事項

Enterprise Vault 10.0 では、インデックスの場所やボルトパーティションのバックアップを構成する前に、一部のファイルをエクスクルードリストで除外する必要があります。エクスクルードリストは、選択した Windows クライアントのバックアップから除外するファイルとディレクトリのリストです。バックアップを正常に実行するために除外する必要があるファイルを以降の項で示します。

## インデックスの場所のエクスクルードファイルリスト

インデックスの場所のバックアップを実行するためにエクスクルードリストで除外する必要があるファイルを次に示します。

- crawler-fatal-error
- crawler-read-only
- crawler.log
- crawler-service.pipe
- indexer-fatal-error
- indexer-read-only
- indexer.log
- indexer-service.pipe

## ボルトパーティションのエクスクルードファイルリスト

ボルトパーティションのバックアップを実行するためにエクスクルードリストで除外する必要があるファイルを次に示します。

- .ARCH
- .lock

---

**メモ:** ファイル名はワイルドカード文字で囲む必要があります。たとえば、「\*crawler-fatal-error\*」や「\*.ARCH\*」のように指定します。

---

p.104 の「エクスクルードリストによるファイルの除外」を参照してください。

## エクスクルードリストによるファイルの除外

エクスクルードリストは、選択した Windows クライアントのバックアップから除外するファイルとディレクトリのリストです。

UNIX クライアントの場合、bpgetconfig コマンドと bpssetconfig コマンドを使って、各クライアントの /usr/opensv/netbackup ディレクトリからエクスクルードリストファイルを収集して修正します。

詳しくは、次を参照してください。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。



### エクスクルードリストでファイルを除外する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)] > [ホストプロパティ (Host Properties)] > [クライアント (Clients)] を展開します。クライアントをダブルクリックして [クライアントプロパティ (Client Properties)] ダイアログボックスを開きます。
- 2 [エクスクルードリスト (Exclude Lists)] の [追加 (Add)] をクリックします。[エクスクルードリストへの追加 (Add to Exclude List)] ダイアログボックスが開きます。
- 3 [ポリシー (Policy)] フィールドで [すべてのポリシー (All Policies)] を選択します。[ポリシー (Policy)] フィールドに、除外するファイルとディレクトリを含むすべてのポリシーのリストが表示されます。
- 4 [Schedule (スケジュール)] フィールドで [すべてのスケジュール (All Schedules)] を選択します。[スケジュール (Schedules)] フィールドに、バックアップから除外するように選択したポリシーに関連付けられているスケジュールのリストが表示されます。
- 5 [ファイル/ディレクトリ (Files/Directories)] フィールドに、選択したポリシーとスケジュールに基づいてエクスクルードリストで除外する必要があるファイルまたはディレクトリを入力します。
- 6 [追加 (Add)] をクリックして、選択したファイルをエクスクルードリストに追加します。
- 7 [適用 (Apply)] をクリックし、[OK] をクリックします。

p.103 の「Enterprise Vault 10.0 のバックアップに関する注意事項」を参照してください。

## Enterprise Vault 7.5 のポリシーの作成用の指示句

この項には、Enterprise Vault 7.5 の指示句に関する情報が含まれます。また、使用する指示句とそれをポリシーで使うタイミングについての提案も含まれます。

表 8-1 に、各種の Enterprise Vault 7.5 指示句を使用するタイミングについての推奨事項を示します。

表 8-1 使用する指示句およびその使用のタイミング

バックアップ対象	推奨事項
EV_INDEX_LOCATION および EV_OPEN_PARTITIONS	シマンテック社は、これらの指示句を他の指示句よりも高い頻度で使用することを推奨します。実際に、毎日のバックアップを実行するようにこれらの指示句をスケジュールする必要があります。これらの指示句は、より詳細なレベルまでバックアップをとって Enterprise Vault を保護します。これらの指示句は、Enterprise Vault の大きい配備を保護する場合、最も優先されるバックアップ対象でなければなりません。

バックアップ対象	推奨事項
EV_CLOSED_PARTITIONS	クローズパーティションは、EV_SITE または EV_SERVER 指示句を使用するポリシーによってバックアップできます。ただし、これらのポリシーがスケジュールされない場合は、EV_CLOSED_PARTITIONS 指示句をポリシーで使用して、クローズパーティションをバックアップできます。クローズパーティションは通常頻繁には変更されないため、この指示句を使用するバックアップの実行頻度は低くスケジュールすることができます。
EV_VAULT_STORE_DB および EV_VAULT_STORE_DB=	EV_OPEN_PARTITIONS 指示句は、ボルトストアデータベースを暗黙でバックアップするため、ボルトストアを個別にバックアップする必要はありません。ただし、Enterprise Vault 収集が有効な場合は、これらの指示句を使用して、ボルトストアデータベースを定期的にバックアップするように計画する必要があります。収集が無効な場合は、これらの指示句の使用を計画してから、これらのデータベースをホストする SQL Server で保守を実行することができます。また、保守の場合にディレクトリ (EV_DIR_DB) および監視 (EV_MONITORING_DB) データベースのバックアップも計画する必要があります。
EV_VAULT_STORE および EV_VAULT_STORE=	この指示句を使用すると、定期的に修正されないデータが、必要以上に頻繁にバックアップされることになります。シマンテック社は、特定のボルトストアまたは複数のボルトストアを修復するときに、これらの指示句を使用することを推奨します。
EV_SERVER	この指示句を使用すると、定期的に修正されないデータが、必要以上に頻繁にバックアップされることになります。シマンテック社は、Enterprise Vault サーバーでの計画保守にこの指示句を使用することを推奨します。
EV_SITE	この指示句を使用すると、定期的に修正されないデータが、必要以上に頻繁にバックアップされることになります。シマンテック社は、バックアップの時間帯とメディアの使用法が受け入れ可能な場合、小さい Enterprise Vault のセットアップにのみこの指示句を使用することを推奨します。

## バックアップスケジュールの計画について

この項では、バックアップスケジュールを構成するのに役立つ情報を提供します。特に、Enterprise Vault コンポーネントをバックアップするときに完全、増分および累積バックアップを実行する頻度を理解するのに役立ちます。また、この情報は、同時に実行することをスケジュールしてはならない特定のバックアップがあることも示します。

p.36 の「Enterprise Vault のバックアップポリシーの構成要件」を参照してください。

シマンテック社には、バックアップスケジュールを計画する際の次の推奨事項があります。

- すべての Enterprise Vault コンポーネントに対して、少なくとも毎週 1 回の完全バックアップと毎日の増分バックアップを実行する必要があります。さらに、シマンテック社では、毎週 1 回か 2 回の累積バックアップを実行することを推奨します。増分バックアップのサイズを監視すると、累積バックアップをスケジュールする頻度を判断するのに役立ちます。増分バックアップのサイズが大きいほど、累積バックアップを 2 回実行する必要性が高くなります。
- バックアップのスケジュールを判断するときは、特定のバックアップが重ならないように注意する必要があります。たとえば、ディレクトリデータベースのバックアップ時間帯が、オープンパーティションまたはインデックスの場所のバックアップ時間帯と重ならないようにしてください。

## Enterprise Vault ポリシーのホストについて

ポリシーにクライアントを追加するとき、クライアントは Enterprise Vault サーバーである必要があります。すべての Enterprise Vault 8.0 以降のバックアップ対象の形式で、推奨されるクライアント名は、Enterprise Vault サイトエイリアスまたは Enterprise Vault サーバーエイリアスです。

表 8-2 に、ポリシークライアントに推奨される Enterprise Vault 7.5 クライアント名を示します。

表 8-2 推奨される Enterprise Vault 7.5 クライアント名

バックアップ対象	推奨されるクライアント名
EV_SITE	Enterprise Vault サイトエイリアス
EV_SERVER	Enterprise Vault サーバーエイリアス
EV_DIR_DB	Enterprise Vault サイトエイリアスまたは Enterprise Vault サーバーエイリアス
EV_MON_DB	Enterprise Vault サイトエイリアスまたは Enterprise Vault サーバーエイリアス
その他	Enterprise Vault サーバーエイリアス

**メモ:** Enterprise Vault 8.0 では、Enterprise Vault サイトを保護するためにすべてのポリシー全体で同じクライアント名が使用されます。

Enterprise Vault のサイトエイリアスおよびサーバーエイリアスについて詳しくは、『Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

## Enterprise Vault ツールについて

Enterprise Vault には Enterprise Vault のパフォーマンスのテストと検証を行うためのいくつかのユーティリティが用意されています。そのようなユーティリティの 1 つに EVSVR (Enterprise Vault Storage Verify and Repair) ツールがあります。EVSVR ツールは Enterprise Vault のストレージのレポートと検証を行うための Windows のコマンドラインユーティリティです。このツールで Enterprise Vault のストレージのレポート生成、検証、修復を実行できます。

NetBackup では、パーティション、ボルトストアデータベース、またはフィンガープリントデータベースのリストアが正常に完了した後に EVSVR ツールを使って一貫性を調べることを推奨します。このツールは、これらのコンポーネントの修復にも役立ちます。

また、このツールはボルトストアとフィンガープリントデータベースの情報の一貫性も確認します。この技術は EV 9.0.4 から含まれています。

このツールについて詳しくは、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

## Enterprise Vault Agent のバックアップについて

SQL データベースのバックアップを計画する前に Enterprise Vault Agent のバックアップについての次の情報を確認してください。

SQL データベースのバックアップを試行するときには、シマンテック社はあらゆる増分バックアップの前に完全バックアップを実行することを推奨します。完全バックアップがない場合、スケジュールされた増分バックアップを実行すれば次が発生します。

- 最初のスケジュールされた累積増分バックアップはストリームベースのバックアップであり、完全バックアップとして扱われます。ただし、バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースには、バックアップが累積バックアップとして表示されます。そのため、次に続くスケジュールされたどの累積増分バックアップも実際のところ「累積」です。
- 最初のスケジュールされた差分増分バックアップはストリームベースのバックアップであり、完全バックアップとして扱われます。ただし、バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースには、バックアップが差分バックアップとして表示されます。そのため、次に続くスケジュールされたどの差分増分バックアップも実際のところ「差分」です。

Enterprise Vault SQL データベースの完全バックアップに失敗したら、2 番目の完全バックアップを手動で開始して、累積増分スケジュールバックアップが開始する前に、それが必ず正常に終了するようにします。Enterprise Vault SQL データベースの完全バックアップに失敗すると、次のようになります。

- 失敗してから次の正常な完全バックアップが行われるまでに実行された累積増分バックアップがある場合、これをリストアすることはできません。この問題は、失敗した完全

バックアップの後の累積バックアップにのみ影響します。差分増分バックアップは、失敗した完全バックアップの後であっても影響を受けません。

- 累積増分バックアップイメージをリストアする試みは、状態 5 のエラーによって失敗します。この失敗によってデータが失われる可能性があります。tar ログファイルには、次のメッセージが含まれます。SQL Error Description: This differential backup cannot be restored because the database has not been restored to the correct earlier state.
- ただし、差分バックアップのイメージからデータをリストアできます。最後の完全バックアップイメージのリストア後に、すべての差分バックアップイメージをリストアする必要があります。この問題を避けるためには、シマンテック社は累積増分バックアップを始める前に完全バックアップが成功していることを確かめることを推奨します。累積バックアップを試行する前に完全バックアップが確実に成功するとデータ損失のシナリオに対する保護になります。

最後に、Enterprise Vault Agent を使ってバックアップを作成するのに必要な権限があるかどうかを調べます。

## Enterprise Vault のバックアップの権限

Enterprise Vault Agent のバックアップを作成するには特定の権限が必要です。権限は次のとおりです。

- SeBackupPrivilege
- SeRestorePrivilege
- SeSecurityPrivilege
- SeTakeOwnershipPrivilege
- SeDebugPrivilege

バックアップを作成するにはこれらの権限が必要です。Enterprise Vault の管理者アカウントにこれらの特定の権限を割り当てるには、ローカルセキュリティポリシーの次の場所にそれらを追加する必要があります。Enterprise Vault がクラスタ化されている場合はクラスタのすべてのノードでこれらの権限を追加します。

- ファイルとディレクトリのバックアップ = SeBackupPrivilege
- ファイルとディレクトリの復元 =[SeRestorePrivilege]
- 監査とセキュリティログの管理 =[SeSecurityPrivilege]
- ファイルとその他のオブジェクトの所有権の取得 =[SeTakeOwnershipPrivilege]
- プログラムのデバッグ =[SeDebugPrivilege]

## Enterprise Vault Agent のリストアについて

Enterprise Vault Agent のリストアに関する情報とヒントについては、次の項目を参照してください。

- パーティションのリストア中は、PSN ファイルをリストアしないでください。
- 単一のリストアジョブで複数の SQL オブジェクトのリストア (または代替リストア) はサポートされません。  
Enterprise Vault SQL のデータの代替リストアを実行するには、単一のバックアップイメージから SQL オブジェクトを選んでください。1 つのバックアップイメージからの SQL オブジェクトの選択項目と別のバックアップイメージからのファイルシステムオブジェクトまたは他の SQL オブジェクトを混在させないでください。
- 多数のファイルまたは大量のデータをリストアしようとする、リストア速度が低下します。よりよい結果を得るには、ソケットのバッファサイズを変更してください。  
p.110 の「大きいリストアでのソケットバッファサイズの変更」を参照してください。

### 大きいリストアでのソケットバッファサイズの変更

多数のファイルまたは大量のデータをリストアしようとする、リストア速度が大幅に低下することがあります。この種類の動作が生じた場合は、NetBackup メディアサーバーと NetBackup 宛先クライアントのソケットバッファサイズを変更する必要があります。次の手順では、このソケットバッファサイズを設定する方法を説明します。

ソケットバッファサイズの変更については、『NetBackup Tuning Guide』を参照してください。

#### NetBackup メディアサーバーのソケットバッファサイズを変更する方法

- 1 <NetBackup インストールパス>\¥Veritas¥NetBackup に移動します。
- 2 NET\_BUFFER\_SZ という名前のファイルを作成します。
- 3 このファイルに 65536 という数字を挿入します。
- 4 ファイルを保存します。

#### NetBackup 宛先クライアントのソケットバッファサイズを変更する方法

- 1 NetBackup マスターサーバーに移動し、NetBackup アクティビティモニターを開始します。
- 2 [ホストプロパティ (Host Properties)] > [クライアント (Clients)] を選択します。
- 3 NetBackup 宛先クライアントの [ホストプロパティ (Host Properties)] ウィンドウを開きます。

- 4 [Windows クライアント (Windows Client)]>[クライアントの設定 (Client Settings)]  
を選択します。
- 5 [通信バッファサイズ (Communication buffer size)]を 64 KB に変更します。

## Enterprise Vault Agent についての有用なヒント

Enterprise Vault Agent に関する有用なヒントについて次の項目を理解しておきます。

- Enterprise Vault に構成の変更がないときに、Enterprise Vault のバックアップを実行する必要があります。  
Enterprise Vault の構成は、Enterprise Vault のパーティションロールオーバーのように自動的に変わることがあります。このため、いくつかのパーティションの状態が変わることもあります (オープンからクローズ、および準備完了からクローズ)。Enterprise Vault バックアップの一部として、NetBackup は Enterprise Vault にその構成を問い合わせます。これは、混合バックアップジョブの最初のジョブ (検出ジョブ)で行われます。  
Enterprise Vault 構成の変更と NetBackup の検出ジョブが同時に発生した場合は、次のいずれかが起こる可能性があります。
  - 状態コード 2 で失敗
  - 状態コード 1 で部分的に成功 (いくつかの Enterprise Vault オブジェクトがバックアップされていない可能性があります。)
  - エラーなしで成功 (いくつかの Enterprise Vault オブジェクトがバックアップされていない可能性があります。)
- Enterprise Vault では、複数の Enterprise Vault サイト全体で、同じ名前を持つ複数の Enterprise Vault のボルトストアグループ、または複数のボルトストアを構成することができます。ただし NetBackup は、複数の Enterprise Vault サイト全体で、同じ名前を持つ複数のボルトストアグループまたは複数のボルトストア構成をサポートしません。また、NetBackup は、同じ Enterprise Vault サイト内でもこれらの種類の構成をサポートしません。NetBackup Enterprise Vault Agent を使用してこの種類の構成を試みると、このエージェントで予期しない動作が生じて、データが失われるおそれがあります。

## Enterprise Vault Agent の機能と EV 7.5 以降のサポート

この項では、NetBackup Enterprise Vault Agent の機能と、その機能による Enterprise Vault 7.5 以降のサポートに関する注意事項を説明します。

- このリリースでは、Enterprise Vault Agent はマッピングされたドライブに基づいている Enterprise Vault のパーティションをサポートしません。オープンパーティションおよびクローズパーティションのコンポーネントに適用されます。
- オープンパーティションがマッピングされたドライブに基づく場合、そのオープンパーティションが含まれる Enterprise Vault サーバーに EV\_OPEN\_PARTITIONS 指示句を使用するバックアップ対象を含めることはできません。
- クローズパーティションがマッピングされたドライブに基づく場合、そのクローズパーティションが含まれる Enterprise Vault サーバーに EV\_CLOSED\_PARTITIONS 指示句を使用するバックアップ対象を含めることはできません。
- このリリースでは、Enterprise Vault Agent は、マッピングされたドライブに基づく Enterprise Vault のインデックスの場所をサポートしません。Enterprise Vault サイトのいずれかのインデックスの場所がマッピングされたドライブに基づく場合は、EV\_INDEX\_LOCATION 指示句を使用するバックアップ対象がないことを確認する必要があります。

## EV 7.5 以降のバージョンでリストア後に行われる差分増分バックアップが失敗する

完全バックアップを実行し、バックアップイメージのリストアを実行します。次に、差分増分バックアップを実行すると、バックアップがエラー 13 で失敗します。

バックアップエラーの原因は、リストア後に新しい完全バックアップが実行されるまで、NetBackup Enterprise Vault エージェントの Backup Exec SQL エージェントコードの変更 (DB バックアップのため) の使用により、増分バックアップが許可されないためです。そのため、差分増分バックアップを実行すると、バックアップは新しいデータベースとして扱われ、最初に完全バックアップを実行してから、差分増分バックアップを実行する必要があります。増分バックアップの前にリストアしないでください。

---

**メモ:** 完全リストア後の増分バックアップは、NetBackup の以前のバージョンでは許可されていました。完全リストア後の増分バックアップの失敗は、NetBackup 7.5 で観察されました。

---



# トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- トラブルシューティング
- デバッグログ
- デバッグログを有効にする方法
- デバッグレベルの設定
- 状態レポートについて
- 操作レポート
- 進捗レポート
- NetBackup の状態に関連するトラブルシューティング情報について

## トラブルシューティング

この章は NetBackup Enterprise Vault Agent をトラブルシューティングするのに役立つリソースとプロセスを説明します。これらのリソースには、バックアップとリストア操作をトラブルシューティングするのに役立つ、NetBackup とデータベースエージェントのためのデバッグログそして状態レポートが含まれます。レポートは、これらのアプリケーションに関連するエラーの特定に使用します。

## デバッグログ

NetBackup マスター、メディアおよびクライアントソフトウェアでは、NetBackup の操作中に発生する可能性のある問題のトラブルシューティングのために、広範囲なデバッグログのセットを提供します。

デバッグログに記録される情報の量は制御できます。

p.116の「デバッグレベルを設定する方法」を参照してください。

問題の原因を判断した後、以前に作成されたデバッグログディレクトリの削除によってデバッグログを無効にできます。

これらのデバッグログの内容について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド』。付加的な NetBackup マスターサーバーログ、メディアサーバーログ、クライアントログについて詳しくは、NetBackup バックアップ、アーカイブ、およびリストアユーザーインターフェースのオンラインヘルプと次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』。

---

**メモ:** デバッグログが有効な場合、ファイルが大きくなり、同じファイルを使用する他のバックアップに対して悪影響を与える可能性があります。

---

すべてのデバッグログを作成するには、次のバッチファイルを実行します。

```
install_path¥NetBackup¥logs¥mklogdir.bat
```

## デバッグログを有効にする方法

標準バックアップ操作のデバッグログを有効にするには、クライアントシステムにディレクトリを作成する必要があります。次の表に必要なディレクトリの種類についての情報を示します。

表 9-1 は各種のバックアップ、リストア、スナップショットのデータをキャプチャするために作成するディレクトリをリストします。

表 9-2 は NetBackup メディアサーバーで作成する Windows のイベントログをリストします。

表 9-3 は NetBackup マスターサーバーで作成する Windows のイベントログをリストします。

**表 9-1**                    各種のバックアップ、リストア、スナップショットのデータをキャプチャするために作成するディレクトリのリスト

作成するディレクトリ	ログに記録されるデータ
<code>install_path¥Netbackup¥logs¥bpbkar</code>	すべてのバックアップ
<code>install_path¥Netbackup¥logs¥tar</code>	すべてのリストア
<code>install_path¥Netbackup¥logs¥bpresolver</code>	Enterprise Vaultの構成の検出、Enterprise Vaultの静止および静止解除

作成するディレクトリ	ログに記録されるデータ
<code>install_path\NetBackup\logs\bpfis</code> <code>C:\Program Files\Common Files\Symantec Shared\VxFI\4\Logs</code>	スナップショットの情報 シマンテック社のサポート Web サイトの『VxFI Administrator's Guide』を参照してください。
<code>install_path\NetBackup\logs\bnwin</code>	バックアップ、アーカイブおよびリストアのユーザーインターフェースの情報
<code>install_path\NetBackup\logs\AltPath</code>	代替リストアの情報

表 9-2 NetBackup メディアサーバー上の各種バックアップ、リストアおよびスナップショットデータをキャプチャするために作成するディレクトリのリスト

作成するディレクトリ	Enterprise Vault 操作の情報
<code>install_path\Netbackup\logs\bpbrm</code> (Windows の場合)	Backup Restore Manager
<code>usr/opensv/netbackup/logs/bpbrm</code> (UNIX の場合)	Backup Restore Manager

表 9-3 NetBackup Policy Execution Manager および NetBackup Job Manager の VxUL ログのリスト

作成するディレクトリ	Enterprise Vault 操作の情報
<code>install_path\Netbackup\logs</code> (Windows の場合)	NetBackup Job Manager
<code>usr/opensv/netbackup/logs</code> (UNIX の場合) しくは、次の資料で「統合ログ」のトピックを参照してください。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド』。	NetBackup Policy Execution Manager

これらのディレクトリを作成した後すべてのデバッグログ情報は日付に基づいて作成される個々のファイルに配置されます。

## デバッグレベルの設定

[全般 (General)] デバッグレベルを変更することによって、デバッグログに記録される情報の量を制御することができます。値を大きくすると、より多くの情報が記録されます。多くの操作では、デフォルト値の 0 (ゼロ) で十分です。ただし、障害分析の際には、テクニカルサポートより、デフォルト以外の大きな値に変更するように依頼することがあります。デバッグレベルは次の手順で変更できます。

### デバッグレベルを設定する方法

- 1 [スタート]>[プログラム]>[Symantec NetBackup]>[Backup, Archive, and Restore]をクリックします。
- 2 [ファイル (File)]>[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]をクリックします。
- 3 [トラブルシューティング (Troubleshooting)]タブをクリックします。デフォルトでは、[デバッグレベル (Debug Levels)]は0 (ゼロ) に設定されています。
- 4 [全般 (General)]ドロップダウンリストで、必要に応じてデバッグレベルを設定します。
- 5 [OK]をクリックして、変更を保存します。

## 状態レポートについて

NetBackup では、バックアップおよびリストア操作が完了したことを確認するために、いろいろな状態レポートが用意されています。また、必要に応じて、ユーザーおよび管理者が別のレポートを設定することもできます。

## 操作レポート

管理者には、NetBackup 管理コンソールから操作の進捗レポートにアクセスする権限があります。

特定の期間、クライアントまたはマスターサーバーを対象として次のレポートを生成できます。

- バックアップの状態 (Status of Backups)
- クライアントバックアップ (Client Backups)
- 問題 (Problems)
- すべてのログエントリ (All Log Entries)
- メディアリスト (Media Lists)
- メディアの内容 (Media Contents)
- メディア上のイメージ (Images on Media)
- メディアのログ (Media Logs)
- メディアの概略 (Media Summary)
- 書き込み済みメディア (Media Written)

詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

## 進捗レポート

クライアント上の進捗レポートによって、ユーザーの操作の監視を簡単に行うことができます。管理者は操作を監視し、リストア操作で発生する問題を検出できます。操作の状態を表示するには、[ファイル (File)]、[状態 (Status)]を選択し、進捗を確認するタスクをクリックし、[更新 (Refresh)]をクリックします。

要求した操作が正常に完了したことを示すメッセージが表示され、NetBackup の操作が終了します。(進行状況レポートとメッセージの意味について詳しくは、次を参照してください。『Symantec NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド』。)

## NetBackup の状態に関連するトラブルシューティング情報について

この項では、Enterprise Vault Agent に直接関係する状態コードを説明します。

- p.117 の「NetBackup の状態コード 2」を参照してください。
- p.118 の「NetBackup の状態コード 13」を参照してください。
- p.118 の「NetBackup の状態コード 39」を参照してください。
- p.119 の「NetBackup の状態コード 59」を参照してください。
- p.120 の「NetBackup の状態コード 69」を参照してください。
- p.120 の「NetBackup の状態コード 156」を参照してください。
- p.123 の「NetBackup の状態コード 1800」を参照してください。

## NetBackup の状態コード 2

- Enterprise Vault サービスが、関連する Enterprise Vault サーバーで実行されているかどうかを検証します。  
Enterprise Vault サービスは、システム内のいずれかのディスクボリュームが一杯になると自動的に停止することがあります。また、Enterprise Vault サービスは、クライアントがメディアサーバーでもあり、ディスクストレージユニットが一杯になると、停止する可能性があります。この場合、Enterprise Vault サービスを起動し、バックアップを再実行します。
- クライアントホストプロパティに指定された Enterprise Vault のユーザー名クレデンシャルが正しいかどうかを確認します。
- MSXML がインストールされていることを確認します。

MSXML 6 がインストールされていない場合は、クライアントの bpresolver ログに次のエラーメッセージが含まれます。

```
registry key for MSXML6 not found. Seems that MSXML6 is not installed...Exiting
```

MSXML 6 をインストールして、バックアップを再び実行する必要があります。

- ポリシークライアントおよび関連する Enterprise Vault サーバーのイベントビューアを調べます。
- Enterprise Vault 8.0 では、Enterprise Vault コンポーネント (ボルトストアまたはインデックスの場所) やその親コンポーネント (ボルトストアグループまたはサイト) がすでに静止している場合、静止は失敗する可能性があります。バックアップは状態 2 で失敗します。バックアップモードを消去し、バックアップを再び実行するように試みる必要があります。
- Enterprise Vault ディレクトリデータベースのリストアから数分以内にバックアップが実行された場合、バックアップは状態 2 で失敗する可能性があります。Vault 管理コンソールから Enterprise Vault の構成を参照して、バックアップを再び実行するように試みる必要があります。

## NetBackup の状態コード 13

説明: ファイルの読み込みに失敗しました

NetBackup のインストール後、最初の EV-SQL バックアップポリシーが状態 13 のエラーで失敗する可能性があります。EV-SQL バックアップが状態 13 で失敗したら、次の手順を実行します。

- インストールされる SQL バージョンが少なくとも SQL 2005 SP2 以上であることを確認します。
- 特定の SQL クライアントに次のレジストリ DWORD 値を作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Veritas\NetBackup\BEDS\Engine\NTFS\FsUseAsyncIo
```

- レジストリ DWORD 値を 1 に設定します。  
このレジストリ DWORD 値がすでに存在し、その値が 1 以外に設定されている場合は、その値を 1 に変更します。

## NetBackup の状態コード 39

説明: Microsoft Cluster Server (MSCS) によってクラスタ化された Enterprise Vault データベースのバックアップは NetBackup でサポートされません。

NetBackup 6.5.4、6.5.5、7.0 の Enterprise Vault Agent を、MSCS によってクラスタ化された Microsoft SQL Server がホストする Enterprise Vault データベースを保護する

ように構成する必要があります。ホスト名を設定する必要があります。各サーバーノードのクライアント名として仮想 SQL Server の名前を追加します。

#### 各クラスターノードに仮想 SQL Server の名前を追加する方法

- 1 スタートメニューで、[Symantec NetBackup] > [バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] の順に選択します。
- 2 [ファイル (File)] メニューから [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] を選択します。[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [クライアント名 (Client name)] テキストボックスのクライアント名として仮想 SQL Server の名前を入力します。
- 4 警告が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)] ダイアログボックスを閉じます。

各クラスターノードに仮想 SQL Server の名前を追加した後、Enterprise Vault に対してクラスターノードと仮想 SQL Server を構成します。

#### Enterprise Vault に対してクラスターノードと仮想 SQL Server を設定する方法

- 1 NetBackup 管理コンソールで、[ホストプロパティ (Host Properties)] を展開します。
- 2 [処理 (Actions)] メニューから [クライアントの構成 (Configure Client)] を選択します。
- 3 目的のコンピュータを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックして、[クライアントの選択 (Choose Client)] ダイアログボックスを終了します。
- 5 [ホストプロパティ (Host Properties)] リストで、[クライアント (Clients)] を選択します。利用可能なクライアントが表示されます。
- 6 目的のクライアントを右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。[クライアントプロパティ (Client Properties)] ダイアログボックスが表示されます。

各ノードとクラスターには、Enterprise Vault Admin ユーザーのログオンアカウントを構成します。

## NetBackup の状態コード 59

説明: クライアントへのアクセスが拒否されました

複数の NetBackup メディアサーバーがある場合は、これらのメディアサーバーすべてをクライアントに指定する必要があります。これらは、クライアント構成中、またはクライアントのホストプロパティから指定できます。クライアントがメディアサーバーでもある場合は、メディアサーバーとして明示的に追加する必要があります。

エラーが生じたら、Enterprise Vault サーバー間のすべてのメディアサーバーの名前がクライアント構成に指定されているかどうかを調べます。メディアサーバー名は、NetBackup 管理コンソールのアクティビティ 모니터のジョブの詳細のページから入手できます。

## NetBackup の状態コード 69

説明: 同じポリシー内の無効な指示句

ポリシーに、同じポリシーと一緒に指定できない複数の指示句が含まれる場合、ポリシーの作成と変更は状態コード 69 で失敗します。

推奨処置: バックアップ対象から、一緒に指定できない指示句をすべて削除します。

p.53 の「Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについて」を参照してください。

## NetBackup の状態コード 156

スナップショットが失敗すると、NetBackup 状態コード 156 が表示されます。

VSS\_E\_BAD\_STATE と VSS\_E\_INSUFFICIENT\_STORAGE のエラーメッセージが表示されます。

VSS\_E\_BAD\_STATE メッセージは、安定していない場合など、VSS ライターが不良な状態にあるときに表示されます。このエラーを修正するには、VSS 状態をリセットします。

VSS\_E\_INSUFFICIENT\_STORAGE メッセージは、スナップショットを作成するために、ドライブに十分な領域がない場合に表示されます。この問題を修正するには、ドライブにシャドウストレージ領域を事前設定します。

### VSS\_E\_BAD\_STATE スナップショットエラーについて

説明: スナップショットジョブが VSS\_E\_BAD\_STATE エラーによって失敗しました。

Enterprise Vault Agent は、状態コード 156 エラーで失敗するスナップショットジョブを引き起こすことがあります。この状態コードはスナップショットジョブがエラー

VSS\_E\_BAD\_STATE で失敗したことを示し、訂正されなければ、以降のスナップショットジョブは失敗します。

VSS\_E\_BAD\_STATE エラーが生じると、bpfis ログファイルに次のようなメッセージが表示されます。

```
onlfi_vfms_logf:snapshot
services:vss:"IVssBackupComponents::DoSnapshotSet" failed with error
"VSS_E_BAD_STATE:(error value=0x80042301)" while trying to commit
snapshot set {AF8C691F-4111-46B2-A538-DE7F2670915A}
```

Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) ライターの状態をリセットし、未来のスナップショットジョブが確実に成功するように次を実行します。



### Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) ライターの状態をリセットする方法

- 1 `services.msc` を実行します。
- 2 [Microsoft Software Shadow Copy Provider]サービスの[スタートアップの種類]が[手動]に設定されていることを確認します。
- 3 [Volume Shadow Copy]サービスの[スタートアップの種類]が[手動]に設定されていることを確認します。
- 4 `cmd.exe` を実行します。
- 5 コマンドラインから、`vssadmin list writers` を実行します。

このコマンドはVSS Writerの状態を表示します。それらのうちのどれかが不良な状態(安定以外の状態)にあれば手動でライターの状態をリセットする必要があります。

- 6 コマンドラインから次のコマンドの実行によって VSS Writer の状態をリセットします。

```
net stop swprv

cd %SystemRoot%\system32

regsvr32 ole32.dll

net stop vss

regsvr32 oleaut32.dll

regsvr32 vss_ps.dll

vssvc /Register

regsvr32 /I swprv.dll

regsvr32 /I eventcls.dll

regsvr32 es.dll

regsvr32 stdprov.dll

regsvr32 msxml.dll

regsvr32 msxml2.dll

regsvr32 msxml3.dll

regsvr32 msxml6.dll

net start "COM + Event System"
```

---

**メモ:** msxml6.dll または msxml6r.dll のファイルが system32 ディレクトリにあることを確認します。それらがディレクトリになければ、.dll のファイルを取得するために Windows Update を実行します。最後に、これらの DLL が system32 ディレクトリにあることを確認した後、これらの DLL のために regsvr32 コマンドを再び実行します。

---

- 7 Windows 2003 システムの場合は、コマンドラインからコマンド、regsvr32 vssui.dll を実行します。コンピュータが Windows 2003 を実行していない場合、この手順をスキップできます。
- 8 コンピュータを再起動します。  
コンピュータを再起動した後次のコマンドを実行します。
- C:¥> vssadmin list writers
  - すべての VSS Writer が安定状態にあることを確かめるためです。
  - C:¥> vssadmin list shadows

このコマンドの結果は既存のシャドウコピーを表示しません。

## VSS\_E\_INSUFFICIENT\_STORAGE スナップショットエラーについて

スナップショットの間、VSS は要求されたドライブのためにシャドウストレージ領域が構成されないことを発見すればストレージ領域の作成を試行します。最初に同じドライブにシャドウストレージ領域を作成するように試行が試みられます。たとえば、D:¥ドライブが要求されたドライブなら、D:¥ドライブにシャドウストレージ領域を作成することを試行します。要求されたドライブにシャドウストレージ領域を作成できなければ、他のドライブにシャドウストレージ領域を作成することを試みます。

ストレージ領域が作成される選択されたドライブに十分な領域がなければ、スナップショットは VSS\_E\_INSUFFICIENT\_STORAGE エラーで失敗します。

この問題を避けるためにドライブにシャドウストレージ領域を事前設定します。ただし、そのストレージ領域が十分に大きくなければ同じエラーでスナップショットが失敗することがあります。

この問題を解決するもう 1 つの方法はドライブにある古いスナップショットを削除することです。

Microsoft の VSS について詳しくは、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。Microsoft 社の Web サイトを検索するときは、キーワードとしてエラー名を使用できます。

## NetBackup の状態コード 1800

説明: 無効なクライアントのリスト

Enterprise Vault 形式のポリシーでは、次の Enterprise Vault 8.0 指示句のどれかをバックアップ対象に指定すると、複数のクライアントがクライアントリストに追加されないことを確認してください。

- EV\_INDEX\_LOCATION=
- EV\_VAULT\_STORE\_DB=
- EV\_OPEN\_PARTITION=
- EV\_CLOSED\_PARTITIONS=
- EV\_FINGERPRINT\_DB=
- EV\_READY\_PARTITIONS=

ポリシーに 1 つのクライアントだけを指定するか、または複数のクライアントをサポートしない指示句をバックアップ対象から削除します。

p.53 の「Enterprise Vault の指示句とそれらがバックアップするデータについて」を参照してください。

NetBackup 6.5.x と 7.0.x の Enterprise Vault Agent の詳細は NetBackup Enterprise Vault Agent ポータルより入手できます。詳しくは、次の URL を参照してください。

<http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&id=TECH126523>

# NetBackup Enterprise Vault Migrator

この付録では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault Migrator について
- 移行用のバックアップポリシーの構成について
- 収集および移行のための Enterprise Vault の構成について
- NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録について
- NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録
- Enterprise Vault Migrator の構成のテスト
- 推奨 DCOM 設定の設定
- NetBackup からの Enterprise Vault 移行済みデータのリストア
- Enterprise Vault Migrator のトラブルシューティング

## Enterprise Vault Migrator について

企業では、保存するデータの量が増え続けるため、その増加に合わせてストレージ環境を拡大する方法を見つける必要があります。さらに重要なことに、企業では、可能な限り最も費用対効果の高い方法でデータを管理して保有する方法を追求し続ける必要があります。

Enterprise Vault Migrator を使用すると、プライマリディスクのデータ格納場所から、より費用対効果の高いセカンダリディスクのデータ格納場所にデータを自動的に移行することができます。ポリシーベースの自動移行方法を定義して、アーカイブデータを

Enterprise Vault 管理のディスクから NetBackup 管理のメディア形式に移動することができます。

NetBackup を Enterprise Vault で使用する場合、Enterprise Vault からのアーカイブ済み項目は、NetBackup が管理するストレージデバイスに自動的に保存して取り出すことができます。すべてのアーカイブ済み項目は、Enterprise Vault 内のボルトストアパーティション内にまず保存されます。Enterprise Vault が項目をアーカイブした後、収集処理が実行されて、その結果が CAB ファイルに置かれます。作成された CAB ファイルは、移行処理を使用して、Enterprise Vault から NetBackup に移行することができます。Enterprise Vault の移行処理は、NetBackup の移行処理を呼び出します。この処理が、NetBackup ポリシーによる CAB ファイルのバックアップを開始します。バックアップが完了すると、Enterprise Vault は CAB ファイルのボルトストアパーティションのコピーを切り捨てます。これにより、Enterprise Vault のディスクのストレージ領域が削減され、NetBackup のインフラに行われた投資が活用されます。

NetBackup の移行処理中、インラインテープコピーを使用して、複数のコピーを作成することができます。ディスクストレージユニット (DSU) とディスクストレージのステー징ユニット (DSU) も、ディスクへの直接の NetBackup 制御の移行用にサポートされています。ただし、Enterprise Vault データとは別に従来のバックアップを保持することを推奨しません。これは、保持の要件がまったく異なるためです。

## 移行用のバックアップポリシーの構成について

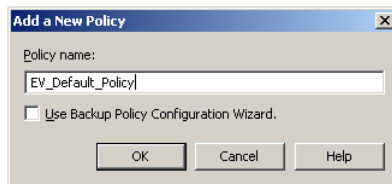
Enterprise Vault の移行を実行できる NetBackup バックアップポリシーを作成する必要があります。次の手順では、バックアップポリシーを作成する方法について説明します。

### Enterprise Vault の移行用の NetBackup バックアップポリシーを作成する方法

- 1 マスターサーバーに管理者としてログオンします。NetBackup 管理コンソールを起動します。
- 2 サイトに複数のマスターサーバーが存在する場合は、ポリシーを追加するマスターサーバーを選択します。
- 3 適切な選択を行い、新しいポリシーを追加します。
  - 左ペインで、[ポリシー (Policies)] を右クリックします。[新しいポリシー (New Policy)] を選択します (Windows インターフェース)。
  - 左ペインで、[ポリシー (Policies)] をクリックします。[すべてのポリシー (All Policies)] ペインで、マスターサーバーを右クリックして、[新しいポリシー (New Policy)] を選択します (Java インターフェース)。

- 4 [新しいポリシーの追加(Add a New Policy)]ダイアログボックスの[ポリシー名(Policy name)]フィールドに、新しいポリシーの一意の名前を入力します。

任意の名前を指定できます。ただし、この名前は、Enterprise Vault を後の手順で構成するときに再使用する場合がありますため、記録しておいてください。

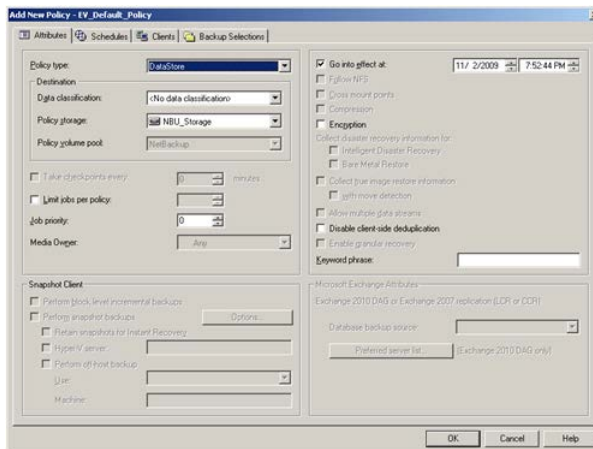


- 5 [バックアップポリシーの構成ウィザードを使用する(Use Backup Policy Configuration Wizard)]チェックボックスのチェックマークをはずします。

デフォルトでは、このオプションにはチェックマークが付いています。このチェックボックスにチェックマークが付いている場合、バックアップポリシーの構成ウィザードが表示され、バックアップポリシーの作成処理の手順をご案内します。新しいポリシーを手動で作成するには、このチェックボックスのチェックマークをはずします。

- 6 [OK]をクリックします。

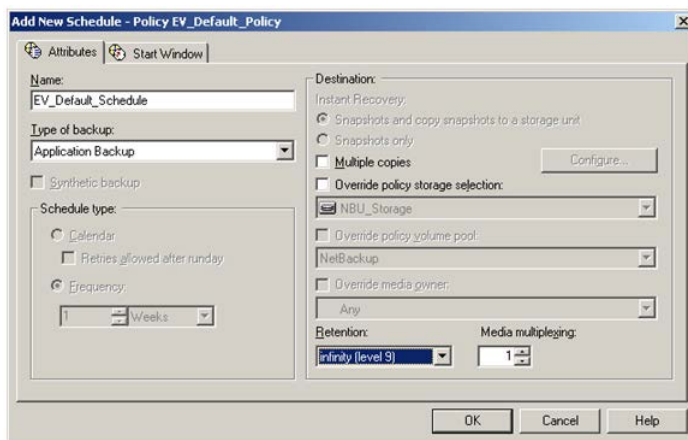
- 7 [新しいポリシーの追加(Add a New Policy)]ダイアログボックスの[属性(Attribute)]タブで、[ポリシー形式(Policy type)]ドロップダウンリストから[DataStore]ポリシー形式を選択します。



- 8 [属性(Attributes)]タブのエントリを設定します。

- 9 続けて、次の属性を持つポリシーのスケジュールを作成します。

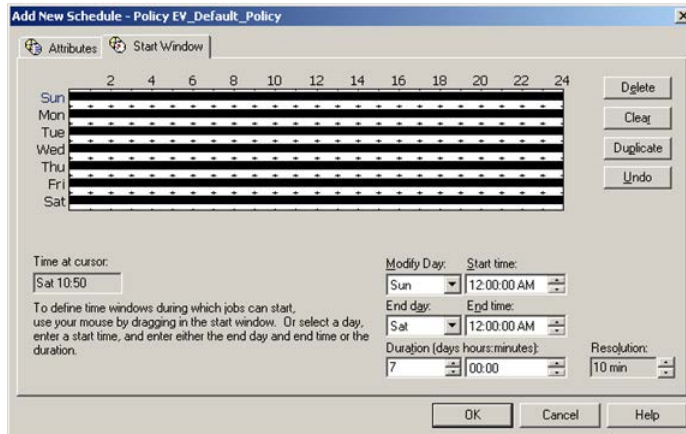
- スケジュールの名前を入力します。この名前は、EV\_Default\_Schedule にする必要があり  
ます。  
スケジュールの名前は構成可能ではなく、EV\_Default\_Schedule にする必要  
があります。
- [アプリケーションバックアップ (Application Backup)] にバックアップ形式を設  
定します。
- [無限 (レベル 9) (infinity level 9)] に保持期間を設定します。  
保持レベルを[無限 (レベル 9) (infinity level 9)]と指定した場合、Enterprise  
Vault は、移行済みデータのライフサイクルを完全に制御することができます。  
Enterprise Vault で移行済みファイルを削除する必要があるとき、NetBackup  
は、そのファイルを削除するように明示的に指示されます。





- 10 スケジュールのバックアップ処理時間帯を指定します。バックアップを開始する期間を定義する場合は、[開始時間帯 (Start Window)] タブをクリックします。

スケジュールは、バックアップとリストアをいつでも実行できるように設定する必要があります。ボルトストアパーティションの構成は、Enterprise Vault の移行 (バックアップ) の時間を制御します。

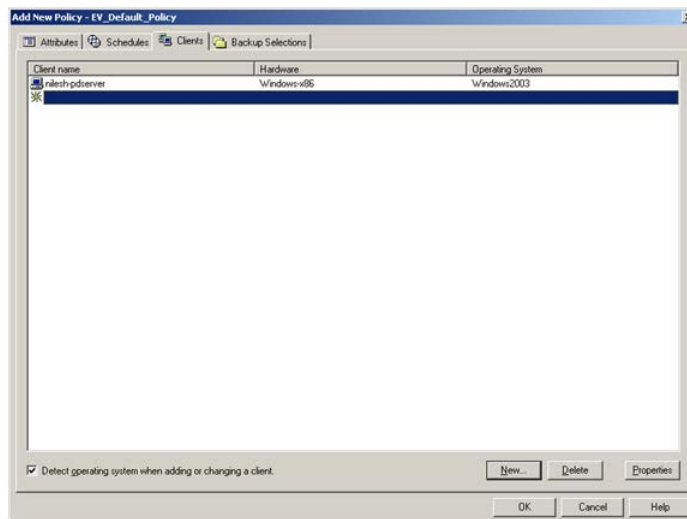


- 11 [OK]をクリックします。

- 12 ポリシーの NetBackup クライアントを指定します。[ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスで、[クライアント (Clients)] タブをクリックします。

データがポリシーの NetBackup クライアントで移行される Enterprise Vault サーバーの名前を使用する必要があります。

[ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスにアクセスするには、NetBackup 管理コンソールのクライアントリスト内のポリシー名をダブルクリックします。



- 13 [OK] をクリックします。

ファイル名は Enterprise Vault と NetBackup の間で自動的に渡されるため、特定のポリシー指示句は必要ありません。

NetBackup 管理者が Enterprise Vault Migrator の NetBackup ポリシーを構成するときには、次の注意事項が役立ちます。

- NetBackup Migrator を使用して Enterprise Vault データを保存する場合は、追加のテープドライブやストレージスロットを考慮する必要があります。
- テープがライブラリから取り外されると、タイムアウトが発生して、データを自動的に取り出すことができない場合があります。
- タイムアウトは、Enterprise Vault ユーザーまたはアプリケーションがライブラリにあるデータにアクセスしたときに、すべてのテープドライブが使用中だと発生する可能性があります。
- タイムアウトは、同じテープのデータが取り出しのためにアクセスされているときに移行 (テープへの書き込み) が起こると、生じる可能性があります。

# 収集および移行のための Enterprise Vault の構成について

収集と移行のためにデータが移行されるすべての Enterprise Vault パーティションを構成する必要があります。次の手順では、収集と移行のために Enterprise Vault を構成する方法を説明します。

## 収集および移行のために Enterprise Vault を構成する方法

- 1 収集基準を指定します。Enterprise Vault のユーザーインターフェースから、[ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックス内の [コレクション (Collections)] タブを選択します。

このタブ付きページの属性を設定することによって、収集を実行させるスケジュールを定義します。アーカイブとバックアップがスケジュールされない静止期間を構成することを推奨します。

収集処理では、DVS ファイルが収集されるまでに経過する必要がある時間を指定できます。通常は、DVS ファイルがアーカイブされてから CAB ファイルに収集されるまでに 30 日、60 日、またはそれ以上の日数が設定されます。

- 2 移行の基準を指定します。[ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックス内の [移行 (Migration)] タブを選択します。このタブ付きページに次の属性を設定します。
  - [ファイルを移行 (Migrate files)] チェックボックスを選択します。
  - 収集されたファイルが移行に使用できるようになるまでの時間を指定します。
  - [以下のコレクションファイルをプライマリストレージから削除 (Remove collection files from primary storage)] 設定を指定します。  
この値は、収集されたファイルが三次ストレージにコピーされてから ARCHCAB ファイルが Vault ストレージパーティションにとどまる時間を設定します。
- 3 移行のプロパティを構成します。[ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックス内の [詳細 (Advanced)] タブを選択します。このタブ付きページに次の属性を設定します。
  - NBU ポリシー (NBU policy)  
移行が生じると予期される NetBackup ポリシーの名前。
  - NBU サーバー (NBU server)  
NetBackup マスターサーバー名の名前。
  - 必要であれば、その他の設定のデフォルト値を修正できます。

## NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録について

NetBackup Enterprise Vault Migrator は、NetBackup 7.1 以降のバージョンに同梱されている COM サーバーです。また、NetBackup Enterprise Vault Migrator は、Enterprise Vault 8.0 SP2 以前のすべての Enterprise Vault リリースにも同梱されています。ただし、Enterprise Vault 8.0 SP3 以降、NetBackup Enterprise Vault Migrator は NetBackup だけに同梱されます。

NetBackup 7.6 のインストール時、NetBackup Enterprise Vault Migrator は、一部の顧客構成で 2 回インストールされる可能性があります。つまり、NetBackup 7.6 のインストール時と Enterprise Vault (EV 8 SP2 以前のバージョン) のインストール時に Migrator がインストールされることがあります。

次のリストは、NetBackup が Enterprise Vault の前にインストールされたか、またはその逆であるかによって生じる可能性があるさまざまなシナリオを説明しています。

- NetBackup 7.1 以降が Enterprise Vault (8.0 SP2 以前のバージョン) の後にインストールされます。

このシナリオでは、Enterprise Vault がすでにインストールされていて、あるバージョンの NetBackup Enterprise Vault Migrator がそれとともにインストールされています。NetBackup のインストールが始まると、NetBackup 7.1 以降のバージョンの Enterprise Vault Migrator がインストールされます。この場合、Enterprise Vault は、NetBackup 7.1 以降とともにインストールされる NetBackup Enterprise Vault Migrator を使います。Migrator を登録するために何も実行する必要はありません。これは自動的に登録されます。

- Enterprise Vault (8.0 SP2 以前のリリース) が NetBackup 7.1 の後にインストールされます。

このシナリオでは、NetBackup 7.1 以降のバージョンの NetBackup Enterprise Vault Migrator が NetBackup 7.1 以降のインストール時にインストールされています。Enterprise Vault がインストールされると、以前のバージョンの Enterprise Vault Migrator がインストールされて登録されます。このバージョンの Migrator は、NetBackup 7.1 以降とともにインストールされるバージョンよりも古いもので、Enterprise Vault で使うのに適したバージョンではありません。この場合も、Enterprise Vault では、NetBackup 7.1 以降で登録された Migrator を使うことが重要です。

Enterprise Vault が NetBackup とともにインストールされた Enterprise Vault Migrator を使用するように確認する必要があります。正しいバージョンを登録するには、Enterprise Vault のインストール完了後に NetBackup 7.1 以降とともにインストールされた NetBackup Enterprise Vault Migrator を手動で登録する必要があります。

p.133 の「NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録」を参照してください。

# NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録

NetBackup によってインストールされた NetBackup Enterprise Vault Migrator を手動で登録する方法

- 1 Enterprise Vault がインストールされているすべてのシステムで Enterprise Vault のすべてのサービスを停止します。
  - サービス Control Manager を起動します。
  - 現在動作している Enterprise Vault のすべてのサービスを記録します。Enterprise Vault サービスの名前は *Enterprise Vault* で始まります。
  - すべての Enterprise Vault サービスを停止します。
- 2 新しい NetBackup 7.1 Enterprise Vault Migrator モジュールを登録します。
  - コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
  - NetBackup¥bin ディレクトリに移動します。
  - 次のコマンドを入力して、NetBackup 7.1 Enterprise Vault Migrator モジュールの NBUMigrator.exe を登録します。  
NBUMigrator.exe /RegServer
- 3 手順 1 で停止した Enterprise Vault サービスを起動します。  
Enterprise Vault Migrator を登録した後、次の処理を実行することを推奨します。
  - Migrator の構成をテストします。
  - 推奨の DCOM 設定を設定して、Migrator が適切なユーザー ID で動作するようにします。  
手動登録を実行したかどうかに関係なく、この項を確認することを推奨します。

## Enterprise Vault Migrator の構成のテスト

Enterprise Vault Migrator のインストール後、特に Migrator を手動で登録した場合、この構成をテストすることを推奨します。Migrator を登録しない場合は、この項をスキップできます。

登録は、NetBackup インストール処理によって自動的に実行させるか、または手動で実行することができます。手動登録は、Enterprise Vault 8.0 SP2 よりも前のバージョンの Enterprise Vault で NetBackup 7.0 がインストールされた場合に必要になることがあります。

p.132 の「NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録について」を参照してください。

この手順は、新しいコンポーネントの登録の問題を識別するのに役立ちます。次の手順は、この処理を段階を追って示しています。

### Enterprise Vault Migrator の構成をテストする方法

- 1 Enterprise Vault のパーティションが存在するかどうかを判断します。以前に構成されたパーティションが存在する場合は、手順 2 に進みます。

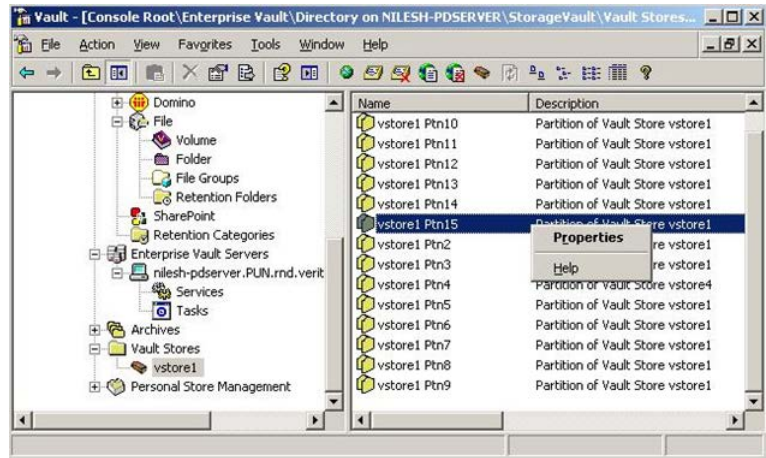
Enterprise Vault のパーティションが移行のために構成されていない場合、シマンテック社は、Enterprise Vault 統合に関する次のホワイトペーパーをダウンロードすることを推奨します。このホワイトペーパーには、アーカイブと移行の情報、および Enterprise Vault を NetBackup とともに構成する方法が含まれています。(シマンテック社は、NetBackup の構成と Enterprise Vault の構成に関する項に注目することを推奨します。)Migrator の構成を終了したら、手順 2 に進むことができます。

詳しくは、次の文書を参照してください。

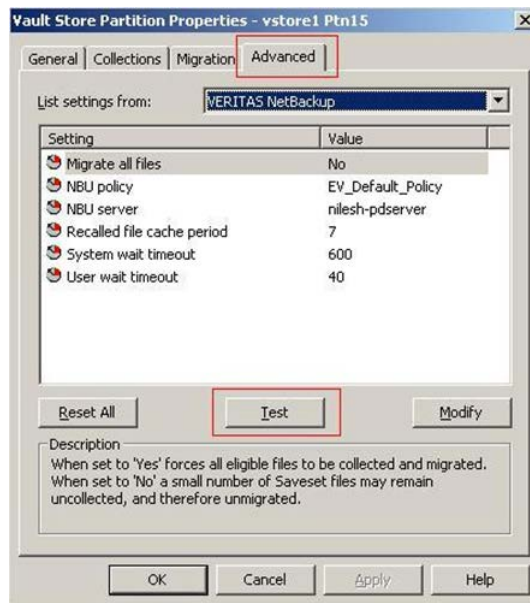
[http://eval.symantec.com/mktginfo/products/White\\_Papers/Data\\_Protection/ent-whitepaper\\_veritas\\_nbup\\_and\\_veritas\\_ev\\_integration\\_02-2006.en-us.pdf](http://eval.symantec.com/mktginfo/products/White_Papers/Data_Protection/ent-whitepaper_veritas_nbup_and_veritas_ev_integration_02-2006.en-us.pdf)

- 2 Enterprise Vault 管理コンソールを開きます。
- 3 移行のために構成されたパーティションを選択します。

- 4 パーティションを右クリックして、[プロパティ (Properties)] を選択します。



- 5 [ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックスの [詳細 (Advanced)] タブをクリックし、[テスト (Test)] オプションをクリックします。



テストが正常なら、Migrator の構成テストが正常であったことを示すダイアログボックスが表示されます。

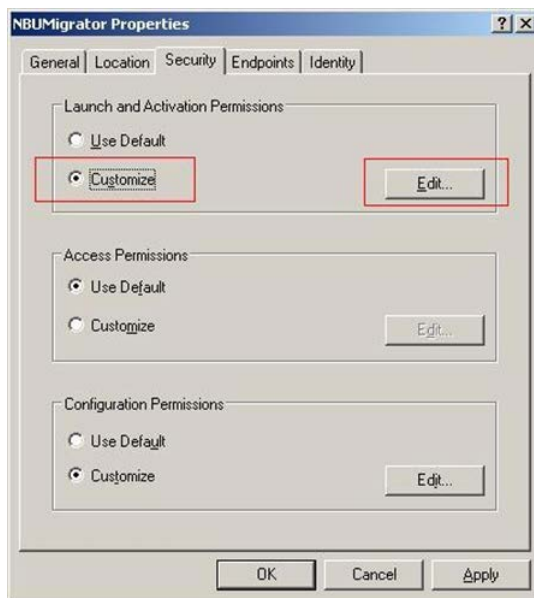
## 推奨 DCOM 設定の設定

Migrator が、それを起動したユーザーの ID で動作するように DCOM 設定を構成する必要があります。また、ローカル管理者グループと SYSTEM グループのメンバーが次のことを実行できるように DCOM 設定を構成する必要があります。

- Enterprise Vault Migrator をローカルおよびリモートで起動します。
- Enterprise Vault Migrator をローカルおよびリモートで有効にしてアクセスします。

### 推奨 DCOM 設定を適用する方法

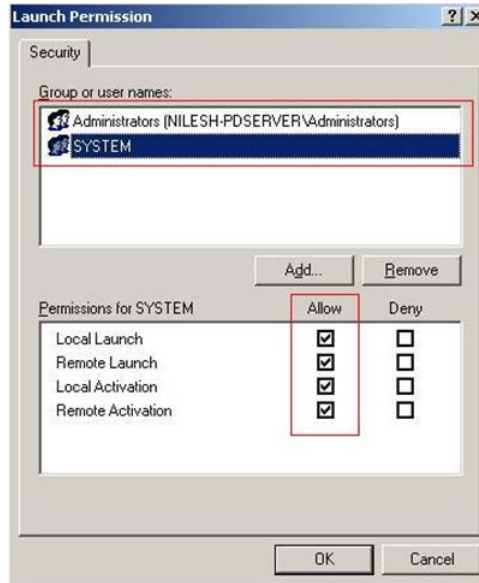
- 1 アプリケーション dcomcnfg.exe を開始します。
- 2 [コンポーネントサービス] > [コンピュータ] > [マイコンピュータ] > [DCOM の構成] の下で、[NBUMigrator]を検索します。
- 3 [NBUMigrator]を右クリックして、[プロパティ]を選択します。
- 4 [セキュリティ]タブを選択します。
- 5 [起動とアクティブ化のアクセス許可]フィールドで、[カスタマイズ]オプションを選択して、[編集]をクリックします。



- 6 [起動許可]ダイアログボックスから、次のグループだけがグループまたはユーザー名のフィールドにあることを確認します。
  - ローカル管理者のグループ
  - SYSTEM グループ



[システムのアクセス許可]フィールドで、両方のグループにすべての権限が付与されていることを確認し、[OK]をクリックします。



- 7 [セキュリティ]タブで、[アクセス許可]フィールドの[カスタマイズ]オプションを選択してから、[編集]をクリックします。
- 8 [アクセス許可]ダイアログボックスから、次のグループだけがグループまたはユーザー名のフィールドにあることを確認します。
  - ローカル管理者のグループ
  - SYSTEM グループ

[アクセス許可]フィールドで、両方のグループにすべての権限が付与されていることを確認し、[OK]をクリックします。
- 9 [ID]タブを選択します。

10 [起動したユーザー]オプションを選択します。



11 [OK]をクリックします。DCOM 構成の設定が適用されました。

## NetBackup からの Enterprise Vault 移行済みデータのリストア

Enterprise Vault を使用すると、アーカイブ済みデータにシームレスにアクセスできます。さらに重要なことに、Enterprise Vault セカンダリストレージから NetBackup 三次ストレージに移行されたアーカイブ済みデータにもシームレスにアクセスできます。移行されたアーカイブ済みデータにアクセスする場合、Enterprise Vault は NetBackup 三次ストレージからのデータを Enterprise Vault セカンダリストレージに自動的にリストアします。Enterprise Vault は、Enterprise Vault セカンダリストレージから、選択した宛先クライアントにデータをリストアします。

ただし、ある特定のシナリオでは、NetBackup 三次ストレージからの移行済みデータの Enterprise Vault セカンダリストレージへのリストアを手動で呼び出したほうが便利で有効なことがあります。次のリストは、このリストアを手動で実行するほうが有利な場合についていくつかの例を示しています。

- インデックスを再構築する場合
- オフラインボルトを再構築する場合
- アーカイブをエクスポートする場合

- ディザスタリカバリの場合

NetBackup を使用すると、次のいずれかの方法を使用して、Enterprise Vault のセカンダリストレージに移行済みデータを手動でリストアすることができます。

- コマンドラインインターフェース
- バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェース

## コマンドラインインターフェースを使用した移行済みデータのリストア

bprestore コマンドには、NetBackup データを移行するように設計された新しいパラメータが含まれます。Enterprise Vault から移行されたデータをリストアするためには、bprestore コマンドラインに新しいパラメータの `-ev_migrated_data` を渡す必要があります。`-ev_migrated_data` パラメータが bprestore に渡されると、NetBackup は、リストアされるデータが、Enterprise Vault から移行されたデータであるものと想定し、リストアはそれに従って実行されます。

---

**メモ:** リストア操作を正常に完了させるためには、コマンドラインインターフェースの他の必須パラメータも、適切に渡される必要があります。

---

`-ev_migrated_data` パラメータが bprestore に渡される場合、リストアされるデータは、Enterprise Vault 移行済みデータである必要があります。このパラメータを使用して、Enterprise Vault 移行済みデータではないデータをリストアしようとすると、予測不能な動作が生じる可能性があるため、Enterprise Vault 移行済みデータではないデータのリストアはサポートされていません。

次に、bprestore コマンドを使用して Enterprise Vault 移行済みデータをリストアするための構成を示します。

```
bprestore -S NBU Master Server Name -C Enterprise Vault Server Name  
-t 24 -ev_migrated_data Files_to_Be_Restored
```

bprestore を使用する方法的例を以下に示します。

次の bprestore CLI 形式は特定のパーティション (VS Ptn3) のデータまたはすべての移行済みファイルを特定の EV サーバーにリストアまたは再呼び出します。

```
..¥Veritas¥NetBackup¥bin>bprestore -S hpesx4v5 -C hpesx4v7 -t 24  
-ev_migrated_data "/E/Enterprise Vault Stores/VS Ptn3/*"
```

次の bprestore CLI 形式はすべてのパーティションのデータまたは移行済みファイルを特定の EV サーバーにリストアします。

```
..¥Veritas¥NetBackup¥bin>bprestore -S hpesx4v5 -C hpesx4v7 -t 24  
-ev_migrated_data *
```

## バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを使用した移行済みデータのリストア

バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを Windows、UNIX または Linux の各プラットフォームで使用して、Enterprise Vault 移行済みデータをリストアすることができます。バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを実行するシステムが何かに関係なく、次の手順を使用して、NetBackup から移行済みデータをリストアします。

**バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを使用して Enterprise Vault 移行済みデータをリストアする方法**

- 1 バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを起動します。
- 2 [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] ダイアログボックスを開きます。
  - [ファイル (File)] > [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] を選択します。(Windows インターフェース)
  - [処理 (Actions)] > [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] を選択します。(Java インターフェース)
- 3 [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] ダイアログボックスから、次のことを実行します。
  - バックアップおよびリストアに使用するサーバーを選択します。
  - リストアのソースクライアントを指定します。
  - リストアの宛先クライアントを指定します。
  - [リストアのポリシー形式 (Policy type for restores)] フィールドで [DataStore] を選択します。
- 4 ユーザーインターフェースの [NetBackup の履歴 (NetBackup History)] フィールドでリストアするバックアップのリストを選択してから、[リストア (Restore)] アイコンをクリックします。

リストアする Enterprise Vault 移行済みバックアップのみを選択したことを確認します。

- 5 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスから、[Enterprise Vault 移行済みデータとしてリストア (Restore as Enterprise Vault migrated data)] チェックボックスを選択します。
- 6 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。

# Enterprise Vault Migrator のトラブルシューティング

この項は、NetBackup Enterprise Vault Migrator のトラブルシューティングに役立つ情報を提供します。また、Enterprise Vault Migrator のバージョン情報と Enterprise Vault および NetBackup のデバッグログを収集する詳しい手順も含まれています。

## Enterprise Vault Migrator のバージョン情報

次の表に、さまざまな NetBackup リリースでの Enterprise Vault Migrator のバージョン互換性情報を示します。

ファイル名	NetBackup リリースの互換性	説明
NBUMigrator.dll	NetBackup 6.5.2 より前のリリース	この Enterprise Vault Migrator は Enterprise Vault に同梱されていました。
NBUMigrator.exe	NetBackup 6.5.2 から 6.5.4	このバージョンの Enterprise Vault Migrator はシマンテック社のサポート Web サイトからのダウンロードによって利用可能でした。  <a href="http://entsupport.symantec.com/docs/327571">http://entsupport.symantec.com/docs/327571</a> を参照してください。
NBUMigrator.exe	NetBackup 7.1	このバージョンの Enterprise Vault Migrator は NetBackup 7.1 に同梱されています。

## Migrator の問題のトラブルシューティングについて

次の項では、Enterprise Vault Migrator を使用するときには生じる問題に対してとるべき手順を説明します。

### データはアーカイブされていますか？

データがアーカイブされていることを確認するには、そのアーカイブ済みファイルのパーティションに .dvs および .dvh ファイルが作成されていることを確認します。

### データは収集されていますか？

次の収集基準を確認する必要があります。

#### ■ 収集の経過時間

[ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックスから、[次より古いファイルをコレクション (Collect files older than)] フィールドに構成した設定を確認する必要があります。このフィールドは、[コレクション (Collections)] タブにあります。経過時間を適切に指定したことを確認します。

- 収集基準の最小ファイル

レジストリキーの `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\KVS\Enterprise Vault\Storage\MinimumFilesInCollection` を作成することによって、デフォルトの最小ファイル値を上書きできます。これは `DWORD` 値であり、データはコレクションファイルに存在可能なファイルの最小数を指定する必要があります。

データが収集されたことを確認するには、そのパーティションにある `.dvs` および `.dvf` ファイルが `CAB` ファイルに変換されていることを確認します。

## 移行は適切に構成されていますか？

[ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックスの [詳細 (Advanced)] タブから、移行のパーティションを構成できます。[NBU ポリシー (NBU policy)] と [NBU サーバー (NBU server)] の値を正しく入力したことを確認します。

移行を正しく構成したことを確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。

テストが失敗したが、[NBU ポリシー (NBU policy)] と [NBU サーバー (NBU server)] の構成が正しい場合、問題は次の理由の 1 つが原因である可能性があります。

- `xbsa(DataStore)` のライセンスが NetBackup にインストールされていません。

`DataStore` のライセンスが NetBackup にインストールされていないと、テストは失敗します。ユーザーインターフェースは、ライセンスの問題がエラーの原因であることをまったく通知しません。

それがライセンスの問題なら、次のようなメッセージが `exten_client` ログに表示されます。

```
InvalididParameterHandler bsa_checkfeatureID:None of the features are licensed.
```

次の文字列が、`Dtrace` ログに表示されることもあります。

```
Failed to initialize xBSA.Make sure NetBackup client is installed and configured.
```

この問題を解決するには、次を実行します。

- NetBackup の必須ライセンスをインストールします。
- NetBackup サービスを再起動します。これが必要な場合にのみ実行します。

- NBUMigrator が登録されていません。

特定のシナリオでは、**Migrator** を手動でインストールして登録する必要があります。この場合、登録手順に従っていなければ、次のエラーが Enterprise Vault のポップアップウィンドウとして表示されます。

```
The selected file migration software is not registered or installed.Reason:Class not registered
```

この問題を解決するには、Enterprise Vault Migrator を登録します。

p.133 の「NetBackup Enterprise Vault Migrator の登録」を参照してください。

- xbsa.dll はシステムパスにありません。

Enterprise Vault Migrator (NBUMigrator.dll) の最初のバージョンでは、ファイル xbsa.dll のパスが、PATH 環境変数にある必要がありました。Enterprise Vault Migrator の最近のリリースでは、これは不要になりました。パスは現在プログラムで構成されています。

xbsa.dll がシステムパスにない場合は、次のメッセージが Dtrace ログに記録されます。

```
Failed to load xbsa library.Check the Net Backup client installation, ensuring that xbsa.dll is installed.
```

この問題を解決するには、次を実行します。

- PATH 環境変数に xbsa.dll のパスを追加します。xbsa.dll は `NBU_INSTALL_DIRECTORY\bin` の下にあります。
- Enterprise Vault Admin Service を再起動します。このサービスを再起動すると、Enterprise Vault のすべてのサービスが再起動されます。特定の処理が Migrator (NBUMigrator.dll) を使用する場合がありますため、すべての Enterprise Vault の処理を再起動する必要があります。それらを再起動すると、xbsa.dll を見つけて、ロードすることができます。

## データは移行されていますか？

[ボルトストアパーティションプロパティ (Vault Store Partition Properties)] ダイアログボックスの [移行 (Migration)] タブには、ファイルが移行基準を満たしてからの経過時間があります。この経過時間が適切に指定されていることを確認します。NetBackup への項目の移行が進行中であることを検証するには、移行ポリシーのバックアップタスクが NetBackup に表示されていることを確認します。

## ログ収集について

NetBackup Enterprise Vault Migrator は、Enterprise Vault と NetBackup にログを生成します。次の項では、必須ログを収集する方法について説明します。

### Enterprise Vault のログについて

NetBackup Enterprise Vault Migrator は、Dtrace.exe アプリケーションを使用して、Enterprise Vault のログを生成します。

### Dtrace.exe アプリケーションを実行して Enterprise Vault のログを収集する方法

- 1 この手順は、Enterprise ストレージサービスをインストールしたコンピュータで開始します。

通常、「ストレージサービス」は、Enterprise Vault Server がインストールされたマシンにインストールされて実行されます。ただし、「ストレージサービス」を Enterprise Vault Server 以外のマシンにインストールして実行する環境を設定することも可能です。

- 2 コマンドプロンプトを開いて、Enterprise Vault がインストールされているディレクトリに移動します。

このディレクトリ(たとえば、C:\Program Files\Enterprise Vault)には、Dtrace.exe ファイルが含まれます。

- 3 Dtrace.exe を実行します。
- 4 必須処理の詳細ログを設定します。

Migrator ログを収集する場合は、次の処理に詳細ログを設定します。

- StorageFileWatch

- EVStgOfflineOpns

- StorageManagement

この処理は、Enterprise Vault の構成をテストするときにログを分析するために必要です。

- StorageDelete

この処理は、データが移行されたパーティションを削除した後でログを分析する場合に必要です。

次のコマンドを実行して、詳細ログを設定します。

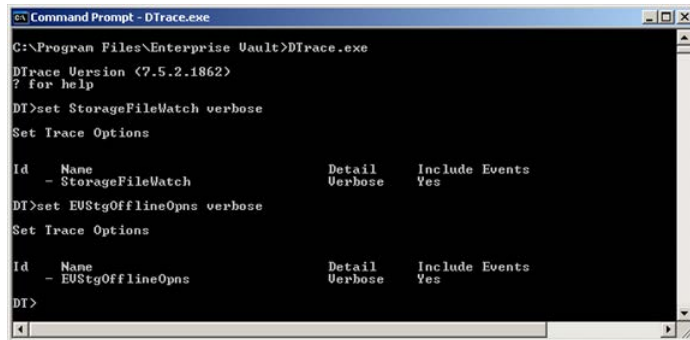
- set StorageFileWatch verbose

- set EVStgOfflineOpns verbose

- set StorageManagement verbose

- set StorageDelete verbose





```
Command Prompt - DTrace.exe
C:\Program Files\Enterprise Vault\DTrace.exe
DTrace Version (7.5.2.1862)
? For help
DT>set StorageFileWatch verbose
Set Trace Options
Id  Name                Detail  Include Events
-  - StorageFileWatch  Verbose Yes
DT>set EUStgOfflineOpns verbose
Set Trace Options
Id  Name                Detail  Include Events
-  - EUStgOfflineOpns  Verbose Yes
DT>
```

コマンド `view` を入力して、詳細ログを有効にできる処理のリストを表示します。

- 5 ログファイルを設定します。コマンドプロンプトウィンドウから、コマンド `log log_file_name` を実行して、ログファイルを設定できます。

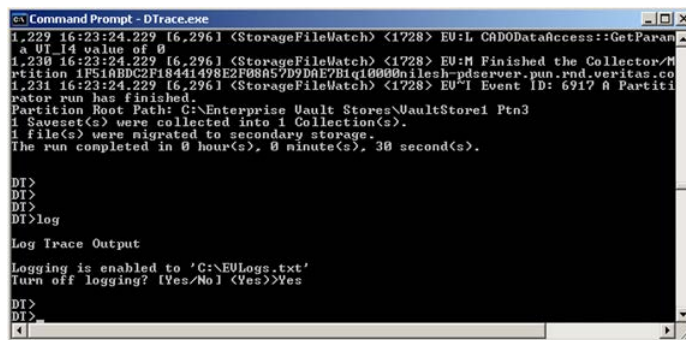
たとえば、`log EVLogs.txt` と入力して、ログファイルを `C:\EVLogs.txt` に設定します。

- 6 監視を有効にします。コマンドプロンプトウィンドウから、コマンド `mon` を実行して監視を設定できます。
- 7 ログが必要となる移行タスクを実行します。  
ログが必要なタスク (移行、取り出し、削除) を実行します。Dtrace の画面に、そのタスクについて生成されたさまざまなログが表示されます。
- 8 Control-C を押して、監視フェーズを終了します。

9 ログを無効にします。

ログを無効にして、すべてのログエントリがログファイルに保存されたことを確認します。コマンド `log` を使用して、ログを無効にすることができます。

`log` コマンドを入力すると、ログを無効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。「Yes」と入力します。

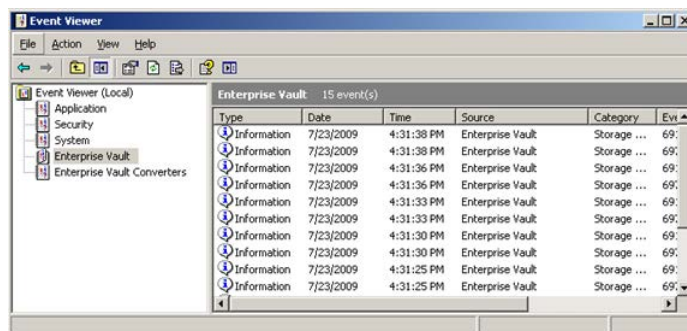


10 ログファイルを収集します。

手順 4 と 5 (C:\%EVL%Logs.txt) で構成されたログファイルには、すべての必須ログが含まれています。

## Enterprise Vault のイベントについて

NetBackup Enterprise Vault Migrator は、それが実行するほとんどのタスクの状態を指定するイベントを生成します。これらのイベントは、トラブルシューティングに役立つ情報も提供します。イベントビューアから、ヘッダー [Enterprise Vault] の下にあるイベントを表示します。Enterprise Vault ストレージサービスをインストールしたマシンのイベントが表示されます。



## NetBackup ログについて

NetBackup Enterprise Vault Migrator は、VxBSA モジュールを介して NetBackup と通信します。また、VxBSA ログは、NetBackup から収集する必要があるログです。NetBackup の各バックアップは、bpbkar 処理によって実行されます。リストアは、tar の処理によって実行されます。このため、これらの両方の処理のログを収集することが重要です。

---

**メモ:** 次の手順は、ガイドラインとしてのみ使用してください。手順内で記述される目的が同じであっても、NetBackup のバージョンによっては、それらを達成する手順が異なることがあります。表示されるスクリーンショットについても、同じことがいえます。

何らかの不一致がある場合は、詳細について『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

---

### NetBackup ログに移行された Enterprise Vault ログを収集する方法

#### 1 NetBackup の logs ディレクトリに移動します。

logs ディレクトリは、NetBackup がインストールされたディレクトリの下にあります。たとえば、NetBackup がディレクトリ C:\Program Files\Veritas\NetBackup\ にインストールされている場合は、次の logs ディレクトリも存在します。

C:\Program Files\Veritas\NetBackup\logs

#### 2 NetBackup logs フォルダの下に必要なディレクトリを作成します。

エラーの詳細を調べる場合は、最初の参照箇所として、次のログを参照する必要があります。

- vxbsa ログ
- bpbkar ログ
- tar ログ

これらのログファイルの作成を可能にするには、NetBackup logs フォルダの下に次のディレクトリを作成する必要があります (まだ存在していない場合)。

- exten\_client  
mklogdir.bat を実行すると、いくつかのログディレクトリが作成されます。ただし、このコマンドは、ディレクトリ exten\_client を作成しません。
- bpbkar
- tar

移行は、NetBackup の動作における何らかのエラーが原因で失敗する場合があります。したがって、最初の調査箇所が上述のログから始まる場合であっても、コマンド mklogdir.bat を実行してすべてのログを収集すると安全です。

### 3 NetBackup のログレベルを必要なレベルに設定します。

移行が実行される NetBackup クライアントのログレベルを更新する必要があります。理想として、このログレベルを最高のレベルに設定する必要があります。移行が実行されるプロファイルのクライアントを構成します (たとえば、EV\_Default\_Profile)。

NetBackup 管理コンソールまたはバックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースの [クライアントプロパティ (Client Properties)] ダイアログボックスを使用してログレベルを更新できます。

バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースの [クライアントプロパティ (Client Properties)] から、[トラブルシューティング (Troubleshooting)] タブでデバッグログレベルを構成できます。次の推奨値を使用します。

- 一般 (General): 2
- 詳細 (Verbose): 5

### 4 ログが必要となる移行タスクを実行します。

### 5 ログファイルを収集します。

次のディレクトリの下で最新のファイルを収集します。

- exten\_client
- bpbkar
- tar

NetBackup logs フォルダの .zip ファイルを作成するか、または NetBackup logs フォルダの下にあるすべてのディレクトリにある最新ファイルをコピーすることによって、すべてのログファイルを収集する必要があります。

**B**

bpbkar ログ 114  
bpfis ログ 114  
bppfi ログ 114

**D**

DataStore のライセンス 142  
DVS ファイル 131

**E**

[Enterprise-Vault]ポリシー形式 38  
    クライアント名 107  
Enterprise Vault 7.5 の指示句 44、105  
Enterprise Vault 8.0 の指示句 44  
Enterprise Vault 8.0 の静止 48  
Enterprise Vault Agent  
    コンポーネント  
        アーカイブ 11  
Enterprise Vault Agent の機能と EV 7.5 以降のサポート 111  
Enterprise Vault Agent のトラブルシューティング  
    デバッグログ  
        状態レポート 113  
Enterprise Vault Agent のポリシー  
    [バックアップ対象 (Backup Selections)]タブ 42  
Enterprise Vault Agent のユーザー credenシヤル 32  
Enterprise Vault FSA レポート用データベースのリストア 79  
Enterprise Vault Migrator  
    バックアップポリシーの構成 126  
    ログ収集 143  
Enterprise Vault Migrator のトラブルシューティング 141  
Enterprise Vault SQL データベース 65、68  
Enterprise Vault SQL データベースのコンポーネントのリストア  
    FSA レポート用データベース 83  
    監査データベース 83  
    監視データベース 83  
    ディレクトリデータベース 83  
    フィンガープリントデータベース 83

    ボルトストアデータベース 83

Enterprise Vault SQL データベースのリストア 79  
    FSA レポート用データベース 79  
    監査データベース 79  
    監視データベース 79  
    ディレクトリデータベース 79  
    フィンガープリントデータベース 79  
    ボルトストアデータベース 79  
Enterprise Vault 移行済みデータのリストア 138  
Enterprise Vault インデックスサービス 16  
Enterprise Vault 監査データベース 57  
Enterprise Vault 監査データベースのリストア 79  
Enterprise Vault 監視データベースのリストア 79  
Enterprise Vault サイトの指示句 56  
Enterprise Vault サイトのリカバリ 88  
Enterprise Vault サーバーの指示句 56  
Enterprise Vault サーバーのリカバリ 97  
Enterprise Vault サーバーのログオンアカウント 33  
Enterprise Vault サービス  
    インデックスサービス 48  
    ショッピングサービス 48  
    ストレージサービス 48  
    タスク制御サービス 48  
Enterprise Vault ストレージサービス 16  
Enterprise Vault セカンダリストレージ 138  
Enterprise Vault ツール 91、100、108  
Enterprise Vault ディレクトリデータベースのリストア 79  
Enterprise Vault のイベント 146  
Enterprise Vault のインデックスの場所 54、58  
Enterprise Vault の構成  
    収集  
        移行 131  
Enterprise Vault の指示句 53  
    7.5 の指示句  
        8.0 の指示句 27、54  
    8.0 の指示句  
        バックアップ対象 56  
Enterprise Vault のディザスタリカバリ 64  
Enterprise Vault のデータのリストア 64、68  
Enterprise Vault のバックアップ  
    NetBackup アクティビティモニターから 61  
    手動バックアップ 60

Enterprise Vault のバックアップポリシー  
 ポリシー形式 37

Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネント 69

Enterprise Vault のインデックス 76

オープンパーティション 76

クローズパーティション 76

準備完了パーティション 76

Enterprise Vault のファイルシステムのコンポーネントの  
 リストア 77

Enterprise Vault のファイルシステムのデータ 65、68

Enterprise Vault のファイルシステムのデータのリスト  
 ア 76

Enterprise Vault のボルトストア 54

Enterprise Vault のボルトストアデータベース 59

Enterprise Vault のリストアオプション  
 [全般 (General)] タブ 69

データベース設定のタブ 71

Enterprise Vault のログ

Enterprise Vault Migrator  
 Dtrace.exe アプリケーション 143

Enterprise Vault パーティションのリカバリ 96

Enterprise Vault フィンガープリントデータベースのリスト  
 ア 79

Enterprise Vault ボルトストアデータベースのリストア 79

EV\_AUDIT\_DB 29

EV\_FINGERPRINT\_DB 29

EV\_FSAREPORTING\_DB 29

## F

FSA レポートデータベースのリカバリ 90

FSA レポート用データベース 58

## J

Java インターフェース 31

## M

Microsoft Common Internet File System (CIFS) 16

Microsoft Core XML Services 16

Migrator の登録 132

手動登録 133

Migrator のトラブルシューティングのテクニック 141

移行の構成 142

データアーカイブ 141

データ収集 141

データの移行 143

Migrator のバージョン情報 141

## N

NetBackup に対する Migrator 通信

VxBSA モジュール

VxBSA ログ 147

NetBackup のトラブルシューティングの状態コード 117

状態コード 13 118

状態コード 156 120

状態コード 1800 123

状態コード 2 117

状態コード 39 118

状態コード 59 119

状態コード 69 120

NetBackup ログ 147

## P

PartitionSecuredNotification.xml ファイル 51

## S

SQL データベース

Enterprise Vault のボルトストアデータベース 55

監視データベース 54、57

ディレクトリデータベース 54、57

## W

Windows インターフェース 31

## あ

アーカイブビットの属性オプション 52

新しいポリシーの追加 37、127

アップグレードのシナリオ 25

移行済み Enterprise Vault ログの収集 147

移行済みデータのリストア

コマンドラインインターフェースを使用 139

バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーイン  
 ターフェースの使用 140

移行の基準の指定 131

一貫性

インデックスの場所 103

クローズパーティションおよび準備完了パーティシ  
 ョン 102

ディレクトリデータベース 103

データベース

オープンパーティションデータベース 102

フィンガープリントデータベース 102

ボルトストアデータベース 102

一貫性チェック 71、73

イベントビューア 146

## インストール

- プラットフォームの互換性 20
- ライセンスキーの追加 24
- インストールの要件 20
- インデックスの場所のリカバリ 91
- オープンパーティション 55
- オープンパーティションの指示句 58

## か

- 監査データベースのリカバリ 89
- 監視データベースのリカバリ 91
- 完全バックアップ 72、80
- クライアント名 46
- クローズパーティション 55
- クローズパーティションの指示句 59
- 構成
  - ローカルメディアサーバー 35
- 互換性情報 20
- 異なるシステムの Enterprise Vault サーバーのリカバリ 98
- 個別静止
  - バックアップモード 49

## さ

- 最大ジョブ数パラメータ 39
- 差分増分バックアップ 42
- 差分バックアップ 72、81
- 指定した時点 (PIT) へのリストア 71
- 指定した時点までのリカバリ (Recover up to a point in time) 73
- 収集基準の指定 131
- 準備完了パーティションの指示句 59
- 進捗レポート 117
- 推奨する使用方法
  - Enterprise Vault Agent のバックアップ 108
  - Enterprise Vault Agent のリストア 110
- スケジュール
  - 追加 39
- スケジュールでのバックアップ処理時間帯の指定 129
- スナップショット 33
  - 最大数
    - MaxSnapshotPerJob 34
- セーフコピー、管理 51
- 操作レポート 116
- ソケットバッファサイズ
  - バッファサイズの変更
    - バッファサイズの設定 110

## た

- 代替 SQL リストア 71
- ディザスタリカバリの要件 87
- ディレクトリデータベースのリカバリ 89
- デバッグレベルの設定 115
- デバッグログ 113
- デバッグログの有効化 114

## は

- バックアップ
  - 完全バックアップ 40
  - 差分増分バックアップ (Differential Incremental Backup) 42
  - バックアップ形式 40
  - 累積増分バックアップ 41
- バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェース 64、77、80、115、139
  - [すべてのフォルダ (All Folders)] ペイン
    - [NetBackup の履歴 (NetBackup History)] ペイン 65
- バックアップイメージのリストアセット 80～82
- バックアップスケジュール 36、106
- バックアップデータの表示
  - Microsoft SQL Server Management Studio を使用 66
  - バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用 65
- バックアップポリシー (Backup policy)
  - バックアップスケジュール
    - バックアップ対象 36
  - バックアップポリシーの構成ウィザード 37、127
  - パーティションの安全通知ファイル 51
  - フィンガープリントデータベース 60
  - フィンガープリントデータベースのリカバリ 93
  - 複数のクライアント 46
  - 複数のクライアントの許可 46
  - プラットフォームの互換性 20
- ポリシー
  - スケジュール 39
  - ポリシー形式 39
  - ポリシー属性 36
  - ポリシーの検証 38
  - ポリシーの構成
    - Enterprise Vault 8.0 102
    - 属性 38
  - ポリシーの作成
    - Enterprise Vault 7.5 105
  - ポリシーの追加
    - クライアント名 45

ポリシーへのクライアントの追加 130  
ボルトストアグループのリカバリ 92  
ボルトストアデータベースのリカバリ 95  
ボルトストアパーティションのリカバリ 95

## や

有用なヒント 111

## ら

ライセンスキー、追加 25  
リストア  
    Enterprise Vault Resources 69、84  
リストア完了後のデータベースの状態 (Restore  
    completion state) 72  
リストア用サーバーの指定  
    クライアント  
        ポリシー形式 74  
リダイレクトリストア 73  
累積バックアップ 72、81